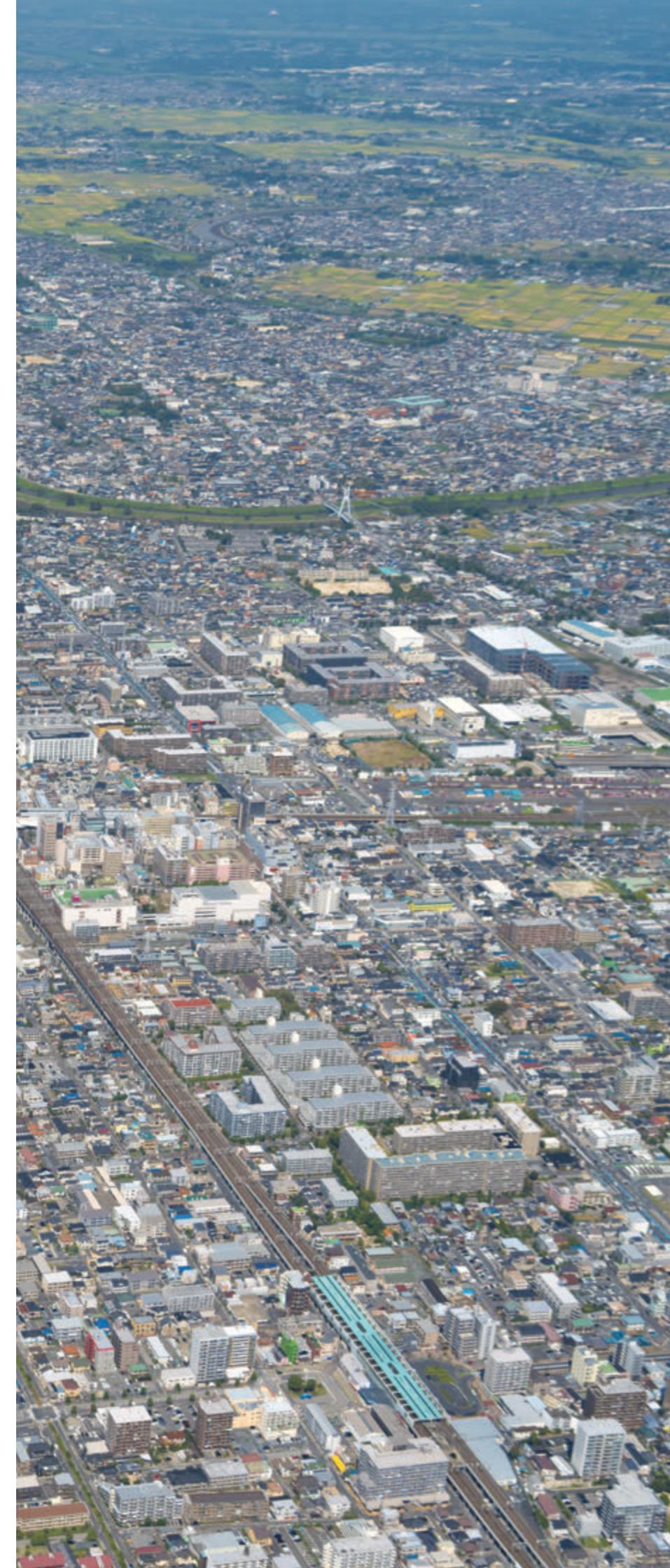


越谷市制施行

KOSHIGAYA CITY 60TH ANNIVERSARY

60周年





I N D E X

第1章 越谷市 60 年のあゆみ 4

年表	6
古代	6
中世	7
近世	8
近代	9
昭和 30 年代	10
昭和 40 年代	14
昭和 50 年代	18
昭和 60 年～平成 6 年	22
平成 7 年～平成 20 年	26
平成 21 年～平成 30 年	30
越谷市 この 10 年間の変遷	34
越谷今昔物語	42
あの頃、あの時、懐かしの写真集	48

第2章 越谷の観光 58

越谷で触れる四季と“らしさ”	58
いつまでも残したい風景	64
いつまでも残したい自然	66

第3章 越谷の文化財・史跡・伝統 70

いにしへの越谷を伝える	70
越谷の伝承を歌う	74

第4章 越谷の産業 76

伝統工芸	76
農産物	84

第5章 越谷ゆかりの著名人 88

こしがやの歴史を支えた人物館	88
わたしと越谷市	92

第6章 未来の越谷 99

子どもたちの写真コーナー	99
小学生の絵画	102
中学生の作文	114

第7章 データでみる越谷 128



市制施行 60 周年

市民に愛され、
市民が誇れる越谷を目指して

越谷市長 高橋 努

越谷市は、本年、市制施行60周年という記念すべき年を迎えました。多くの河川や水路が流れる本市は、古くから「水郷こしがや」としてたくさんの方に親しまれ、江戸時代には、日光道中第三の宿場町としてもにぎわいをみせ、今も市内にその名残をとどめるなど、豊かな自然と歴史が融合したまちです。

昭和33年に「越谷市」が誕生した当時、人口4万8318人であった本市は、昭和40年以降、首都近郊のベッドタウンとして大きく変貌し、平成27年には、さらなる市民サービスの向上を目指して、県内で2番目の中核市となり、市民参加と協働によるまちづくりに鋭意取り組んでいます。

現在、本市の人口は約34万2000人で、県南東部地域の中核都市として成長を続けていますが、現在の本市の発展があるのも、先人たちの努力と熱意があつてのものであり、まちづくりに取り組まれた皆様には、心より感謝を申し上げる次第です。近年、越谷レイクタウンのまちびらきや、越谷駅東口再開発事業の完成、越谷ナンバーの交付開始など、「越谷市に住んでよかった、これからも住み続けたい」と愛着のもてる取り組みを進めてまいりましたが、今後も、将来にわたり、市民の皆様が、笑顔で、安全・安心、そして、いきいきと暮らせるまちづくりに、全力を傾注してまいります。

このたび、本市のこれまでの歩みを中心に、記念誌を発行いたしました。越谷市制施行60周年記念事業推進市民委員会の皆様をはじめ、ご協力いただきました関係皆様のご尽力に深く感謝を申し上げますとともに、この記念誌を手にとっていたいただいた皆様が、今後とも、ふるさと越谷に、より一層の愛着と誇りを持っていただければ幸いに存じます。

市制施行 60 周年を祝して

越谷市議会議長 武藤 智



越谷市制施行60周年、誠にめでたくございます。この記念すべき慶事を、34万市民の皆様とともに祝いできることを大変喜ばしく思います。

本市は昭和33年11月に市制を施行し、今年で60年になります。古くから「水郷こしがや」として親しまれており、水と緑豊かな自然環境とが調和したまちづくりが着実に進められてきました。

平成20年にまちびらきした越谷レイクタウンも、今年で年間5000万人を超える方々が訪れるなど、めざましく発展しつつあり、さらに平成27年4月には、多様化・高度化する市民のニーズにも対応し、より積極的な市政運営の実現を目指すため、県内2番目となる中核市に移行し、関東部地域の中心都市として着実に成長しております。

今日の発展の陰には、まちづくりに向けた先人たちのたゆまない努力と情熱があったからこそと考えており、ここに改めて感謝を申し上げます。そして、今後とも新しい時代にふさわしい越谷市の発展のために、一層のご協力を賜りますように念願する次第であります。市議会といたしましても、引き続き市民に開かれた議会を目指して、議会活性化の取り組みを継続的に進め、市民の負託に応えるべく更なる努力を重ねてまいりますので、引き続き市民皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

このたび発行されます記念誌は、60周年を機に、今日の越谷を築かれた先人たちの偉業に思いをはせ、将来のまちづくりへの決意を新たにすうえで大変意義深いものであると考えております。編集委員の皆様をはじめ、ご協力いただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げます、お祝いの言葉といたします。

市民全員で市制施行 60 周年を祝う

越谷市制施行60周年記念事業推進市民委員会委員長 石崎 一宏



越谷市制施行60周年を心からお祝い申し上げます。越谷市制施行60年は、市民と行政が手を取り合いながら、市の発展に向け、歩いてきた60年だと考えております。

越谷市は、交通網の発達とともに首都近郊のベッドタウンとして人口が急増し、発展を遂げてきました。特に近年では、JR武蔵野線の越谷レイクタウン駅の開業とともに、さらに人口が増加し、地域住民の連帯意識の希薄化が地域の課題となるなか、自治会やスポーツ・レクリエーション活動を通じて住民同士の交流が深められ、地域づくりが進められています。

このたび、市制施行60周年を市民全員でお祝いするため、平成29年6月に「越谷市制施行60周年記念事業推進市民委員会」を組織いたしました。市民委員会は、多くの市民やさまざまな団体と連携し、記念事業を企画・運営することを目的としています。

今回、編集発行いたしましたこの記念誌も、市民委員会の記念誌・広報部会が中心となり編集したものでございます。編集にあたりまして、市民の皆様から多くの貴重な写真をいただいたほか、市内の小学生から「未来の越谷く大好きな地域の未来の風景」を描いた絵画、中学生から「10年後の自分へ」の作文をご提供いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

結びに、越谷市のますますの発展をご祈念申し上げますとともに、この記念誌が越谷市を理解する一助となれば幸いです。

第1章

越谷市
60年の

あゆみ

1958-2018



AYA HISTORY



越谷市制施行記念式典(昭和33年)

THE KOSHIGI

古くは海の中、中妻の地から土器

古代

今から約4000〜5000年前、縄文時代後期のころ、越谷を含む現在の海抜約10メートルまでの地は海の中にありました。約3000年前になると、地球の気温が現在のような温度に下がり、海が後退し、河川によって運ばれた土砂によって沖積地が形成されました。

人々は丘陵地や台地から稲作に適した沖積地に移り住み、自然堤防に集落を構成し農業を始めるようになりました。こうした中で、越谷に人々が住みつくようになったのは、増林地区の中妻の地から集落跡や土器が発見されたことから、古墳時代前期であると推定されます。

その後、大和朝廷により国や郡が設けられ、当時、越谷は元荒川を境に武蔵国と下総国、綾瀬川を境に武蔵国埼玉郡と足立郡に分けられていました。このころ大相模郷に天平勝宝2年(750)に大聖寺が、貞観2年(860)に野島の浄山寺が創建されたと伝えられています。



▲大聖寺(相模町)



▲見田方遺跡から出土した土器

16世紀	15世紀	14世紀	13世紀	12世紀	11世紀	10世紀	9世紀	8世紀	6世紀	3世紀
1586	1478	1333	1249	1194	1040	939	860	771	750	3世紀後半
天正14	永禄5	元弘3	建長元	建久5	長久寛徳年間	天慶2	貞観2	宝亀2	天平勝宝2	6世紀後半
岩槻城代北条氏繁、大相模不動院に 太田氏房、大相模不動院に禁制を 発す	越谷(谷)の領地を安堵する 呑龍上人、平方の林西寺に入り剃髪 する	鎌倉北条氏滅亡 足利尊氏、大泊安国寺に利生塔を造 塔したと伝える	(現在の御殿町) 金沢称名寺文書新方検見帳に恩間の 地名が載せられている	大河土御厨(越谷の一部を含む八条領 など)と越ヶ谷久伊豆宮神人との争 いが起きる	野与党の一族古志賀谷二郎為基や大 相模二郎能高が越谷に定住	平将門、王城を建設、新皇と称した 大沢(現在の北越谷)の浅間社が勧請 されたと伝える	野島に天台宗慈福寺(現在の曹洞宗 浄山寺)が創建されたと伝える	武蔵国は東山道より東海道に編入 される。以来奥州海道、甲州海道な ど海道と称された	大相模不動坊(相模町大聖寺)が創建 されたと伝える	増林中妻(増林一丁目)に古墳時代前 期の集落がつくられ、人々の生活が営 まれるようになった 見田方(大成町)に古墳時代後期の集 落がつくられる

中世の動乱と板碑

中世

平安末期から鎌倉期にかけて武士が登場しましたが、この武士を中心に新田開発が進められていきました。越谷には武蔵七党のうち野与党の一族に古志賀谷(越谷)二郎為基、大相模二郎などの名がみられます。

また、中世には生前に死後の冥福を願って立てられた石の塔婆が数多く建立されています。これを板石塔婆とも板碑ともいいます。越谷ではこの板碑は建長元年(1249)銘のものをはじめ200基以上が確認されており、当時の人々の生活の一端をうかがうことができます。子育てで有名な呑龍上人が住職を務めていた平方の林西寺をはじめ、迎摂院、安国寺、天獄寺など市内の主な寺院は、中世の開山を伝えています。

鎌倉期から南北朝を経て戦国時代を迎え、天正2年(1574)の上杉謙信の関東撤退後は北条氏が関東を制覇することになりました。



▲天獄寺(越ヶ谷)



▲建長元年板碑(御殿町)

18世紀		17世紀		16世紀	
1783	天明3	1660	寛文2	1600	慶長5
1780	安永9	1662	寛文2	1602	7
1762	宝暦12	1680	延宝8	1603	8
1742	寛保2	1695	元禄8	1604	9
1716	享保元	1698	11	1617	元和3
1704	宝永元	1698	11	1625	寛永2
1700	3	1698	11	1629	6
1698	3	1698	11	1630	7
1696	9	1698	11	1641	18
1695	9	1698	11	1657	明暦3
1680	9	1698	11	1660	万治3
1662	9	1698	11	1662	見田方・南百・千足・四条・麦塚・柿ノ木、後に東方が忍藩領になる
1660	9	1698	11	1662	小菅村から隅田村までの新綾瀬川開通。綾瀬川は排水河川となる
1657	9	1698	11	1662	幸手用水路(葛西用水)が開かれる
1641	9	1698	11	1662	丸に移される
1630	9	1698	11	1662	関宿より金杉間の新江戸川開通
1629	9	1698	11	1662	江戸城焼失、越ヶ谷御殿が江戸城二の丸に移される
1625	9	1698	11	1662	三野宮・大道・大竹・恩間を岩槻藩領とする
1617	9	1698	11	1662	荒川を入間川筋に瀬替。熊谷からの荒川は元荒川と称された
1604	9	1698	11	1662	草加宿成立。日光道中はほぼ旧4号国道筋になる
1603	9	1698	11	1662	家康が越ヶ谷御殿を造成(現在の御殿町)
1600	9	1698	11	1662	家康、江戸に幕府を開く
1600	9	1698	11	1662	家康廟を日光山に改葬。以来、奥州海道の手住宇都宮を日光道中と呼ぶようになる
1594	9	1698	11	1662	このころ奥州海道を公道に指定。四丁野村の一部に越ヶ谷宿が取立てられる
1590	9	1698	11	1662	関ヶ原戦の勝利で家康天下に君臨
	9	1698	11	1662	伊奈忠次、利根川を太田川(江戸川筋)に付替え。これ以降、鷲宮以南の利根川は廢川となり古利根川となっていく
	9	1698	11	1662	18
	9	1698	11	1662	小田原北条氏滅亡。代わって徳川家康関東移封江戸城を本城とするよう命ぜられる

越谷市誕生。

そして人口急増へ

昭和30年代

昭和28年（1953）、町村合併促進法が施行され、町村合併の気運が高まる中、昭和29年11月に越谷地区2町8力村が合併して、越谷町となりました。昭和30年9月には、町役場新庁舎が越ヶ谷一丁目に完成しました。その後、草加町の伊原、麦塚、上谷の越谷町への編入を経て、昭和33年11月3日、県下で22番目、全国で543番目に市制が施行され人口4万8318人の越谷市が誕生しました。

当時の暮らしに目を向けると、昭和31年に経済企画庁（現在の内閣府）から発表された経済白書の副題には「もはや戦後ではない」と記されており、日本経済は高度成長へと進み出しました。昭和35年には、人口が5万人を突破しました。また、人口の増加に合わせて地下鉄日比谷線が北越谷駅まで相互乗り入れ、首都圏のベッドタウンとして、その後の人口の急増時代を迎えることとなります。東



▲越谷町合併3周年記念式典(昭和32年)

昭和32年(1957)		昭和31年(1956)				昭和30年(1955)								
7月	4月	12月	10月	8月	4月	2月	1月		11月	10月	9月	4月	3月	1月
大袋地区に集回赤痢発生、2618人が強制検査（保菌者102人）	出羽地区に町立第1診療所が完成 増林・大相模の中学校2校が合併し、越谷町初の統合中学として東中学校が開校	武州大沢駅が北越谷駅と改称される 第1回町内一周駅伝競走が行われる 新方向畑と松伏を結ぶ堂面橋が完成	平方と春日部赤沼を結ぶ古利根橋が完成 第1回町民体育祭が開催される	大相模西方と増林東小林を結ぶ不動橋が完成	商工会が元荒川堤（南荻島く瓦曾根堰）に桜の苗木1300本を植える	各地区の農業共済組合が統合される	越谷周辺に生息する「シラコバト」が国の天然記念物に指定される		草加町の伊原、麦塚、上谷を越谷町に編入	合併後初の町議会議員選挙が行われ、議員30人が選出される	町役場新庁舎が越ヶ谷一丁目完成、越谷町合併・役場庁舎竣工の祝賀式典が執り行われる	町役場新庁舎が越ヶ谷一丁目完成、越谷町合併・役場庁舎竣工の祝賀式典が執り行われる	消防団（10分団）が結成される 体育協会が発足 社会福祉協議会が発足 連合婦人会が発足	「越谷町」の町章が決定される 商工会が設立される

国連総会で日本の加盟を可決。日ソ国交回復



▲第1回町内一周駅伝競走(昭和31年)



▲越谷町役場庁舎(後の市役所庁舎)(昭和30年)

京五輪開催で日本中が沸いた昭和39年、マイカー時代の到来に合わせて道路整備が進められ国道4号・草加バイパスの工事が始まりました。



▲越ヶ谷中学校(当時)の校庭で行われた第1回町民体育祭(昭和31年)

昭和34年(1959)				昭和33年(1958)				昭和32年(1957)							
9月	8月	5月	4月	12月	11月	9月	6月	5月	3月	12月	11月	9月	8月		
大袋地区の簡易水道の通水式が行われる 初の鉄筋コンクリート造り校舎が中央中学校に完成	国際興業バス、越谷〜大宮間(大門野田経由)バス路線の運転を開始	宮前橋が完成	越ヶ谷中学校と大沢中学校を統合、中央中学校が開校する	初の市長選(無投票)において大塚伴鹿氏が当選 市制施行後初の市議会が庁舎会議室で開かれる	市制が施行される(人口4万8318人) 市制施行記念式典が執り行われる 第1回郷土物産大品評会を開催 福祉事務所が設置される	青少年補導委員会が発足 文化財保護条例が制定される	大沢交差点に初の自動信号機が設置 三野宮橋が完成	越谷上水道が通水される	定例町議会で町税条例の一部が改正され、都市計画税が課税される	上水道工事に着手	合併3周年記念行事が開かれ、越谷音頭を発表	建設省から都市計画の指定を受ける	町初の舗装道路完成。越谷駅前から赤山街道に通じる町道(弥生町)で、幅5・85メートル、延長140メートル 大袋小学校にプール第1号が完成		
				<p>日中貿易全面停止。1万円札が発行される。東京タワー、国立競技場が完成。岩戸景氣が始まる</p>								<p>5000円札、100円硬貨が発行される。ソ連が世界初の人工衛星打ち上げに成功。南極観測隊が上陸し、昭和基地を建設</p>			

昭和30年代



▲安全都市宣言(昭和37年)



▲北越谷地区土地区画整理事業(昭和37年)

昭和37年	昭和36年(1961)	昭和35年(1960)	昭和34年(1959)
1月	11月	11月	10月
<p>開発公社が設立される</p> <p>全国初の子宮がん集団検診が行われる</p> <p>北越谷地区で初の土地区画整理事業に着手</p>	<p>増林浄水場が完成</p> <p>第1体育館が完成</p> <p>警察署庁舎が新築移転(大沢)</p> <p>越谷で全国初の胃ガン集団検診始まる</p>	<p>越谷郵便局が特定局から普通局に昇格</p> <p>御殿町から瓦曽根溜井まで、葛西用水と元荒川の分離工事が始まる</p> <p>安保条約改定反対デモ激化。池田内閣が「国民所得倍増計画」を策定。NHK・民放4社がカラーテレビ放送を開始</p> <p>草加・越谷清掃組合が設立される</p> <p>越谷で全国初の胃ガン集団検診始まる</p>	<p>市制施行後初の市議会議員選挙が行われる</p> <p>市消防署が新築開署、消防車を購入する</p> <p>都市計画の基本計画が策定される</p> <p>皇太子明仁親王が正田美智子さんとご成婚。伊勢湾台風で死者・不明者5098人。テレビの普及台数が増える</p> <p>新方中学校、桜井中学校、大袋中学校を統合し、北中学校が開校</p> <p>蒲生中学校を南中学校と改称する</p> <p>越谷松伏水道組合が発足</p> <p>越谷郵便局舎が越ヶ谷に完成</p> <p>園芸組合連合会が発足</p> <p>防犯協会が発足</p> <p>越ヶ谷小学校にプールが完成</p> <p>人口が5万人を突破</p> <p>工業連合会が結成される</p> <p>商工会が法制商工会となる</p> <p>越谷郵便局が特定局から普通局に昇格</p> <p>御殿町から瓦曽根溜井まで、葛西用水と元荒川の分離工事が始まる</p>



▲下水道事業(昭和39年)



▲越ヶ谷商店街(越ヶ谷本町・中町)(昭和30年代)

昭和39年(1964)				昭和38年(1963)				昭和37年(1962)									
10月	8月	6月	4月	8月	7月	6月	4月	3月	11月	9月	5月	4月	3月				
オリピック東京大会が開催。東海道新幹線(東京駅〜新大阪駅)が開通。新潟地震が発生	農業協同組合の建物(赤山町)に完成	地下鉄日比谷線が中目黒まで全線開通 国道4号バイパスの工事が始まる 30年計画で下水道事業に着手	市営火葬場が登戸町に完成 都市計画法により市内の用途地域を指定 自治会連合会が発足	ケネディ米大統領が暗殺される。 名神高速道路(尼崎IC〜栗東IC)が開通。黒部川第四発電所(黒四ダム)が完成	稲の害虫防除としてヘリコプターによる初の農業散布が行われる	青少年問題協議会が発足	蒲生地区の一部を除き商店の週休制が実施される	歯科医師の山崎清氏が初の名誉市民となる	出羽中学校、荻島中学校を統合し、西中学校が開校 定野橋の架け替え完成	農業振興特別指導事項が実施される	市内11農協が合併し、越谷市農業協同組合が発足 越谷電報電話局庁舎が完成し、市内の電話がダイヤル式になる	堀江謙一氏が小型ヨットで単独太平洋横断に成功。当時、日本最長の北陸トンネルが開通。テレビ受信契約が1000万件を突破	市長選(無投票)において大塚伴鹿氏が再選	草加・越谷こみ焼却場が完成	大相模見田方耕地で古墳時代の土器発見 消防署で救急車が購入され、救急活動開始 地下鉄日比谷線が北越谷駅まで相互乗り入れ	東武ガスが1600戸に都市ガスの供給を始める	安全都市宣言をする

昭和40年代

日本の経済成長とともに

都市化するまち

農地の宅地化や地下鉄日比谷線の東武伊勢崎線への相互乗り入れなどに伴い、昭和42年（1967）には、人口が10万人を突破しました。都市化の進展でまちの様子も大きく変わり、人口の急増は、まちを活性化させる反面、さまざまな問題を抱えました。農地の埋め立てによる無秩序な住宅地の拡大、地下水の汲み上げによる地盤沈下、排水不良による浸水被害、汚水流出による河川の汚濁、交通事故や防災上の問題、学校や医療施設などの不足が生じてきました。これらに対応するため、市ではさまざまな方策が進められました。増え続ける人口に追われるようなまちづくりの時代が続きました。

一方、昭和42年には埼玉県体が開催され、越谷市ではバドミントン競技が行われました。また、この年、国道4号（草加バイパス）が開通し、高度経済成長に



▲現在の市役所庁舎が完成（昭和44年）

昭和42年(1967)			昭和41年(1966)				昭和40年(1965)								
10月	9月	5月	4月	12月	11月	10月	6月	5月	4月	1月	11月	10月	9月	5月	3月
人口が10万人を突破 埼玉県開幕、バドミントン競技が第1・第2体育館で行われる	消防署庁舎が完成	北越谷地区土地区画整理事業の記念会館（後の北越谷公民館）が完成	せんげん台駅が開業 川柳小学校が開校 越谷松伏水道組合が越谷松伏水道企業団に名称を変更 東部清掃組合にし尿処理場が完成 不動橋架け替え完成	中国で文化大革命が始まる。いざなぎ景気が始まる。ビートルズが来日 大相模見田方遺跡の発掘調査開始	市長選（無投票）において大塚伴鹿氏が3選 国道4号（草加バイパス）の舗装工事が始まる	平和橋の架橋工事が始まる	越谷駅前通りがほぼ完成	武蔵野東線（現在のJR武蔵野線）が市内で着工 商工会と工業連合が合併し、新商工会が発足 新平和橋が完成 出津橋が完成	立正女子大学（現在の文教大学）が開校 南部浄水場が完成	朝永振一郎氏がノーベル物理学賞を受賞。日韓基本条約調印。ベトナム戦争で米軍による北爆が開始	県民の鳥に「シラコバト」決定	埼玉県東部清掃組合が発足	福祉会館が完成し、市立図書館が同館内に移転 初の横断歩道橋が越ヶ谷観音横町（現在の越ヶ谷三丁目）に完成	大沢・大房の一部で市内初の新住居表示が施行される	初の市営住宅が大袋に建設される



▲大袋にできた初の市営住宅(昭和40年)

伴い増える交通量に対応しました。さらに、現在の市庁舎が完成、市制施行10周年を祝う式典とともに新築落成記念式典が執り行われました。



▲福祉会館(昭和40年)

昭和44年(1969)					昭和43年(1968)					昭和42年					
11月	10月	9月	6月	5月	4月	3月	12月	11月	8月	5月	4月	2月	1月	12月	
北部浄水場が完成	市役所に市民相談室を開設	元助役の池ノ谷与一郎氏が名誉市民になる 給食センターが完成。市内中学校5校、小学校5校に給食の配送を開始	市制施行10周年並びに市庁舎新築落成記念式典が執り行われる	養護老人ホーム「順正苑」が開設 県越谷保健所、県越谷土木事務所が開所	浦生第二小学校(校舎は浦生小学校)、県立越谷北高等学校が開校 越谷市水道事業と越谷松伏水道企業団が合併。越谷・松伏水道企業団となる	瓦曽根溜井埋立地に市役所庁舎並びに県合同庁舎が完成	川端康成氏がノーベル文学賞を受賞。三億円強奪事件が発生。小笠原諸島がアメリカから返還される(地)	国民健康保険施行30周年を迎える(越谷は国保発祥の地)	社会福祉協議会が社会福祉法人となる	市制施行10周年を迎える	東小林汚水処理場が完成	市役所に交通事故相談所を開設 蒲生、大里でみどりの箱を設置し、県内初の機械化によるごみ収集が行われる	南越谷小学校が開校 市独自の宅地造成事業協議基準が設置される 市史編さん事業に着手 戸籍謄・抄本、住民票の写しの交付の電話受付が始まる	市民交通傷害保険制度が発足 東部清掃組合のごみ焼却場が完成 市史編さん事業に着手	国道4号(草加バイパス)(足立区保木間〜越谷市下間久里)が全線開通 ヨーロッパ共同体(EEC)が発足。イタイイタイ病が発生

昭和40年代



▲見田方遺跡発掘(昭和41年)



▲消防署庁舎(昭和42年)

昭和47年(1972)				昭和46年(1971)				昭和45年(1970)				昭和44年							
8月	6月	5月	4月	12月	11月	9月	6月	4月	2月	12月	11月	10月	8月	4月	3月	2月	1月	12月	
戦後初の花火大会が元荒川で開催				越谷市総合振興計画の基本構想が策定される				三野宮橋の架け替え完成				大袋北小学校(校舎は大袋小学校)、富士中学校が開校				環境庁を設置。円が変動相場制へ移行			
				第1回農業祭が第1体育館で開催				第1回交通安全市民集会を開催				第1回商工物産展が第1体育館で開催				第1回市民文化祭が開催			
				県立越谷青年の家が開所 人口が15万人を突破				大沢北小学校が開校 精神薄弱児(現在の知的障害児)通園施設「みのり学園」が開設される				消防署谷中分署が開署				大阪で日本万国博覧会(EXPO'70)が開催。日航機よど号ハイジャック事件。三島由紀夫が割腹自殺。人口が初めて1億人を超える(第11回国勢調査より)			
												神明橋が開通				大塚伴鹿氏が市長退任			
												ごみ収集区域が市内全域になる				市長選において島村平市郎氏が当選			
												埼玉県東部地区の4市5町による埼玉東部広域行政協議会が発足				新都市計画法による市街化区域と調整区域が決まる			
												図書館で図書の巡回貸し出し始まる				南中学校が移転、東越谷小学校(校舎は越ヶ谷小学校と増林小学校)が開校			
												堂面橋の架け替え完成				堂面橋の架け替え完成			
												文化連盟が設立				アポロ11号が人類初の月面着陸。東名高速道路(東京IC〜小牧IC)が全面開通。大学紛争が激化し、東大安田講堂が占拠され機動隊が出動			
																レクリエーション協会が設立			



▲市制施行10周年並びに市庁舎新築落成記念式典(昭和44年)



▲移動図書館しらかばと号(昭和48年)

昭和49年(1974)					昭和48年(1973)					昭和47年						
11月	9月	7月	6月	5月	4月	3月	1月	12月	11月	10月	4月	3月	2月	1月	12月	
佐藤栄作氏がノーベル平和賞を受賞。長島茂雄選手が現役引退。高校進学率が90%を超える	スポーツ・レクリエーション都市宣言をする	寝たきり老人のための移動浴そう車「しあわせ号」がスタート	東武伊勢崎線新越谷駅が開業	北越谷地区が行政区画となる 第二学校給食センターが完成 開発指導要綱が施行される	大袋東小学校(校舎は大袋小学校)、北陽中学校、県立越谷南高等学校が開校	市内初の土地区画整理事業が北越谷地区で完了	大沢・大袋・蒲生・南越谷の4小学校に市内で初めて学童保育室が開設	市役所に緊急処理センターが開設	市宮齋場が東町に完成	市長選において黒田重晴氏が当選	島村平市郎氏が市長退任	准看護学校が開校 越谷貨物ターミナル駅が開業	浦生南小学校、北越谷小学校(校舎は大沢小学校)が開校	消防署蒲生分署が開署	公害防止条例が制定される	戸籍謄・抄本、住民票の写しなどの取り次ぎ店を市内5カ所に設置
																冬季オリンピック札幌大会が開催。連合赤軍浅間山荘事件。沖縄が本土に復帰。日中国交が回復

昭和50年代

福祉・医療の充実と

快適な生活へ

昭和50年代に入ると、住民の医療や福祉に重点が置かれ、重度心身障がい者の医療費の無料化や看護専門学校の開校、市立病院の開院がありました。人口は年々増加し、昭和51年（1976）には、20万人を突破しました。また、人口の増加に伴い小・中学校が各地域で相次いで開校されました。市制施行20周年となる昭和53年には、「越谷市民であることに誇りと責任を持ち、水と緑と太陽に恵まれた豊かなまちを築くため限らない願いをこめて」という市民憲章が制定されました。昭和54年には、市民のふれあいを目的に建設が進められていた越谷コミュニティセンターが開館し、市制施行20周年記念式典が盛大に執り行われました。昭和57年になるとせんげん台駅南陸橋が開通し、東西の往来が便利になりました。住みよい環境として、生活の利便性だけでなく快適性（アメニティ）が求められる



▲市立病院が開院(昭和51年)

昭和53年	昭和52年(1977)	昭和51年(1976)	昭和50年(1975)
2月	11月	11月	11月
1月	4月	9月	10月
	3月	4月	9月
		1月	4月
			3月
			2月
市立病院が越谷市医師会に加盟	王貞治選手が756号本塁打を打ち、初の国民栄誉賞を受賞。有珠山(北海道)が爆発。樋口久子選手が全米女子プロゴルフ選手権で初優勝	ロッキード事件が発生。鹿児島市立病院で日本初の五つ子が誕生	越谷市総合振興計画中期計画策定 初代市長の大塚伴鹿氏が3人目の名誉市民になる 平方小学校、弥栄小学校、大間野小学校が開校 蒲生第二小学校に障がい児学級を設置 市立高等看護学院(後の看護専門学校)が開校 第1回交通安全市民まつり(現在の越谷市民まつり)が開催 老人農園が開園 重度心身障がい者の医療費が無料になる スポーツ少年団が結成 第三セクターによる越谷コミュニティプラザ株式会社が発立される
	黒田重晴氏が市長退任	粗大ごみ処理センターが完成	東海道・山陽新幹線(東京駅〜博多駅)が全線開通。ベトナム戦争が終結。沖縄国際海洋博覧会が開催
	市立病院が開院	市立病院が開院	
	消防署間久里分署が開署	西方小学校、宮本小学校、栄進中学校が開校	
	東部清掃組合し尿処理場の総合脱臭装置が完成	肢体不自由児通園施設「あけぼの学園」が開園	
	国道4号(草加ハイパス)越谷〜春日部が開通	人口が20万人を突破	
	光陽中学校が開校		
	県立越谷養護学校が開校		
	市長選において島村慎市郎氏が当選		
	都市総合交通規制を実施		

昭和50年代



▲千間台駅南陸橋が開通(昭和57年)



▲第1回消費生活展(昭和58年)

昭和57年(1982)				昭和56年(1981)				昭和55年									
11月	9月	8月	6月	5月	4月	3月		11月	10月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月	
法務局が東越谷に開設	台風18号により市内に被害がでる	都市提携委員会が発足	福祉環境整備要綱が実施される 越谷アメニティ八景が市民投票で決定	シルバー人材センターが設立される	南体育館が開館 県立越谷東高等学校が開校	千間台駅南陸橋が開通 元教育長の秋山長作氏が4人目の名誉市民になる		福井謙一氏がノーベル化学賞を受賞。夕張炭鉱(北海道)で事故が発生	市長選において島村慎市郎氏が再選	台風24号により市内に被害がでる	福祉タクシー利用料金補助制度を開始 東部清掃組合第二工場し尿処理施設が完成	あだたら高原少年自然の家が福島県二本松市に開館	目の不自由な方へのガイドヘルパーが始まる	千間台小学校、桜井南小学校、新栄中学校が開校 地域体育館として初の北体育館が開館	第1回公民館フェスティバルが越谷コミュニティセンターで開催	見田方遺跡公園に郷土資料収納館が完成	葛西下流地区地盤沈下対策事業として古利根堰の改築に着手(対策事業は昭和54年6月にスタート)
																	イラン・イラク戦争が始まる。1億円拾得事件、オリンピックモスクワ大会に日米中独などが不参加



▲市立図書館が開館(昭和58年)



▲市制施行25周年・文化都市宣言記念式典(昭和58年)

昭和59年(1984)				昭和58年(1983)				昭和57年								
9月	5月	4月	3月	12月	11月	9月	7月	6月	5月	4月	3月	12月				
グリコ・森永事件。1万円、5000円、1000円の新札が発行される。NHKが衛星テレビ放送開始	越谷のだるまが「越谷張子だるま」として県伝統的手工芸品に指定される	西体育館が開館	千間台中学校が開校 老人福祉センター「けやき荘」が開館 建築行政全般を司る特定行政庁となる オーストラリアのニュー・サウス・ウェールズ州キャンベルタウン市と姉妹都市提携調印	越谷総合食品地方卸売市場が開場 第2次越谷市総合振興計画基本構想を策定	大韓航空機墜落事件。三宅山噴火。東京デイズ二ーランドが開園	消防署大相模分署が開署 越谷ひな人形が県伝統的手工芸品に指定される	第1回消費生活展を開催	移動図書館しらかばと号が2台になる	第1回伝統的地場産業合同展示会を開催	市制施行25周年・文化都市宣言記念式典が執り行われる	蒲生電話局が開局	第1回市民環境賞が決定	公共下水道が蒲生の一部で供用開始 大相模中学校が開校 市立図書館が東越谷に開館	環境管理計画を策定	日航機が羽田沖に墜落。新しく500円硬貨が発行される。東北新幹線、上越新幹線が開通	越谷警察署が東越谷に新築・移転 新方川改修が河川激甚災害対策特別緊急事業に採択される

昭和60年～平成6年

快適で便利な生活のため

都市基盤を整備

日本経済が安定成長に移行したころから人口の増加が落ち着きはじめ、スポーツや文化活動などの健康的で余暇を楽しむ生活が求められ、各施設の整備や各種団体の育成などの施策が進められました。昭和60年（1985）には、人口が25万人を突破しました。また、快適で便利な生活が営めるよう、道路や橋、公園、公共下水道、鉄道の複々線高架化工事など都市基盤の整備が進められました。昭和62年には、児童館コスモスの開館や県民健康福祉村のオープンがありました。昭和63年には、市制施行30周年を記念して「シラコバト」が市の鳥に制定されました。

平成に入ると東武鉄道伊勢崎線の連続立体交差事業が着工されました。平成3年（1991）には、近隣公園として全国初の本格的日本庭園「花田苑」が、平成5年には「こしがや能楽堂」が開



▲市制30周年記念式典(平成元年)

昭和62年(1987)				昭和61年(1986)				昭和60年(1985)											
7月	6月	5月	3月	11月	10月	8月	5月	4月	1月	11月	10月	9月	7月	5月	4月	3月	1月		
小鹿野町に市民保養施設「おがの山荘」を開設	せんげん台駅東口が放置自転車整理区域に指定される	児童館コスモスが開館 県民健康福祉村がオープンする	越ヶ谷久伊豆神社周辺と宮内庁埼玉鴨場を環境保全区域に指定	定使野橋が開通	スペースシャトル「チャレンジャー号」爆発。大島三原山大噴火。チエルノブイリ原発事故。東京サミットが開催	越谷駅前通りの電線埋設工事が始まる 新方川・綾瀬川が河川激甚災害対策特別緊急事業に採択される	あだたら高原「ふれあいの森」の植樹を開始 台風10号により市内に被害がでる	越谷郵便局の新局舎が完成 地裁裁簡易裁判所が東越谷に移転 県立越谷総合技術高等学校が開校 キャンベルタウン市からの初の公式使節団が来市	環境保全条例を施行	日航機が御巢鷹山(群馬県)に墜落。つくばで国際科学技術博覧会が開催	第1次行政改革大綱が策定される	誕生	市長選において島村慎市郎氏が3選	市立病院で世界初の卵管内受精による赤ちゃんが誕生	環境保全条例が制定される	全国初のふれあい公園(借地方式)制度を開始	人口が25万人を突破	防災行政無線を市内98カ所に設置 東部清掃組合第二工場ごみ処理施設が稼働	地盤沈下対策事業として逆川改修が始まる アメニータウン計画を策定



▲総合体育館が完成(昭和62年)

館しました。平成6年には、伊勢崎線の一部高架が開通し、元荒川以南の踏切8カ所が解消されました。また、市の鳥「シラコバト」をデザインしたしらこぼと橋が開通し、市のシンボルとなりました。



▲越谷駅前通りの電線埋設工事が行われる(昭和60年代)

平成元年(1989)	昭和63年(1988)	昭和62年(1987)
11月	11月	11月
10月	10月	9月
8月	8月	総合体育館が完成
7月	6月	東武鉄道伊勢崎線連続立体交差事業が計画決定される
4月	5月	利根川進氏がノーベル医学生理学賞を受賞。国鉄が分割民営化される
1月	4月	第一学校給食センターが新築
建設省から63年度インテリジェントシティの指定を受ける	3月	越谷梅林公園が開園
市制30周年記念式典が執り行われる	2月	さいたま博開幕、越谷ブースおよび伝統的手工芸品コーナーなどを設置
越谷都市計画都市高速鉄道東武鉄道伊勢崎線連続立体交差事業が着工開始	1月	県立越谷西養護学校が開校
越谷駅西口が開設	12月	姉妹都市キャンベルタウン市に茶室「越谷亭」を贈呈
市長選において島村慎市郎氏が4選	11月	市立病院が中国・丹東市第一医院と友好病院提携
初代越谷市長で名誉市民の大塚伴鹿氏の市葬が行われる	10月	保健センターが開館
昭和天皇崩御、平成に改元。消費税(3%)が導入される。ベルリンの壁崩壊。東京証券取引所の平均株価が史上最高値(3万8915円)をつける	8月	越谷市教育委員会とハワイ州教育局の教師相互派遣協定を調印
	7月	市立病院が中国・丹東市第一医院と友好病院提携
	6月	あだたら高原「ふれあいの森」の植樹が完了
	5月	市制施行30周年、「シラコバト」を市の鳥に制定
	4月	北部市民会館が開館
	3月	世界最長の青函トンネルが開通。東京ドームが完成

昭和60年～平成6年



▲日本庭園「花田苑」が開園(平成3年)



▲大吉調節池が完成(平成3年)

平成4年			平成3年(1991)							平成2年(1990)										
6月	4月	2月	12月	11月	10月	9月	8月	5月	4月	3月	10月	8月	7月	4月	3月	2月				
第1回子ども環境サミットを開催	テレビ広報番組「いきいき越谷」がスタート	中央市民会館が開館 向畑橋が開通	新栄橋が開通	湾岸戦争が始まる。雲仙普賢岳が約2000年ぶりに噴火。ソビエト連邦が消滅し、11の共和国へ	全国から約10000人が参加し、「地域づくり全国交流会議」を開催 貯水量40万トンの大吉調節池が完成	越谷市で初の国際会議「第7回日仏アムニティ会議」を開催	近隣公園として全国初の本格的日本庭園「花田苑」が開園 大杉橋が開通 第1回建築景観賞を決定	台風18号により市内に被害がでる	自治省の「地域情報ネットワーク整備構想」の指定を受ける	台東18号により市内に被害がでる	建設省「つるおい・緑・景観モデル事業」の指定を受ける	建設省「つるおい・緑・景観モデル事業」の指定を受ける	環境庁の「アメニティあふれる優良地方公共団体表彰」を受ける	花田第六公園に宇田家長屋門が復元	環境庁の「アメニティあふれる優良地方公共団体表彰」を受ける	こしがや能楽まちづくり推進事業を開始	インテリジェント・シティ整備基本計画が承認される	花田小学校が開校	吉越橋が開通	「越谷発・地球環境シンポジウム」を開催



▲大杉橋が開通(奥は旧橋)(平成3年)



▲中央市民会館が開館(平成4年)

平成6年(1994)					平成5年(1993)					平成4年(1992)										
11月	10月	9月	8月	4月	2月	10月	6月	5月	4月	3月	2月	9月	8月	7月						
<p>松本サリン事件が発生。大江健三郎氏がノーベル文学賞を受賞。関西国際空港が開港</p>					<p>救急救命士(1月誕生)による高規格救急車が稼働 農水省主催の「農村環境保全機能シンポジウム」を開催 総合福祉計画を策定 資源化センターに、不燃ごみの最終残渣ゼロを目指す、比重差選別機導入 架け替えた不動橋が開通 市民球場がオープン建設省の平成6年度環境共生モデル都市(エコシティ)に指定される 図書館に野口富士男文庫を開設 東武鉄道伊勢崎線(上り)の一部高架が開通し、元荒川以南の踏切8カ所が解消 しらこぼと橋が開通</p>					<p>皇太子徳仁親王、小和田雅子さんとご成婚。日本初のプロサッカー「Jリーグ」が開幕 東武鉄道伊勢崎線(下り)の一部高架が開通 市長選において島村慎市郎氏が5選 資源化センターに全国初のフロン回収装置を導入 老人福祉センターくすのき荘が開館 日本文化伝承の館「こしがや能楽堂」が開館 千代田橋が開通 資源化センター内の不燃物処理・資源化施設稼働 エコトピア計画を策定 環境自治体国際会議'93こしがやが開催 エコトピア計画を策定</p>					<p>日本人宇宙飛行士毛利衛氏がスペースシャトル「エンデバー号」に搭乗。国連平和維持活動協力法(PKO法)が成立 環境庁の地球温暖化防止のための実験都市「エコトピア2000」に指定される フランス・ディジョン市で越谷市設計の日本庭園起工式が行われる</p>			<p>障害者福祉センター「こぼと館」(中央市民会館内)が開館 越谷コミュニティセンターに南部出張所が開所 国際景観シンポジウム'92こしがやを開催 環境庁の地球温暖化防止のための実験都市「エコトピア2000」に指定される フランス・ディジョン市で越谷市設計の日本庭園起工式が行われる</p>		

平成7年～平成20年

越谷らしさを前面に打ち出した 魅力的なまちづくりへ

地方分権の進展により個性的で魅力的なまちづくりが求められるようになりました。人口の増加も緩やかとなり都市施設が充実し、成長するまちから成熟するまちへと変わりつつあるなかで、安心して健やかに暮らすことのできるまち、自然と共生する緑豊かなまちが求められました。

平成7年（1995）には、県立越谷西高等学校が市内で初の夏の甲子園出場の快挙を成し遂げました。平成8年には、人口が30万人を突破し、平成9年には、東武鉄道伊勢崎線が越谷駅以南で高架複々線となり、ますます利便性が高まりました。平成10年には、市制施行40周年記念式典が執り行われ、市のシンボルマークと子ども憲章が発表されました。平成11年には、福祉のまちの実現を目指して福祉憲章を制定しました。また、市民と行政との協働によるまちづくりを進



▲市制施行40周年記念式典(平成10年)

平成9年(1997)				平成8年(1996)				平成7年(1995)								
10月	5月	4月	3月	12月	10月	7月	6月	5月	4月	1月	10月	9月	8月	5月	4月	1月
市長選において板川文夫氏が当選	相生陸橋が開通	保育ステーションが新越谷駅前に開設	越谷駅以南の東武鉄道伊勢崎線が高架複々線となり、新越谷駅にも準急(現在の急行)が停車	日米が普天間飛行場沖縄縄県などの返還に合意。病原性大腸菌「O157」による感染被害が相次ぐ	南部図書室(越谷コミュニティセンター内)が開設 人口が30万人を突破	福島県二本松市と災害時における相互応援に関する協定を締結	緑の森公園越谷市弓道場がオープン 都市防災河川等整備構想に基づく防災取水ピットとマンホールの第1号が完成	大沢北交流館が開館 キャンベルタウン野鳥の森で公立動物園では全国初となるクルマサカオウムの人工ふ化に成功	消防署大袋分署が開署 越谷甲冑が県伝統的手工芸品に指定される 市立病院に院内学級「おそろ学級」が開設	第2次行政改革大綱を策定	阪神・淡路大震災が発生。地下鉄サリン事件が発生。円相場が1ドル70円台に	東部清掃組合第二工場発電所が本格稼働 群馬県高崎市と災害時における相互応援に関する協定を締結	キャンベルタウン野鳥の森が開園	県立越谷西高等学校が市内の高校として初の甲子園出場 公共施設案内・予約システム「越谷コミネット」がスタート	児童館ヒマワリが開館 赤山交流館が開館	阪神・淡路大震災へ救援活動 都市防災河川等整備構想を策定 第三学校給食センターが完成



▲県立越谷西高校が甲子園に初出場
(平成7年)

めるため、第3次越谷市総合振興計画が平成12年に策定されました。平成16年には、彩の国まごころ国体の開催、国道4号東埼玉道路が開通しました。平成20年、JR武蔵野線の越谷レイクタウン駅が開業し、越谷レイクタウンがまちびらきしました。また、市制施行50周年記念式典が執り行われ、国の安全と市民一人ひとりの幸せ、世界の恒久平和の実現を願い平和都市宣言が制定されました。



▲埼玉県立大学が開学(平成11年)

平成12年(2000)	平成11年(1999)	平成10年(1998)	平成9年
11月	12月	11月	11月
4月	9月	7月	
2月		6月	3月
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	
		1月	
		12月	
		11月	
		10月	
		9月	
		8月	
		7月	
		6月	
		5月	
		4月	
		3月	
		2月	

平成7年～平成20年



▲第1回越谷市美術展覧会(平成13年)



▲保存民家大間野町旧中村家住宅の一般公開を開始(平成16年)

平成17年			平成16年(2004)				平成15年(2003)				平成14年(2002)		平成13年(2001)					
7月	4月	3月	11月	10月	9月	4月	10月	4月	3月	12月	11月	10月	7月	5月	3月			
越谷市男女共同参画推進条例を施行			新潟県中越地震が発生。台風が相次ぎ、日本列島への上陸が最多の10個に。79年ぶりに鳥インフルエンザが発生				越谷市まちの整備に関する条例を施行				小児夜間急患診療所が開所		東武鉄道伊勢崎線の高架複々線化が完成					
市立看護専門学校が閉校			彩の国まごころ国体開催、軟式野球(成年)、バレーボール(成年男子6人制)が行われる				消防本庁舎が開設				福祉保健オンブズパーソン制度が開始		第1回越谷市美術展覧会を開催					
産業雇用支援センター「ステップワークこしがや」がオープン			彩の国まごころ国体開催、サッカー(成年女子)が行われる				特別市に移行				小児夜間急患診療所が開所		科学技術体験センター「ミラクル」が開館					
越谷市男女共同参画推進条例を施行			市内13地区に地区センターを設置				越谷市まちの整備に関する条例を施行				福祉保健オンブズパーソン制度が開始		男女共同参画支援センター「ほっと越谷」がオープン					
越谷市男女共同参画推進条例を施行			彩の国まごころ国体開催、軟式野球(成年)、バレーボール(成年男子6人制)が行われる				越谷市まちの整備に関する条例を施行				福祉保健オンブズパーソン制度が開始		市長選において板川文夫氏が再選					
越谷市男女共同参画推進条例を施行			彩の国まごころ国体開催、軟式野球(成年)、バレーボール(成年男子6人制)が行われる				越谷市まちの整備に関する条例を施行				福祉保健オンブズパーソン制度が開始		アメリカで同時多発テロが発生。野依良治氏がノーベル化学賞を受賞					
越谷市男女共同参画推進条例を施行			彩の国まごころ国体開催、軟式野球(成年)、バレーボール(成年男子6人制)が行われる				越谷市まちの整備に関する条例を施行				福祉保健オンブズパーソン制度が開始		南越谷公民館「ハレット」が開館					
越谷市男女共同参画推進条例を施行			彩の国まごころ国体開催、軟式野球(成年)、バレーボール(成年男子6人制)が行われる				越谷市まちの整備に関する条例を施行				福祉保健オンブズパーソン制度が開始		小児夜間急患診療所が開所		いきいき館(老人福祉センター)ゆりのき荘と市民プールの複合施設が開館			
越谷市男女共同参画推進条例を施行			彩の国まごころ国体開催、軟式野球(成年)、バレーボール(成年男子6人制)が行われる				越谷市まちの整備に関する条例を施行				福祉保健オンブズパーソン制度が開始		小児夜間急患診療所が開所		しらかばと運動公園競技場がオープン			
越谷市男女共同参画推進条例を施行			彩の国まごころ国体開催、軟式野球(成年)、バレーボール(成年男子6人制)が行われる				越谷市まちの整備に関する条例を施行				福祉保健オンブズパーソン制度が開始		小児夜間急患診療所が開所		FIFAワールドカップ日韓共同開催。ノーベル賞W受賞(物理学賞・小柴昌俊氏、化学賞・田中耕一氏)			
越谷市男女共同参画推進条例を施行			彩の国まごころ国体開催、軟式野球(成年)、バレーボール(成年男子6人制)が行われる				越谷市まちの整備に関する条例を施行				福祉保健オンブズパーソン制度が開始		小児夜間急患診療所が開所		東武鉄道伊勢崎線と地下鉄半蔵門線・東急電鉄田園都市線が相互乗り入れ開始			
越谷市男女共同参画推進条例を施行			彩の国まごころ国体開催、軟式野球(成年)、バレーボール(成年男子6人制)が行われる				越谷市まちの整備に関する条例を施行				福祉保健オンブズパーソン制度が開始		小児夜間急患診療所が開所		園都市線が相互乗り入れ開始			



▲越谷レイクタウンオープニングフェスタ (平成20年)



▲平和都市宣言の碑(平成20年)



▲市制施行50周年記念式典(平成20年)

平成20年(2008)				平成19年(2007)				平成18年(2006)			平成17年(2005)		
11月	8月	4月	3月	11月	10月	8月	4月	11月	10月	4月	11月	10月	8月
<p>北海道洞爺湖サミットが開催</p> <p>平和都市宣言をする</p> <p>市制施行50周年記念式典が執り行われる</p> <p>全国高等学校総合体育大会剣道大会を開催</p> <p>越谷レイクタウンがまちびらき</p> <p>越谷市安全で安心な防犯のまちづくり条例、越谷市路上喫煙の防止に関する条例を施行</p> <p>市民保養施設おがの山荘を廃止</p> <p>越谷レイクタウン駅が開業</p>				<p>賞味期限改ざんや原材料偽装などが続き、「食」の安全・信頼が大きく揺らぐ。日本列島74年ぶり猛暑、熊谷市(埼玉県・多治見市(岐阜県)で40.9度最高気温40.4度を記録</p> <p>越谷社会保険事務所がオープン</p> <p>リサイクルプラザがオープン</p> <p>増林地区センター・公民館、教育センターが開館</p> <p>市民課で旅券(パスポート)の申請・発給業務を開始</p> <p>南越谷地区が市内13番目の行政区となる</p> <p>減、人口減社会に突入</p>				<p>病後児保育室が開設</p> <p>ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)で王ジャパンが初代王者に。人口動態統計で初の自然減、人口減社会に突入</p> <p>南越谷公民館が文部科学大臣から優良公民館表彰を受賞</p> <p>ごみの分別方法が変更(8品目から15品目へ)</p> <p>中学校の学校選択制を導入</p> <p>第3次越谷市総合振興計画後期基本計画がスタート</p> <p>荻島地区センター・公民館「たんぼぼ」が開館</p>			<p>偽装で不安が広がる</p> <p>JR西日本福知山線で脱線事故。愛知県で日本国際博覧会(EXPO2005)が開催。耐震強度の偽装で不安が広がる</p> <p>農産物直売所蒲生店「これとれの」が開業</p> <p>市長選において板川文夫氏が3選</p> <p>越谷市斎場(増林)の供用を開始</p>		

平成21年～平成30年

中核市・越谷の誕生

さらに便利で豊かなまちへ

人口増加社会から人口減少社会へと移りゆくなかで、全国の自治体は以前にも増して、魅力あるまちづくりや住民サービスの向上に力を注ぐようになりました。越谷市でも中核市への移行を主に、より市民に身近できめ細かなサービスが提供できるよう取り組みが進められました。

平成21年（2009）には、越谷のまちづくりの基本となる越谷市自治基本条例が制定・施行されました。平成23年には、東日本大震災が発生し、越谷市にも大きな影響を与えました。平成24年には、越谷駅東口に越谷ツインシティが完成。再開発事業も完了し、越谷駅前の利便性が向上しました。平成25年には市北部を竜巻が襲い、大きな被害が発生しました。平成27年には、越谷市が中核市に移行。越谷市保健所の運用も開始されました。また、梶田隆章さんがノーベル物理学賞を受賞し、



▲越谷市障害者就労訓練施設「しらこぼと」が開設(平成23年)

平成23年(2011)				平成22年(2010)				平成21年(2009)						
11月	10月	6月	4月	3月	1月	10月	9月	7月	4月	11月	10月	9月	8月	4月
東日本大震災、原発事故で甚大被害。なでしこジャパン、サッカーW杯優勝	「ガーヤちゃん」に特別住民票を交付	地域の支え合いと憩いの場「ふらっと」がもう開設★ 介護支援ボランティア制度がスタート	こしがやブランド認定制度がスタート	障がい者の就労支援と地域交流の拠点「しらこぼと」が開設 第4次越谷市総合振興計画がスタート	東日本大震災が発生。帰宅困難者対策、避難者支援、放射線対策を実施★	越谷いちご観光農園が開園★	裁判員裁判始まる。ポップスのスーパースター、マイケル・ジャクソンさん死去	越谷いちご観光農園が開園★	中学校修了まで医療費が原則無料に 越谷アリタキ植物園が開園★	福祉なんでも相談窓口が開設	市長とふれあいミーティングが開催	越谷市フィルムコミッションがスタート	越谷市で自治基本条例を施行★	大相模地区センターが新たにオープン 大相模調節池に水辺のまちづくり館がオープン 越谷駅東口第一種市街地再開発事業、再開発ビル着工

(年表で★マークのあるものは、「越谷市 この10年間の変遷」(P.34～41)に掲載しています)



▲「ガーヤちゃん」に特別住民票を交付(平成23年)

越谷市名誉市民に決定されました。平成28年には、星奈津美さんがオリンピックで2大会連続となる銅メダルを獲得し、越谷市民栄誉賞が贈られました。



▲越谷ツインシティがオープン(平成24年)

平成26年(2014)				平成25年(2013)					平成24年(2012)				
11月	10月	9月	3月	12月	11月	10月	9月	4月	9月	8月	7月	6月	4月
<p>日本人3人にノーベル物理学賞。消費税が8%に</p> <p>越谷レイクタウン特定土地区画整理事業が完了★</p> <p>ご当地ナンバー「越谷」の交付スタート★</p> <p>市指定有形文化財「旧東方村中村家住宅」が開館</p> <p>サンシティ6階に新南部図書室がオープン</p> <p>サンシティ2階に南部出張所が移転</p>				<p>特定秘密保護法が成立。2020年夏季五輪・パラリンピックが東京開催決定</p> <p>出羽地区センター・公民館がオープン。地区センター・公民館初の太陽光発電を採用</p> <p>越谷市災害時要援護者避難支援制度を新設</p> <p>駅橋上化と東西自由通路の開通により利用しやすくなった新しい大袋駅舎が誕生</p> <p>「ふらっと」おおぶくろが開設★</p> <p>月1回の休日市民課業務を開始</p> <p>市北部に甚大な竜巻被害が発生★</p> <p>児童発達支援センターが開設</p>					<p>山中伸弥氏にノーベル医学・生理学賞。東京スカイツリー完成。地上デジタル放送への完全移行完了</p> <p>越谷ツインシティがオープン★</p> <p>越谷駅東口第一種市街地再開発事業が完了し、越谷ツインシティがオープン★</p> <p>3人、団体戦1チームが出場</p> <p>全国中学校剣道大会を開催。越谷市からも個人戦出場。星選手が銅メダル獲得★</p> <p>星奈津美選手、足立夢実選手がロンドン大会に出場。星選手が銅メダル獲得★</p> <p>越谷ツインシティBシテイに市民活動支援センターなどがオープン★</p> <p>市役所東側に葛西用水ウッドデッキが完成★</p> <p>成人夜間急患診療所が開設</p>				



▲新しい大袋駅舎が誕生(平成25年)



▲旧東方村中村家住宅が開館(平成26年)

平成28年(2016)						平成27年(2015)								
9月	8月	6月	4月	3月	2月	12月	11月	10月	9月	4月	3月	1月		
熊本地震、死者150人超。大隅良典氏にノーベル生理学・医学賞	星奈津美選手、杉町マハウ選手がリオデジャネイロ大会に出場。星選手が銅メダル獲得★ 野島にある浄山寺の「木造地藏菩薩立像」が国の重要文化財に指定	星奈津美選手に市民栄誉賞を贈呈★	越谷レイクタウン地区が都市景観大賞(国土交通大臣賞)を受賞	第4次越谷市総合振興計画後期基本計画がスタート 越谷市商工会が越谷商工会議所へ移行	越谷市初のコミュニティ放送局「こしがやエフエム」が開局	梶田隆章氏に名誉市民の称号を贈呈★	梶田隆章氏など日本人科学者2人がノーベル賞。マイナーの通知始まる	木下半助商店の「店舗及び土蔵・石蔵・主屋・稲荷社」が国の登録有形文化財(建造物)に登録	梶田隆章・東京大学宇宙線研究所長がニュートリノ研究でノーベル物理学賞を受賞決定★	台風18号に伴う記録的な大雨の影響により、市内各所で大きな被害が発生★	越谷市保健所が開設★ 越谷市消防本部に高度救助隊が発足 原付バイクのオリジナルナンバープレートの交付を開始★	県から福祉、保健衛生、環境分野などの事務の移譲を受け、中核市・越谷が誕生★	小児、成人の夜間急患診療所を統合し、越谷市保健所に移設	越谷いちごタウンが開園★

(年表で★マークのあるものは、「越谷市 この10年間の変遷」(P.34～41)に掲載しています)



▲リオデジャネイロ大会に出場する星選手をイオンレイクタウンで行われたパブリックビューイングで応援。銅メダル獲得の当日に広報こしがやの号外も発行された(平成28年)



▲大塚商会アルファーズ(現 大塚商会越谷アルファーズ)に支援書を交付(平成29年)

平成30年(2018)						平成29年(2017)									
11月	8月	7月	6月	4月	3月	2月	12月	11月	10月	8月	5月	4月	3月	2月	
小学校で道徳が教科化。梅雨前線の活発化で、西日本で記録的な大雨。北海道胆振東部地震が発生	市制施行60周年記念式典が執り行われる	市民球場で夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会が開催	サンシティでNHKのど自慢が開催	旧大相模交番を活用し、大相模安全安心ステーションが開所	こしがや愛されグルメを認証 レイクタウン保育ステーションを開設 ラジオ広報番組「教えて！ダイジ先生」越谷のココが大事」がスタート 総合体育館で大相模越谷場所が開催	大相模交番が越谷レイクタウン駅前交番に移設 埼玉発地域ドラマ「越谷サイコー」(NHK)が放送される	天皇退位、平成31年4月末に。陸上男子100メートルで桐生祥秀選手が日本人初の9秒台	増林地区の水田で古墳時代前期の遺跡を発見	大塚商会アルファーズを母体とするBリーグクラブ発足に係る支援書を交付	市長選挙で高橋努氏が3選	消防署谷中分署が開署 小学校30校、中学校15校に空調設備の設置が完了	新観光物産拠点施設「ガーヤちゃんの蔵屋敷」がオープン★	病児保育室が開設	越谷八潮線が市内全線開通 越谷市認知症初期集中支援チームが開設	中心市街地に新たなにぎわいを目指して株式会社中央住宅と基本協定を締結。油長内蔵が市に寄贈される 越谷市認知症初期集中支援チームが開設



越谷市この10年間の変遷

平成21年～30年

越谷市出身者の活躍、災害の発生、数十年にわたる事業の完了など、この10年間で越谷には大きな出来事がいくつもありました。ここでは、特に印象的だった出来事を年表から抜粋し、紹介します。

県内2市目の中核市へ移行。 名実ともに県東部地域の中心都市へ



▲市役所1階ロビーで行われた移行式。高橋市長による決意表明の後、くす玉が開披されました

平成27年4月1日、越谷市は、全国44市目、県内2市目の中核市に移行しました。これにより、福祉や環境、保健衛生、都市計画などの事務や許認可など2024項目の権限が県から市に移り、市の自主的・主体的な判断のもと、従来よりも市民に身近なサービスの提供が可能になりました。

また、越谷市保健所の設置や消防本部の高度救助隊の発足など、市民の安全・安心を守る分野においても新たな施設や組織が誕生。越谷市は県東部地域の中心都市として大きく歩みを進めました。



▲27年4月に開設した越谷市保健所

まちづくりの基本を定めた 条例が制定・施行

平成21年6月、「越谷市自治基本条例」が制定、9月に施行されました。

近年、少子高齢化や市民ニーズの多様化など、社会環境が大きく変化したことで、市民と行政がお互いに協力してまちづくりに取り組むことが求められるようになりました。

自治基本条例は、まちづくりの基本的な考え方や進め方、市民と行政がど



▲多くの市民の参加により自治基本条例が形作られていきました

のように協力すれば良いかを示したもので、市政への市民参加や協働の推進など、今後のまちづくりの規範となるものです。

希少な樹木や草花を集めた 植物園が開園



▲越谷アリタキ植物園の入口

平成22年10月、越谷アリタキ植物園が開園しました。植物学者の故・有瀧龍雄氏が国内外の植物を私有地に集めていたものを、ご遺族が市に寄贈され、植物園として整備したものです。

約9000平方メートルの園内には市の天然記念物「ラクウショウ」や多種のツバキなど、約300種、1200本の植物が植えられ、市民ボランティアの手によって整備されています。

▲23年10月には、野生では絶滅した「コシガヤホシクサ」を特別に展示

▲23年10月には、野生では絶滅した「コシガヤホシクサ」を特別に展示

東日本を襲った巨大地震と津波。

越谷にも大きな影響が出る



▲第1体育館に集められた支援物資

平成23年3月11日、宮城県三陸沖でマグニチュード9.0の地震が発生。太平洋沿岸を襲った津波と合わせ、東日本を中心に多数の死者・行方不明者が出ました。

越谷市内でも、ブロック崩壊などの物損被害や負傷者が発生したほか、電車の運行中止により帰宅困難者が続出。市内に複数開設した避難所に延べ1500人が避難するなど、混乱が起きました。

市では、越谷市社会福祉協議会や、越谷市ボランティア連

絡会をはじめとする多くのボランティアの協力によって集められた支援物資を被災各県へ輸送しました。また、多くのボランティアが、がれきの撤去作業などに向かいました。

地震は直接的な被害を与えただけに留まりませんでした。複数の発電所や設備が被災したことで、電気の安定供給が困難になり、約半月にわたり計画停電が実施されました。さらに、東京電力福島第一原子力発電所の事故によって放射性物質が拡散したため、市では公園や学校での放射線量、給食食材などの放射性物質を定期的に計測。また、原発事故により居住が困難となった地域から越谷市にも多くの方が避難するなど、市民の生活にも影響が出ました。



▲計画停電によって消えた信号の下で交通整理する警察官



越谷ツインシティの完成によって様変わりした越谷駅東口

越谷の玄関口が新たな姿に。 市民活動の拠点施設も開設

平成24年9月15日、越谷駅東口に越谷ツインシティがオープンしました。29階建てのAシティと、5階建てのBシティの2棟で構成されるこの施設は、平成2年の再開発推進協議会設立から進められてきた駅東口の再開発事業を象徴するものです。Aシティには住宅と商業施設、Bシティには公共施設と商業施設が整備され、駅前への利便性が大きく向上しました。

再開発事業では駅前広場や周辺道路の整備も行われ、特に駅前広場は2つのロータリーが設置されるなど、整備前の2倍、約7000平方メートルの広さとなりました。

また、越谷ツインシティのオープんに先立ち、24年6月にはBシティ内に市民活動支援センターが開設。



▲市民活動支援センターではさまざまな分野の団体が活動しています

市民活動の拠点としてつくられたこの施設では、市民団体が情報発信や情報交換、市民との交流を図ることができるような設備が整えられ、駅前広場を利用したイベントもたびたび行われるようになりました。このほか、Bシティ内にパスポートセンターと中央図書館が開設され、25年には越谷年金事務所がサシシティから移転しました。



山車と越谷ツインシティ

▲Aシティの前を通る越谷秋まつりの山車。歴史ある神輿や山車と新たなシンボルの越谷ツインシティの対比が印象的です

高齢者の憩いと ふれあいの施設が 市内2カ所にオープン



▲多くの利用者で盛り上がる「ふらっと」おおぶくろ

平成23年10月、蒲生駅前商店街に「ふらっと」がもう、25年10月に大袋商店街に「ふらっと」おおぶくろがオープンしました。この2つの施設は、近年社会問題となっ

いる高齢者の孤立化を防ぎ、生きがいをつくることを目的としており、高齢者が交流するた

め、平成23年10月、蒲生駅前商店街に「ふらっと」がもう、25年10月に大袋商店街に「ふらっと」おおぶくろがオープンしました。この2つの施設は、近年社会問題となっ

また、「ふらっと」がもうオープンと同じ23年10月に、高齢者が介護保険施設などでボランティア活動を行い、ポイントを貯めることができる仕組みの介護支援ボランティア制度も立ち上がるなど、高齢者が地域でいきいきできる環境が整えられていきました。



▲にぎわう越谷いちごタウン

市は、平成22年度から、J A越谷市と連携し、農業に意欲のある若者が観光農園を営する技術・知識を学ぶ、「都市型農業経営者育成支援事業」をスタートさせました。

23年1月、この事業を推進する場として、農業技術センターの試験用の温室を改装した「越谷いちご観光農園」を開園しました。

27年1月には農業技術センターに隣接する敷地に、全8棟、栽培面積1ヘクタールにも及ぶ大規模観光農園「越谷いちごタウン」が開園。毎年、大変なにぎわいを見せています。

「越谷でイチゴ狩り」の 拠点となる観光農園が開園



©21ばばみ
ストロングベリーちゃん

世界に誇る親水・環境のまち 越谷レイクタウンが ついに完成



▲大相模調節池を中心に、住宅や商業施設が立ち並んでいます

平成26年、約39・5ヘクタールの大相模調節池が竣工し、越谷レイクタウンが完成しました。

昭和63年、大雨等による被害を防ぐための調節池の建設と、市街地の整備を一体的に行う「レイクタウン整備事業」が国の新規施策として設けられました。その後、平成11年に都市基盤整備公団（現UR都市機構）によって土地区画整理事業が始められ、長期にわたってまちづくりが進められました。

越谷レイクタウンは、20年4月

にまちびらきを行って以降、次々と住宅や商業施設などが建てられ、1万7000人以上（30年8月時点）が住む大きなまちとなりました。休日になると、公園などで遊ぶ家族連れや、イオンレイクタウンを訪れる人などにぎわいます。

一方で、池のほとりにはハンザディンギー（小型ヨット）やカヌーなどで遊べる施設ができ、北西部には水辺の動植物が自然のままに生息する区画が設けられるなど、人と自然が共に生きていくことができるまちでもあります。21年、国際的な表彰「リブコムアワード」のプロジェクト賞で、日本で初めて金賞を受賞。28年には都市景観大賞で都市空間部門の大賞（国土交通大臣賞）に選ばれました。



▲風の手で進むハンザディンギー。後ろは水辺のまちづくり館

越谷を突然襲った竜巻と大雨。 市民の生活に大きな被害



▲竜巻で大きな被害を受けた大杉橋付近の住宅地



▲被災家屋から家財道具を運び出すボランティア

平成25年9月、さいたま市から茨城県坂東市へと抜ける巨大な竜巻が発生。越谷市でも北部の大杉、船渡、砂原などを中心に、重軽傷者合わせて75人、被災世帯数1668という非常に大きな被害を受けました。翌日には気象庁が竜巻の規模をF2（風速が約7秒間の平均で秒速50〜69メートル）と推定。公共施設も被災し、特に、調理器具が破損した第二学校給食センターは、業務を再開するまで半年以上を要しました。

すべて閉鎖されるまでに、延べ268人が身を寄せました。また、自宅などが被災した住民のためにブルーシート約9000枚、土のう袋約1万9000枚などが配布され、屋根や壁の応急処置、がれきの撤去などを行う様子があちらこちらで見られました。

一方で市民による支援の輪が広がり、連合婦人会や自治会による炊き出しが行われたほか、延べ約2000人のボランティアが被災家屋の清掃やがれきの撤去、家財の搬出などの支援を行いました。また、全国から約4600万円の義援金が集まり、被災者へと送られました。27年9月には台風18号の影響による記録的な大雨で、関東北部に大きな被害が発生。越谷市では1時間当たり40ミリを超える雨量を観測しました。



▲大雨で冠水したせんげん台駅東口

これにより、東武スカイツリーラインせんげん台駅東口をはじめ市内各所で道路が冠水したほか、46カ所で道路が通行止めとなりました。建物の被害も多く、桜井、新方の増林地区を中心に、住宅等668件の床上・床下浸水被害が発生しました。また、鉄道の運転見合わせや学校の休校も相次ぎました。

近年まれに見る2つの災害の発生によって、日頃の備えがいかに重要であるかが再認識されました。



▲越谷ナンバーを付けた車に笑顔の高橋市長

「越谷」の名が全国を走る。 ガーヤちゃんのデザインが入った ナンバープレートも制作

平成26年11月、越谷駅東口駅前広場で、越谷ナンバー出発式が開催されました。

それまで、越谷市で新たに登録された自動車には春日部ナンバーが付けられていましたが、25年に国が募集した地域の活性化や知名度の向上を目的とした、いわゆる「ご当地ナンバー」（第2弾）に、中核市への移行を控え、市の魅力発信を目指していた越谷市が応募し、越谷ナンバー導入が実現しました。

事前の市民アンケートでも約8割が導入に賛成。ふるさと越谷の発展のため、市民も力強く

後押ししました。



◀自動車用越谷版図柄入りナンバープレート

▶原付バイクオリジナルナンバープレート



また、27年4月には中核市移行を記念して、原付バイクのオリジナルナンバープレートの交付を開始。しらかばと橋を背景に羽ばたく越谷特別市民ガーヤちゃんのデザインが人気となりました。

さらに30年5月には、自動車用の越谷版図柄入りナンバープレートのデザインにもガーヤちゃんのデザインが採用されることが決定。10月から交付が始まり、「越谷」の名称とガーヤちゃんが全国を駆け巡ることとなりました。

水郷こしがやを象徴する 親水施設と越谷の観光物産 拠点施設が完成

平成23年度から27年度にかけて、市役所東側の葛西用水沿いに葛西用水ウッドデッキが整備され、越谷の豊かな水辺を生かした新たなにぎわいと憩いの場となりました。また、ウッドデッキの整備にあわせ、用水内に飛び石等も設置されました。用水の水位が下がる秋や冬を含め、1年を通して水辺に親しむことができるスポットです。

市民に親しまれています。

現在では毎年恒例のキャンドルナイトや「KOSHIGAYAてしごと市」も広く定着。音楽やグ

29年5月には、越谷駅東口に新たな観光物産拠点施設「ガーヤちゃんの蔵屋敷」がオープン。日光街道の宿場町の歴史を持つ越谷らしさのある、蔵をイメージした外観の建物が特徴的です。

店内では、越谷の名産品や伝統的手工芸品の販売、せんべいの手焼き体験やだるまの絵付け体験、パンフレットや鉄道ジオラマでの市内観光スポットの案内などを行っています。越谷の魅力を市内外へ発信する施設として注目されています。



▲特徴的な外観に、思わず中をのぞいてみたくなる「ガーヤちゃんの蔵屋敷」



▲川面を抜ける風を感じられる散歩コースとしても人気の「葛西用水ウッドデッキ」

越谷ゆかりの3選手がオリンピックで活躍。 市民も声をからして応援



▶市民荣誉賞受賞式で、獲得した2つのメダルを披露する星さん(平成28年9月)。リオ大会後に現役を引退し、各地での講演やテレビ・イベントへの出演などで水泳の普及に努めている

平成24年のロンドンと28年のリオデジャネイロ。この2つの大会に、越谷市から3人の選手が出場しました。

1人は競泳の星奈津美さん。20年の北京大会から3大会連続出場を果たし、ロンドン大会とリオ大会では、ともに200メートルバタフライで銅メダルを獲得。リオ大会後にはそのすばらしい功績をたたえ、第1号となる越谷市民荣誉賞が贈られました。

もう1人がアーティスティックスイミング(当時はシンクロナイズドスイミングと呼称)の足立夢実さん。ロンドン大会でチーム競技に出場し、5位入賞の立役者となりました。

最後の1人が陸上の杉町マハウさん。8歳で来日し、祖



▲華麗な演技を見せる足立さん(平成30年)。現在はアーティスティックスイミングのミックス(男女混合)デュエット日本代表として世界に挑んでいる

市内で初の パブリックビューイングも 開催

リオ大会では星さんを応援しようと、イオンレイクタウンのイオンホールで、200メートルバタフライ準決勝・決勝のパブリックビューイングが行われました。メダルの期待がかかる決勝には、星さんの家族や友人、高橋市長ら350人が応援に駆けつけました。銅メダル獲得の瞬間には、会場は大歓声に包まれ、健闘をたたえました。

国ブラジルの代表としてリオ大会に出場(北京大会以来2度目)。400メートルハードルで準決勝進出を果たしました。

越谷そして国の期待を背に躍動する3選手を、市民は声をからして応援し、競技終了後には惜しめない拍手を送りました。



▲リオ大会へ向け、しらこぼと陸上競技場で練習に励む杉町さん(平成28年)。大会後も、400メートルハードルを専門に、さらなる活躍を目指し日々奮闘する

越谷の歴史で初の快挙。 越谷市民からノーベル賞受賞者が誕生



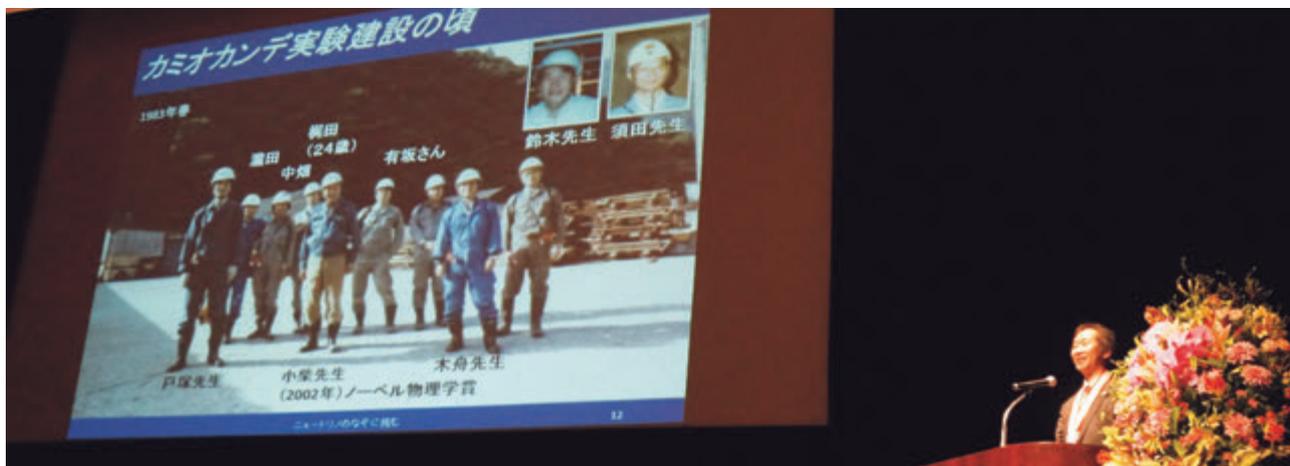
平成27年10月、越谷市民で東京大学宇宙線研究所長の梶田隆章さんのノーベル物理学賞受賞が決定しました。

梶田さんは、観測装置「スーパーカミオカンデ」で素粒子「ニュートリノ」を調査し、ニュートリノ振動という現象から、ニュートリノに質量があることを発見。素粒子理論の定説を覆す研究成果が高く評価され、ノーベル物理学賞の受賞に至りました。

市ではこの偉業をたたえ、梶田さんを越谷市名誉市民に推薦。27年12月の定例市議会

で、秋山長作元教育長（故人）以来5人目の名誉市民となることが決定されました。名誉市民の決定は、昭和57年以来、33年ぶりの出来事でした。

越谷市から初となるノーベル賞受賞者が輩出されたことは、市民に大きな驚きをもって受け止められ、28年2月にサンシティ大ホールで開催された名誉市民称号贈呈式・記念講演会にも多くの注目が集まりました。市内の小中高生をはじめ約1600人の来場者でホールは満員となりました。



▲記念講演会で「広く目と心を開いて、大切なものに出会ったときのための準備を」とメッセージを発した梶田さん



▲講演「ニュートリノのなぞに挑む」に聞き入る満員の聴衆



▲代表で質問した小中高生と笑顔で記念写真に応じる梶田さん

越谷駅とその周辺
国鉄武蔵野線と東武伊勢崎線
越谷レイクタウン
越谷市内の元荒川
葛西用水と赤水門
越谷の商店街
越谷市民まつり
越谷の小学校①
越谷の小学校②
越谷の中学校
越ヶ谷高等学校

(広報こしがやお知らせ版平成29年11月・12月号、30年2月～10月号に掲載したものを再編集しました)



越谷駅とその周辺



▲現在の越谷駅を北越谷駅方面に向かって撮影。木々に代わりマンションが立ち並ぶ＝産婦人科菅原病院の協力により撮影

大 正9年4月17日、越谷駅が「越ヶ谷駅」として開設される以前は、現在の北越谷駅が「越ヶ谷駅」だった。「町の発展と産業の振興のために町の中心部に

駅を」という、当時の越ヶ谷町民の熱心な誘致活動の結果、東武鉄道の初の請願駅として新駅・越ヶ谷駅が開設。それに伴い、旧・越ヶ谷駅は武州大沢駅と改称され、昭和31年

▲まだ高架化されていない線路と越谷駅舎。ホームに到着する直前の電車を北越谷駅方面に望む＝昭和35年ごろ。市民提供

12月には、それぞれ越谷駅、北越谷駅と改称された。
平成9年に複々線高架化が完了した越谷駅は、24年9月、市の玄関口にふさわしい新たな顔に生まれ変わる。平成2年から22年の歳月を経て越谷駅東口再開発事業が完了。駅前広場も南北2つのロータリーを擁し整備前の2倍の7000平方メートルに拡張、東口の新たなシンボルとなる越谷ツインシティがオープンした。

昭和48年4月、国鉄（現JR）

武蔵野線は府中から浦和、越谷を経て松戸までが開通した。市内では、東武伊勢崎線をまたいで交差する地点に、国鉄武蔵野線「南越谷駅」が開設され、約1キロ離れた蒲生駅とともに、国鉄武蔵野線と東武伊勢崎線の乗換駅に利用された。49年7月に東武伊勢崎線「新越谷駅」が開設されたことで、南越谷駅・新越谷駅周辺の人口が急速に増加して



国鉄武蔵野線と東武伊勢崎線

いった。

平成元年7月、都市計画に基づく東武伊勢崎線の複々線高架化工事（連続立体交差事業）が埼玉県主体で着工すると、6年11月に東武伊勢崎線の高架がJR武蔵野線の上をまたぐようになった。その後、13年3月に東京都境から北越谷までの約12・5キロにわたる東武伊勢崎線連続立体交差事業が完成した。

▲新越谷駅上りホームの蒲生駅寄りから撮影した写真。右に写っているのが南越谷駅である。この頃の東武伊勢崎線は国鉄武蔵野線より低いところを走っていた＝昭和49年ごろ

▲現在の新越谷駅と南越谷駅＝朝日生命越谷支社の協力により撮影



治

水対策を目的とする河川事業による調節池の建設と、土地区画整理事業による新市街地整備を一体的に行う「レイクタウン整備事業」が、昭和63年4月に国の新規事業として創設され、越谷レイクタウン地区が事業採択された。平成11年12月から都市基盤整備公団（現UR都市機構）により、計画面積225・6ヘクタール、計画人



越谷レイクタウン

▲造成中のレイクタウン。大相模調節池の北西方向から、現在の越谷レイクタウン駅方面を望む＝平成17年

口2万2400人という大規模な事業が始まった。

事業は順調に進み、20年3月にJR武蔵野線に越谷レイクタウン駅が開業、4月に越谷レイクタウン地区のまちびらきが行われた。26年10月に、最大で120万立方メートルを貯水することができる大相模調節池が完成。同年11月に換地処分公告が行われ、相模町、大成町、川柳町、東町の各一部が「レイクタウン」に町名を改めた。



▲現在の大相模調節池とその周辺（調節池南側から）



越谷の商店街

▲河内屋旅館の看板と左側に四ツ目屋の看板が確認できる=昭和37年ごろ



◀現在の中町商店街

日 光街道第三の宿場町として栄えた越ヶ谷宿は、日光街道の公用荷人運輸の中継所として設けられた。天保14年（1843）には戸数1005軒、人口4603人を数え、旅籠屋は、本陣、脇本陣を含め57軒が軒を連ねていた。

近年になると、鉄道の開通により各駅周辺を中心として商業活動が活発化。日光街道沿いにも多くの商店が建ち並び、都心的商業地である越谷駅周辺地区をはじめ、さまざまな性格を持つ商店街でにぎわった。

平成30年現在、市内には21の商店街があり、それぞれ地域の特色を生かした取り組みが行われている。本市初の国登録有形文化財の木下半助商店がある旧日光街道沿いの中町商店街では、コミュニティカフェの新設や蔵や屋敷の再利用などが行われ、さらなるにぎわいの創出が期待されている。

越 谷市民まっぴりの始まりは、昭和50年に行われた「第1回交通安全市民まつり」までさかのぼる。第1回交通安全市民まつりでは、46年9月開催の「交通安全市民集会」で行われたパレードを継承し、北越谷駅東口広場から市役所まで交通安全パレードが行われた。当時は1カ所からの出発だったパレードも、現在は、越ヶ谷小学校など3カ所からの出発となっている。



越谷市民まつり

▲ステージに立つ歌謡漫唱「シャンパロー」。ステージ以外にも野菜市やオークションなどで市民を楽しませた=昭和50年9月

▶第1回から続く交通安全パレード。市民栄誉賞第1号を受賞した星奈津美さんも参加した=平成28年10月



まっぴりの催しも時代とともに変化してきた。昭和51年の第2回交通安全市民まつりでは、ふるさとへ無料で電話がかけられる「ふるさと電話」が人気を呼び、52年の第3回交通安全市民まつりでは、24年間続いたミスコンテストの第1回が行われた。

元号が昭和から平成に変わり、交通安全市民まつりも越谷市民まつりと名称を改めた。



越谷の小学校①

▲昭和30年ごろの蒲生小学校。校庭に人文字で右に「ガモウ小」、左に「GAMO」と描かれているように見える＝谷澤正己さん(蒲生西町)提供



▶中央の白い建物が現在の蒲生小学校。左端の白い建物は隣接する蒲生第二小学校

幕

末から明治初期にかけての越谷には、庶民の教育機関として多数の寺子屋があったが、明治5年に学制が頒布されると、その多くが学校施設へと利用されていった。

全国に2万6000ほどの小学校が設置されたのは、学制頒布から、わずか3年から4年のこと。越谷においても、明治初期には10校を超える小学校があった。明治6年に

越ヶ谷小学校、新方小学校、大袋小学校、荻島小学校、出羽小学校、蒲生小学校、大相模小学校、増林小学校の前身となる学校が開校。次いで、10年に大沢小学校、19年に桜井小学校の前身となる学校が開校した(開校当時は現在の校名と異なる学校もあった)。これらは、

明治、大正、昭和と3つの時代を経て、現在まで100年以上の歴史をつないでいる。



越谷の小学校②



▲建築中の平方小学校。4月の開校を目前に建設工事が急いで進められた＝昭和50年1月

◀現在の平方小学校

第

二次世界大戦後の昭和22年3月、学校教育法が公布され、六・三制の学制改革が行われた。

市では37年の東武鉄道と地下鉄日比谷線の相互乗り入れなどを契機に人口が急増し、42年10月には10万人を突破。これに合わせ、小学校も次々と新設され、42年から51年までの間に、川柳小学校を皮切りに、14校の

小学校が開校した。さらに、53年から56年にかけて4校が開校、33年の市制施行から25年間に18校もの小学校が開校した。児童数も43年の1万人弱から、53年の2万5000人超と、約2.5倍に増えた。その後、平成2年に花田小学校、19年に30校目となる城ノ上小学校が開校し、現在に至っている。



越谷の中学校

▲木造校舎の北側(写真左奥)に鉄筋造りの新校舎が並ぶ
東中学校=昭和42年ごろ



◀現在の東中学校。木造校舎のあった場所には、昭和53年に職員室などが入る現在の校舎が建てられた

昭 和22年4月に新学制による3年課程の新制中学校が発足したころ、戦後の資材不足により新制中学校のほとんどが、小学校の一部の教室などを代用していた。越谷町が成立した29年。施設や設備の充実を図るために町内に10校あつた中学校を5校に統合する計画が進められた。当時、独立した校

舎がなかった増林と大相模の中学校は、校舎の新設を熱望。結果、32年に越谷初の統合中学校である東中学校を開校するに至った。

33年の市制施行以降は、34年から38年にかけて3校の開校、1校の改称が行われた。その後、40年代の人口急増に伴い、次々と小学校が新設すると、中学校も47年から59年にかけて10校が開校した。



越ヶ谷高等学校

▲越ヶ谷高等女子学校のころの正門。久伊豆通り側にある(現在は使用されていない)=昭和20年ごろ。安藤一枝さん(北越谷)提供



▶現在の越ヶ谷高校の正門。青葉通り沿いに設置されている

市

市内で最も歴史がある高校の埼玉県立越ヶ谷高等学校は、大正15年、越ヶ谷町立越ヶ谷実践女学校として開校したのが始まりとされている。

昭和3年に越ヶ谷町立越ヶ谷実科高等女学校に改称。5年に県に移管され、埼玉県立越ヶ谷高等女学校となった後、23年には戦後の学制改革によって埼玉県立越ヶ谷女子高等学校

校に改称された。

24年に男女共学となったことから現在の校名に改称。33年11月3日の越谷市制施行記念式典が越ヶ谷高校を会場に行われたほか、越ヶ谷高校の教員だった故・有瀧龍雄氏の所有地が市に寄贈され、現在は越ヶ谷リタキ植物園として市民に親しまれているなど、市の歴史とも関係が深い学校となっている。

あの頃、

あの時、



懐かしの写真集

市民の皆さんからお寄せいただいた写真は、越谷ならではの数々のエピソードが詰まっています。そんな思い出の写真の中から名シーン、名場面をご紹介します。

(一部は越谷市制施行 50 周年記念誌から転載)

明治時代

1 ゆかた地の天日干し

2 久伊豆神社の参道入口

3 越ヶ谷町の町並み



明治～大正時代



4 元荒川の鉄橋を渡る蒸気機関車

5 寺橋を渡る神輿^{みこし}渡御の行列

6 越ヶ谷停車場完成祝賀会（大正9年）

7 民家とこいのぼり（大正14年）





8

8 大沢町での共同の田植え風景（昭和18年）

9 久伊豆神社の例大祭（昭和20年代）

10 蒲生の久伊豆神社付近（昭和20年代）



9



10

昭和30年代



11

11 米の収穫（稲こぎ）の様子（昭和30年）

12 養鶏場の消毒（昭和38年）

13 東小林の香取神社での紙芝居（昭和30年代）

14 消防署からの眺め（昭和38年）



12



14



13



16

15 野球ごっこをする子どもたち（昭和 39 年）

16 夏作園芸農産物共進会での花卉きの展示（昭和 39 年）

17 逆川（現在のキャンベルタウン公園付近）（昭和 36 年）



15



17

昭和40年代



19



18



20

18 越谷駅の通勤風景（昭和42年）

19 越ヶ谷で2、7のつく日に開かれていた二・七の市（昭和43年）

20 大袋商店街（昭和48年）

21 ヘリコプターによる農薬散布（昭和45年）



21



22

22 越谷駅（昭和40年代）

23 赤山町の踏切（昭和48年）

24 中島橋の架け替え（昭和48年）

25 藤助河岸（昭和49年）



23



25



24

昭和50年代



27



26



28

26

第1・第2体育館で開催されていた商工物産展(昭和52年)

27

小学校の授業風景(昭和52年)

28

登校風景(昭和52年)

29

せんげん台駅前(昭和55年)

30

せんべいの生地作り(昭和53年)



30



29



32



31

31 しらこぼと水上公園のスケートリンク（昭和 55 年）

32 葛西用水のハナショウブ（昭和 57 年）

33 南越谷駅と新越谷駅を結ぶ通路（昭和 61 年）

34 越谷駅東口（昭和 60 年ごろ）

35 クワイの出荷風景（昭和 62 年）



33



35



34

平成元年～現代



37



36



38

36 赤水門と呼ばれた旧瓦曾根堰^{せき}（平成8年）

37 市役所前からスタートしていた元旦マラソン大会（平成5年）

38 花田周辺の空撮（平成5年）

39 越谷駅付近（東柳田町付近）の稲掛け風景（平成3年）

40 総合公園陸上競技場で行われていた市民体育祭中央大会（平成10年）



40



39

越谷の観光

越谷で触れる四季と“らしさ”

市内には、元荒川、大落古利根川、新方川、中川、綾瀬川の5本の一級河川が流れています。元々お皿のような地形の越谷市は、昔から水害に悩まされながらも、江戸と地方を結ぶ舟運の中継地点としてにぎわい、水の豊かさから「水郷こしがや」と呼ばれ親しまれてきました。



大落古利根川の古利根堰



中川と大落古利根川の合流点



新方川とキャンベルタウン野鳥の森



綾瀬川と藤助河岸



元荒川と葛西用水



水郷は花も緑も美しく

豊かな水に生まれ、越谷市では四季折々に美しい自然が目を楽しませます。春から夏にかけては、市内各所で美しい花々に出会えます。

元荒川の桜堤



中央市民会館東側、
葛西用水中土手のハナショウブ



神明橋遊歩道のシバザクラ



越谷梅林公園のウメ



久伊豆神社の藤まつり（4月下旬～5月上旬開催）。
樹齢200年を超えるフジの花房が見事です



出羽公園で行われる出羽チューリップコミュニティフェスタ（4月中旬～下旬開催）では、約6万本もの色とりどりのチューリップが咲き誇ります



人が集まる、まちがにぎわう

南越谷阿波踊りは、徳島市、東京・高円寺とともに「日本三大阿波踊り」の一つとされ、毎年70万人の人出でにぎわう夏の一大イベントです

市内では、季節ごとにさまざまな催しが行われていますが、夏は市内外から多くの観光客が集まるイベントが盛りだくさんです。人々の熱気は、夏の暑さもしのぎます。



水郷こしがやを象徴するスポットとして市役所東側に整備された葛西用水ウッドデッキ。音楽イベントやマルシェなど、市民参加型の各種イベントが開催されています



平成22年から行っているこしがや田んぼアート。市内を見渡せる東埼玉資源環境組合第一工場の展望台から全景を眺めることができます



約5,000発の花火が夜空を彩る越谷花火大会は越谷の夏の風物詩です



市民とまつりと文化芸術と

市民の手づくりによる、市民のための祭典、越谷市民まつり。交通安全を願って行われる恒例のオープニングパレードには約100団体が参加しています

越谷市民まつりや協働フェスタなど、秋から冬にかけては市民一人ひとりが作り上げる催しが開かれます。また、屋外能楽堂で行われる薪能など、越谷だからこそ楽しめる芸術があります。



越ヶ谷秋まつりは、旧越ヶ谷町で行われてきた五穀豊穰を祝う山車祭りです。江戸時代中頃の元禄年間より300年以上にわたって伝えられ、現在は数年に一度の開催となっています



県内唯一の屋外能舞台をもつこしがや能楽堂。毎年9月に開催される薪能では、かがり火の幻想的な雰囲気の中、一流能楽師の演能が鑑賞できます



郷土芸能祭では、越谷市に古くから伝わる囃子・神楽・木遣などのさまざまな郷土芸能が披露されます。市内小学校の郷土芸能クラブの児童による発表も行われます



商工業者と農業者が一堂に会すこしがや産業フェスタ。直径2mの大鍋で作る5,000人分のこしがや鴨ネギ鍋は、名物になっています



個性豊かなこしがやの顔

市文化財として登録されている建造物から、本格的な日本庭園、商業施設などの新たな観光名所まで、越谷には来て・見て・体験して楽しい、見どころいっぱい施設が数多くあります。

越谷いちごタウン



はかり屋



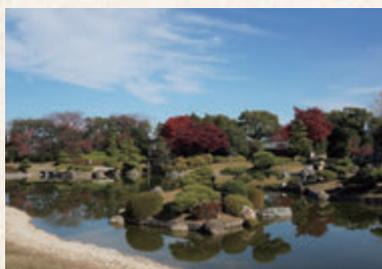
ガーヤちゃんの蔵屋敷



大間野町旧中村家住宅



キャンベルタウン野鳥の森



花田苑



旧東方村中村家住宅

越谷レイクタウン



宮内庁が管理する全国で2カ所だけの鴨場

宮内庁埼玉鴨場



宮内庁が管理する「鴨場」は、越谷市大林にある『埼玉鴨場』と千葉県市川市にある『新浜鴨場』の2カ所だけです。宮内庁や県、市が行う見学会などを除き、ふだんは一般公開されておらず、国内外の賓客をもてなす特別な場所です。



埼玉鴨場入口の門

江戸時代、越谷には鷹たかを使って狩を行う鷹場があったことから、明治時代に越谷を含む地域が皇室専用の御猟場として指定されました。現在、鴨場で捕獲した鴨は調査を行った後、すべて放鳥しています。埼玉鴨場は、明治41年（1908）に開設されました。広さは約12ヘクタール、東京ドーム2・5個分ほどあります。中央にある約1ヘクタールほどの元溜だまりという池は、毎年8月の終わりから翌年の5月まで、渡り鳥など3000羽を超える野鳥が飛来する、鳥たちの楽園となっています。



元溜周辺は竹林で覆われており、人の気配を鳥たちに伝わりにくくしています



賓客をもてなす食堂は鴨場開設当時の面影を残しています

残したい風景

越谷アメニティ八景(画・大徳 幸雄 氏)
昭和57年に市民投票で決定



眺望が開け富士山が見える風景

富士山が見えることは、開けた眺望のシンボルであり、以前に比べて少なくはなりましたが、富士山や日光連山を遠望できる場所は市内にまだ残っています。



古利根川の緑豊かな水辺

市の東部を流れる大落古利根川の流域は、比較的人の手が加わらず、自然堤防上の緑が広い川面に映り、見る人の心を和ませます。



久伊豆神社の社叢

参道の長い松並木とフジの花、うっそうと茂る樹木を背にした朱塗りの社殿、境内に残された越谷吾山や平田篤胤の遺跡など歴史的雰囲気に緑がよく調和し、荘厳な趣があります。



古い家並・宿場の面影

旧日光街道沿いの越谷谷や大沢には、数は少なくなりましたが、蔵造りの家や千本格子の家が見られ、古い宿場の面影を残しています。

いつまでも



鎮守のもり

どこの地区でも見られるお寺や鎮守のもりは、信仰の場であると同時に木陰を作り、子どもたちの遊び場ともなり、地域のコミュニティの場となっています。



元荒川の桜堤

北越谷の元荒川堤に植えられた桜並木は、延々2kmにわたり見事な花をつけ、広々とした河川敷と一体となり、市街地の中の行楽の場となっています。



豊かな水をたたえた田園風景

青々と広がる水田の間を縦横に流れる大小の水路と、そこに植えられたハンノキ、点在する農家などは市を代表する景観の一つです。



元荒川と葛西用水の開けた水辺

元荒川の宮前橋から市役所わきを経て瓦曾根堰の水門にかけては、葛西用水が隣接し、川辺は釣りを楽しむ人、お弁当を広げる家族連れなど市民の憩いの場となっています。

いつまでも残したい自然

植物

水と緑に恵まれた越谷では身近なところに自然が残っています。四季折々に美しい花が咲き、訪れる人を優しく迎えてくれます。目につくウメやナノハナ、サクラ、フジ、ボタン、チューリップ、ハナシヨウブ、コスモスなどだけでなく、ひっそりと咲いている花たち、越谷の地名が付いたコシガヤホシクサやキタミソウなど、埼玉県のレッドデータブックに絶滅危惧種として指定されている植物たちも精いっぱい花を咲かせています。

コシガヤホシクサ

埼玉県レッドデータブック絶滅

昭和13年に旧越ヶ谷町の元荒川付近で発見され、14年に新種として発表されたホシクサです。発見地にちなみ、コシガヤホシクサと命名されました。

越谷市と茨城県下妻市に自生していた小さくかわいい水草です。湿地に生育するホシクサ科の植物ですが、現在、野生のものは絶滅しています。国の研究機関で野生復帰のための取り組みが進められており、越谷市でも残された種子から野生復帰のための取り組みを行っています。

8月～9月に直径1mm～2mmほどの白い星型の小さな花を咲かせます。



キタミソウ

埼玉県レッドデータブック絶滅危惧ⅠB類

北海道の北見地方で最初に発見されたのでこの名前がついたといわれています。

北方系の植物で、現在群生地としては、越谷市を中心とする埼玉県東部周辺、茨城県の小貝川、北海道や熊本県熊本市の一部だけとなっている珍しい植物です。

越谷市で最も多く群生して見られるのは、葛西用水路瓦曽根溜井です。用水の水位の下がる10月と3月ごろの2回、直径2mmほどの白いかれんな花を咲かせます。



ノウルシ

埼玉県レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類

河川敷の泥地などの湿地に生える高さ30cmほどの多年草です。茎は直立し、葉は互生し、細長い楕円形で長さ5cm～6cm、幅6mm～7mmです。4月～5月に茎の先端に5枚の葉を輪生し、そこから放射状に枝を出して複数の花をつけます。葉や茎を傷つけるとウルシに似た白い汁が出て、かぶれることからこの名が付きしました。



レンゲソウ



ホトケノザ



フジバカマ



セリ



スミレ



シロバナタンポポ



クコ



キクイモ



ガガイモ



カラスウリ



オオジシバリ



ナガボノシロワレモコウ



イモカタバミ



イシミカワ



アキノノゲシ

生き物

市内の緑道や水辺を散策するとたくさんの生き物が生息していることがわかります。

カルガモやサギ、カワウ、セキレイ、シジユウカラなど…。

そのほか埼玉県レッドデータブックに掲載されているシラコバトやアオバズク、カワセミなどの鳥たちとすてきな出会いがあるかもしれません。



みんな一緒に生きている…



シラコバト

埼玉県レッドデータブック絶滅危惧ⅠB類

昭和31年(1956)1月14日、国の天然記念物に指定され、埼玉県の「県民の鳥」、越谷市の「市の鳥」になっています。以前は、市内や県内で多く見られましたが、現在では数が急激に減っており、埼玉県内の生息数は100羽程度となっています。近郊では、千葉県、茨城県、栃木県などの一部にも分布しています。



アオバズク

埼玉県レッドデータブック準絶滅危惧Ⅱ型

夏鳥として4月の終わりごろ日本全国に渡ってきます。県内では山地の森林や低地の市街地の神社などの大木で繁殖が確認されています。市内では、神社の社叢林や宮内庁埼玉鴨場で確認されています。巣となるうろがある大木や餌となる昆虫が減ってきていることから、子育ての場所が少なくなり、個体数の減少が心配されています。



カワセミ

埼玉県レッドデータブック地帯別危惧

全国の川、湖、沼などにすんでおり、ほとんどの地域で一年中見ることができます。河川周辺の土や崖に巣穴を掘って子育てをします。一時水の汚れや河川改修などにより低地ではほとんど見られなくなりました。市内では、大落古利根川やしらかぼと水上公園、大相模調節池などの水辺で確認されています。





アマサギ



ツミ



ヨシゴイ



アマガエル



アオモンイトトンボ



カイツブリ



ナナホシテントウ



ホンドイタチ



コチドリ



アオスジアゲハ



ジャコウアゲハ



アオサギ



キジ



ギンヤンマ



メジロ

越谷の文化財・史跡・伝統



いにしえの

越谷を伝える

市内には、いにしえの人々の生活や文化、信仰などを今に伝える貴重な資料が有形・無形を問わず数多く存在し、中には、その歴史的な価値を、国や県から指定された文化財や史跡があります。

国…国指定文化財

登…国登録文化財

県…県指定文化財



国

越ヶ谷のシラコバト

江戸時代に外国から輸入されたといわれる鳥で、埼玉県のマスコット「コバトン」のモデルにもなっています。近い将来における野生での絶滅の危険性が高いものとして、埼玉県レッドデータブック絶滅危惧ⅠB類に分類されており、国の天然記念物に指定されています。

国

木造地藏菩薩立像

浄山寺の本尊。肉付豊かな体躯、深く鋭い衣文表現に平安時代前期の特色がよくみられ、定型化されない彫り口から9世紀前半に遡る可能性が考えられます。

関東でも屈指の古さを誇る木彫仏として、平成28年8月に国の重要文化財（美術工芸品・彫刻）に指定されました。



登

木下半助商店

市内の日光街道の中ほどに位置する、明治時代後期から大正時代にかけて建築された道具店です。古くは参勤交代の行列を相手に、旅道具の売買を行う道具屋として商いをしていたと伝えられています。表通りに面する店舗のほか、土蔵、石蔵、主屋、稲荷社が現存し、明治期の越谷における商店の面影を伝えています。平成27年11月、市内初の国の登録有形文化財（建造物）に登録されました。



県

下間久里の獅子舞

埼玉県東部および千葉県西部の獅子舞行事の源流とされています。例大祭は毎年7月の第3日曜日に行われ、笛や太鼓の音に合わせて太夫獅子、中獅子、女獅子3頭1組が下間久里の香取神社の境内や地区内の家々で家内安全を祈る舞などを披露します。

県

北川崎の虫追い

北川崎の川崎神社において毎年7月24日に行われる行事で、江戸時代から続いています。麦わらを束ねたたいまつに火を灯し、稲につく害虫を追い払い、豊作を祈願するもので、鐘や太鼓を鳴らしながら「稲の虫ホイホイ」と声を合わせ田んぼのあぜ道を行進します。



県

蒲生の一里塚

一里塚は、江戸時代に街道沿いに一里（約3.9km）ごとに設置され、道程の目標や旅人の休息の場などに利用されていました。蒲生の一里塚は、県内の日光街道沿いに残る唯一の一里塚です。





県

木造伝正観音菩薩坐像

鎌倉時代後期の作で、像高は84cm、檜材の寄木造です。顔のつくりと服装が、鎌倉時代後期の関東地方に流行していた宋風美術の影響をうかがわせます。

県

平田篤胤仮寓跡

平田篤胤ひらたあつたね（1776～1843）は、江戸時代後期の国学者で、荷田春満、賀茂真淵、本居宣長とともに国学四大人しゅうじんの一人として位置付けられています。平田篤胤は越ヶ谷と深い関わりがあり、3度目の夫人を越ヶ谷から迎えているほか、越ヶ谷の山崎家から援助を受けていました。



県

久伊豆神社のフジ

越ヶ谷久伊豆神社のフジは、天保8年（1837）に越ヶ谷町の住人、川鍋国蔵が下総国流山から樹齢50余年のフジを舟で運び植樹したといわれ、樹齢200年を超える古木といわれています。

県

廿一仏板石塔婆

板石塔婆のうち種子（梵字）二十一仏を刻んだ板碑は、全国的にも珍しく、貴重なものです。増森にあるこの板碑には、天正3年（1575）8月の銘があり、山王二十一社の本地仏をあらわした種子が刻まれています。



◆文化財一覧

区分・種類	名称	所在地
国指定文化財		
彫刻	木造地藏菩薩立像	野島32(浄山寺)
天然記念物	越ヶ谷のシラコバト	越谷市周辺
国登録文化財		
建造物	木下半助商店	中町(個人蔵)
県指定文化財		
彫刻	木造伝正観音菩薩坐像	増林3818(林泉寺)
考古資料	廿一仏板石塔婆	増森(個人蔵)
無形民俗文化財	下間久里の獅子舞	下間久里(香取神社)
	北川崎の虫追い	北川崎(川崎神社)
史跡	蒲生の一里塚	蒲生愛宕町876
旧跡	平田篤胤飯寓跡	越ヶ谷1700 (久伊豆神社)
天然記念物	久伊豆神社のフジ	
市指定文化財		
建造物	大聖寺の山門	相模町6-442(大聖寺)
	旧東方村中村家住宅	レイクタウン9-51
絵画	斎藤豊作遺作「風景」 鳥文斎栄之筆 「瓦曾根溜井図」	東越谷4-9-1 (市立図書館)
	安国寺の円空仏	大泊910(安国寺)
木造阿弥陀如来立像		
彫刻	木造会田七左衛門夫婦坐像	七左町7-278(観照院)
	木造地藏菩薩立像	瓦曾根1-5-43(照蓮院)
	木造釈迦如来涅槃像	越ヶ谷2549(天嶽寺)
	香取神社の彫刻	大沢3-13-38(香取神社)
	西福院の円空仏	谷中町3-90(西福院)
	銅造五智如来立像	北越谷4-8-5(浄光寺)
	弘福院の円空仏	北越谷1-21-26(弘福院)
	木造阿弥陀如来坐像	大松60(清浄院)
	木造阿弥陀如来坐像	
	銅造阿弥陀如来立像	増林3818(林泉寺)
	工芸品	野島浄山寺の大鯉口
懸仏		越ヶ谷1700 (久伊豆神社)
林泉寺の香炉		増林3818(林泉寺)
古文書	北条氏繁掟書	相模町6-442(大聖寺)
	伊奈備前差添書	越ヶ谷本町(個人蔵)
	本陣資料一括 (福井家文書)	大沢 (県立文書館寄託)
	浄山寺の朱印状	野島32(浄山寺)
	代々の朱印状	平方249(林西寺)
	寺領寄進朱印状	宮本町2-54(迎攝院)
	観智国師書状	大泊910(安国寺)
	西方村旧記	東越谷4-9-1 (市立図書館)

区分・種類	名称	所在地
市指定文化財		
考古資料	建長元年板碑	御殿町3-36
	文明3年十三仏板碑	増林2687(勝林寺)
	文和3年六字名号板碑	大成町(個人蔵)
	貞治6年七字題目板碑	大道(個人蔵)
	天文22年 弥陀三尊圖像板碑	大成町(個人蔵)
	承応2年庚申塔	大成町(個人蔵)
	廿一仏板石塔婆	東町5-238(金剛寺)
歴史資料	徳川家康の夜具	相模町6-442(大聖寺)
	清蔵院の山門	蒲生本町13-41 (清蔵院)
	一乗院の建具	三野宮618(一乗院)
	会田家歴代の墓所	神明町(個人蔵)
	呑龍上人供養墓石	平方249(林西寺)
	平田篤胤奉納大絵馬	越ヶ谷1700 (久伊豆神社)
	越谷吾山供養墓石	越ヶ谷2549(天嶽寺)
	窮民救済の碑	瓦曾根1-5-43(照蓮院)
	越巻中新田の 産社祭礼帳	新川町(個人蔵)
	越ヶ谷順正会関連資料	越ヶ谷4-2-1 (市役所。 一部市立図書館)
	三ノ宮卯之助銘の力石	三野宮333 (香取神社) 越ヶ谷1700 (久伊豆神社)
有形民俗文化財	第六天の算額	下間久里(個人蔵)
	「観音堂の縁日風景」 絵馬	大泊104(大泊観音堂)
無形民俗文化財	越谷の木遣歌	越谷市木遣保存会
史跡	見田方遺跡	見田方遺跡公園周辺
	清浄院開山塚	大松60(清浄院)
	越ヶ谷吾山句碑	越ヶ谷1700 (久伊豆神社)
旧跡	越ヶ谷御殿跡	御殿町
	千徳丸供養塔	瓦曾根1-5-43(照蓮院)
名勝	久伊豆神社社叢	越ヶ谷1700 (久伊豆神社)
天然記念物	林泉寺駒止のマキ	増林3818(林泉寺)
	有瀧家のタブノキ	中町(個人蔵)
	ラクウショウ	越ヶ谷2566 (越谷アリタキ植物園)
	大聖寺のタブノキ	相模町6-442(大聖寺)
	浅間神社のケヤキ	中町7(浅間神社)
	中村家のイチョウ	東越谷(個人蔵)
	聖徳寺のイチョウ	北川崎18(聖徳寺)
	田中家のクスノキ	川柳町(個人蔵)
	森家のイチョウ	平方(個人蔵)
	中村家のクスノキ	大成町(個人蔵)

{ 越谷の伝承を歌う }

民謡は、唄の文句や歌われた場所から、土地の歴史や昔の習慣、人々の考え方や信仰と風習などを知ることができます。北海道の「ソーラン節」や沖縄県の「ていんさぐぬ花」のように、越谷市にも郷土の生活に結びついて伝承されてきた民謡が数多く存在します。寺社の祭礼や婚礼などの宴席、田植えなどの労働中など、さまざまな場面で歌われてきた民謡。現在も郷土芸能祭などで披露されている中から一部を紹介します。

右記の二次元コードから、「越谷の祝い唄」と「遣声・鳶かけ」を視聴できます。



越谷の伝承民謡

江戸時代、交通の要所であった越谷では、行きかう旅人からさまざまな唄が運ばれてきました。唄は人々に愛され、暮らしに寄り添いながら越谷の民謡として育まれましたが、昭和 50 年代には、越谷の民謡の多くが忘れられ、消えつつありました。

現在、郷土芸能祭などで披露されている越谷の民謡は、昭和 50 年代に越谷市出身の民謡師範が市内に長く暮らしている高齢者から採譜し、保存・伝承したものです。

越谷の祝い唄

(昭和 54 年 越谷市袋山 山崎アキ氏から江川麻裕美氏が採譜・編曲)

今日こちらに 招かれて 奥の間座敷を 見申せば
水仙花が 三つ咲いて 一つはこの座のお肴よ
二つはこちらの 上がり花 三つはヨーオ ヨーオエ
身上の上がり花

今日はこちらの だんなさま 朝日のさすよな 息子もち
夕日のさすよな 嫁もらい 七福神なる 孫をもち
末代長者で 暮らします さてはヨーオ ヨーオエ
めでたやおめでたい

■ 昔、婚礼やお祝い事は、式場やレストランではなく、自宅に人を招いて宴会がひらかれたものでした。招待された人々は、おめでたい言葉を唄にのせて、唄でその家のたたずまいをほめ、人をほめて、お祝いしました。

(資料提供: 越谷伝承民謡民舞保存会)

越谷の木遣

越谷の木遣は、一説には江戸開府以降、関東地方を中心にとび職などの土木工事等に関わる職人の間で労働歌として発達した木遣歌が伝えられてきたものといわれています。棟上げ祝儀等に歌われ、主に久伊豆神社の祭りの練歌、山車の曳き歌として伝え

られてきました。

地歌、端物、流し物など、種類により5つに分類された23曲を組み合わせて歌います。

越谷の木遣歌は、平成2年に市の指定無形民俗文化財に指定されました。

■ 記号の意味： \sim …「木遣り」1人で歌う \sim …「側受^{か(わ)うけ}」みんなで歌う

やりこえ 遣声

\sim よおーいーやーあーりょうー

\sim えーえーえー よおーいーいーいーいーいーいー

■ いかなる木遣を歌うときも最初に歌う木遣歌で、地歌に分類されます。「やるよー」「いいよー」という意味の掛け声になっています。

鳶かけ

\sim おーおーおー

おーおーいーまーあーあー

だあーもーおーそー

\sim あーそーほーりゃー

よおーほいーよおーほいーね

\sim あーあーえーえーえーやあーあー

\sim あーやーれーこーりゃーねー

\sim ごーよーおーわーあーめーえーでー

めーでーたーのー

\sim あーやーれーこーりゃーねー

\sim わーかーまーつーうーうー

さーあーあーまーあーあーよー

\sim あーやーれーこーりゃーねー

\sim えーだーあーもーおー

さーあーかーあーえーえーえーてー

\sim あーやーれーこーりゃーねー

\sim えーえーえー はもーやーあー

しーいーげーえーるーうーえー

\sim あーこーりゃー

\sim あーそーほーりゃーはーれーわー

せーえーえーそーほー

ほーりゃーよーおーほーおーよー

いーさあーやあーあー

あーあー やあーあーあー

はーのーおーせーえーえーえー

えーえーえーやあー

はーらーやーれーこーりゃーねー

■ 鳶かけは流し物に分類されます。声を張らずに歌える流し物は道中物ともいわれます。道中とは、長い作業をすることをいい、祭りでは渡御や還御の行列の様に長い時間歌う時に歌われます。

[]の部分では、「御葉は目^め出たの若松様よ枝も栄えて葉も茂る」と歌っています。他にも、「峰の小松の雛鶴かけて谷の流れで亀あそぶ」など、さまざまなめでたい歌詞を盛り込み、全体を繰り返しながら歌います。

(資料提供: 越谷市木遣保存会)

越谷の産業

伝統工芸

越谷の匠の技が生み出す美



“願いを伝える” 越谷だるま 世の中を丸くおさめる、福だるま

全体的に丸みを帯び、球のようにまん丸の越谷だるま。世の中が丸く収まり、皆が幸福であるようにと願うだるまたちの顔は、一つひとつ手で描かれています。

およそ300年の歴史を持つ越谷だるま。江戸時代に、「だる吉」という人形師が、だるまのモデルとされる「達磨大師」の姿を起き上がり小法師に描いたのが始まりといわれています。それが魔よけとして、やがては縁起物として、全国へ広まっていきました。

現在、越谷だるまは年間40万体制ほど作られており、川崎大師や柴又帝釈天など、関東を中心に全国各地へ届けられています。

鼻が高く、

色白で優美な顔立ち

どこことなく上品な雰囲気を感じる越谷だるま。その理由は横から見るとよく分かります。鼻がすっと高いのです。これは越谷の「地の利」のおかげ。出荷先である江戸まで距離があると、道中でだる

ま同士がぶつかって欠けるお

それがあるため、形を平べったくする必要がありません。

その点、越谷は江戸に近かったため、越谷だるまは鼻を高くすることができたのです。やや色白なのも越谷だるまの特徴で、「美男子」と呼ばれることもあります。

二つとして

同じ顔はない

現在、越谷だるまを作って

ません。

匠の手

塗っては乾かし、描いては乾かし……。時間をかけてだるまが作られています。



①下地塗り
顔料とにかわを混ぜた下地を塗り、真っ白なだるまが出来上がります



②上塗り
下地が乾いたら、今度は全体を真っ赤に塗っていきます



③顔描き(1)
顔は白、目の周りはオレンジ色に塗っていきます



④顔描き(2)
最後に眉、ひげを描き入れ、墨が乾いたら完成です



“食文化を伝える”
越谷手焼きせんべい
 米の味わいを噛みしめる手焼きせんべい

口に入れると、米の味をしっかりと感じることでできる越谷手焼きせんべい。パリッとした食感としょうゆの風味を堪能できるよう、手焼きにこだわっています。

越谷手焼きせんべいの起源は、江戸時代までさかのぼります。越谷は、かつて「江戸の米蔵」と呼ばれていたほどの米どころ。米農家が、余った米を団子状に丸めてからつぶして焼き、「焼米」というおやつにして食べていたのが

越谷手焼きせんべいの始まりだといわれています。しょうゆのまちとして知られる千葉県野田市が近いこともあって、焼米にしょうゆを塗るようになり、やがて今のせんべいの形になりました。そのため、越谷市内のせんべい

い屋は、もともとは団子屋だったというお店が少なくないのです。

天候を見ながら行う

生地作り

せんべいの味を決めるのは、なんといつても生地です。

越谷では米100%で作ら

匠の手

乾燥の時間をたびたび取りながら、手間暇をかけて丁寧に焼き上げられています。

- ①乾燥
 焼く前の生地は、焼き器の上部に置いて温めておきます
- ②焼き(1)
 均等に火が入るよう、こまめにひっくり返します
- ③焼き(2)
 膨らんできたら、「押し瓦」で平らになるよう押さえながら焼いていきます
- ④仕上げ
 しょうゆを塗ると途端に香ばしい匂いが立ち上ります

れているせんべいが多く、その生地は天候の影響を大きく受けます。そのため、天気や気温、湿度や風の有無をチェックし、最適と思われる日を選んで生地作りを行っています。

生地が出来上がった後も、天日干しで2日、陰干しで1

日ほどと、時間をかけて水分を飛ばしていきます。

1枚ずつ、炭火で手焼き

出来上がった生地は、炭火で1枚ずつ焼き上げていきま

す。生地が乾燥してしまうので、夏場でもエアコンや扇風機は使うことができません。時に過酷な状況でも、ただただ丁寧に。きれいな円になるようにこまめに裏返し、しょうゆをさっと塗り、さらに乾燥させてようやく出来上がりです。

パリッという音とともに、米のおいしさを味わうことのできる越谷手焼きせんべいは、手間暇と心を込めて作られています。



“子どもへの思いを伝える”
越谷ひな人形
 人の手で積み重ねられてゆく繊細な美しさ

気品にあふれた優雅な顔立ちの越谷ひな人形。
 その美しさは、たくさんの職人たちの、丁寧な仕事の積み重ねによって生まれています。

京都で生まれたとされるひな人形。江戸へ伝わると、現在の日本橋付近に多くの人形師が集まるようになりました。越谷ひな人形は、会田さうえもん佐右衛門という人が江戸で人形作りを学び、故郷である越谷に技術を持ち帰ったことが始まりといわれています。京都とも江戸とも少し違う、優雅な顔立ちが評判となりました。

今でもたくさんの人形師が、会田氏の技を受け継いでいます。

**多くの職人の技が
 一体の人形に**

ひな人形が完成するまでには、何人もの職人が関わっています。髪付師、頭師、手足師、小道具師、着付師…。彼らが力を合わせることで、一体のひな人形が出来上がるのです。

絹糸で作られた髪、一筆ず

つ描かれた表情、何枚もの布が重ねられている着物。見つめるほどに引き込まれていく、芸術品ともいえる美しさは、職人たちの高い技術の結晶です。

**離れた家族への思いを
 人形に込めて**

女の子の成長を願って飾られるひな人形。子どもや孫と離れて暮らしている人が、もつと子どもを身近に感じたいと

ひな人形を購入することも珍しくありません。着物の柄は時代や流行に合わせて変わっていくものなので、最近では大人でもひな人形を飾りやすいよう、モノトーンなどのシックなデザインの着物も。離れて暮らしていても、どうか健やかに育ってほしい。ひな人形は、そんな願いを小さな体でそっと受け止めています。

匠の手

繊細な人形作りは、たくさんの職人の手を経て進められています。



①胴体作り
束ねたわらを削り、紙を巻きつけて胴体にします



②手足作り
胴体に手足を取り付けると、少しずつ人形の輪郭が見えてきます



③着付け
何枚もの布を実際に重ねることで、重厚感が出てきます



④頭付け
出来上がった胴に頭を差し込み、小道具を取り付けて完成です



“子どもへの思いを伝える”

越谷甲冑

匠が生み出す伝統技術の結晶

皮革、漆工芸、金工、組み紐…。甲冑を形作るあらゆるものは、職人の手仕事から成っています。甲冑には、日本全国のみならず、さまざまな伝統技術が結集しているのです。

なぜ越谷で甲冑が作られる

ようになったのか、はっきり

したことは分かっていません。

かつて防具として使われてい

た甲冑は、平安時代には勝利

祈願のために奉納されるよう

になり、江戸時代になると、

子どものために端午の節句に

飾られるようになったといわ

れています。いつしか越谷に

は、甲冑を作る工房が増えて

いきました。

大きな甲冑を支える

小さな手仕事の数々

甲冑の製作工程を見学する

人が必ず驚くというのが、細

かな手仕事です。絹や組み紐

や金細工など、大きな甲冑は

たくさん小さな部品によつ

て成り立っています。これら

のほとんどが人の手で作られ

ているのです。

どんな細工品を使うのか、

紐をどこまで細かく編み込む

のか、細部に各工房の特徴が

表れます。使われている部品

は、すべてが伝統工芸品だと

いっても過言ではないほど。全

国各地の伝統工芸品を身にま



子どもの健やかな

成長を願って

甲冑には、「大願」「武勇」

などそれぞれに名前がありま

す。祝いの言葉や、子どもへ

の願いなどを込めて付けられ

るものです。

また、甲冑の色合いは時代

や流行に合わせて変わってい

きますが、色によって願いごと

も変わります。子どもの成長

を心から願い、人々は昔から

甲冑を飾ってきました。数百

人にもものぼる職人が思いを込

めて作り上げた甲冑を、親が

子を思いながら選び、手渡す。

一体の甲冑には、たくさんの人

の思いが込められています。

匠の手

一体の甲冑には、何百という小さな部品が集まっています。



①金具作り

金属を叩き、金具を形作ります



②小札作り

専用の工具を使い、紐を通すための穴を開けていきます



③組み立て

少しずつ鎧が組み上がっていきます



④仕上げ

出来上がった部品を縫い合わせ、鎧が出来上がります



①木取り

たくさんの桐材の中から最適なものを選び出し、厚みが均一になるように切り揃えていきます



②切りまわし

箱の大きさにぴったり合うよう、桐を切っていきます



③組み立て

接着剤で桐材を貼り合わせたあと、ゴムを巻いて圧をかけ、しっかり接着します



④仕上げ

かんなどで角に丸みをつけ、紙やすりで表面をなめらかにします

匠の手

桐材加工の工程は、江戸時代からほとんど変わっていません。

“品質を伝える”

越谷桐箱

美しい桐が宝物をそっと包み込む

焼物や掛け軸など、とっておきのものを保存しておくために使われているのが桐箱です。桐自体の輝くような美しさに加え、親子3代で使うこともできるという品質の高さも自慢です。



江戸時代、流行作家の式

亭三馬が「江戸の水」という化粧水で大成を収めました。化粧水が入ったガラス瓶は桐箱に収められており、そのほとんどが越谷産だったといわれています。

以来、越谷には桐材の加工技術が根付きました。細かな加工や接着は今もすべて手仕事で、機械化された切り出しの工程も、作業自体は昔から変わっていません。

200年以上も前から脈々と受け継がれてきた職人の技術が、今も越谷の桐箱に生きています。

どんなものでも

最適な保存状態に

桐箱には焼物や掛け軸、最近ではメロンなどの果物が入られることも。昔から「大切なものは桐箱へ」と言われてきたのにはちゃんと理由があります。

桐の年輪には目に見えない

細かい穴が無数に空いています。外の湿度が高いときには穴をふさぎ、乾燥しているときには通気を良くし、常に中のものをベストの状態に保つ性質を持っているのです。湿気がこもることも、乾燥することもないので、保存剤のない時代からとても重宝されました。

子どもへ、孫へ伝えられる品質の良さ

かつて、桐材で作られた箱は、代々受け継がれるもので、親子3代で使うことも珍しくありませんでした。職人たちは、木材の裏表や年輪の様子を見て、自然の道理に沿うよう、最適な箇所最適な木材を使っています。

桐に決して無理をさせないその丁寧な仕事、10年後、20年後も、中に収められている宝物を守っているのです。



桐たんす

国内産の桐材を使用し、一人の職人が精魂込めて最後まで仕上げています



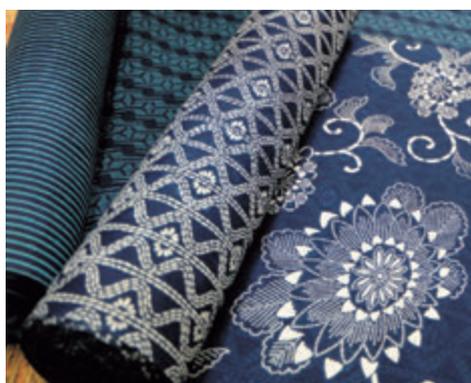
彫刻刃物

昔ながらの鍛冶仕事で、彫刻に関する刃物を製造しています



三味線

伝統と技術を守り、三味線や琴の製造、修理、調整などを行っています



ゆかた染色

浴衣地の表と裏に異なる柄を同時に染められる「籠染め」の技法。現在は休止中のため、染色に使われる型(籠)は灯籠として活用しています



切子ガラス

江戸切子の技法を現代に受け継ぎ、現代風の柄にも力を入れています



都うちわ

関東では唯一、真竹と上質和紙を使い、独特の形状のうちわをすべて手作業で作っています

越谷に伝わる 工芸品たち

越谷には、ほかにも日本の文化ともいえるさまざまな技法を現代に受け継いでいる事業所が数多くあります。

伝統を受け継ぎ、新たなステージへ

越谷には、古くから受け継がれてきた技術を生かし、全国そして海外へと進出した新たな製品があります。いずれも、伝統工芸のよさをさらに引き出した逸品です。

失われかけた籠染め技法から生まれた 優しい光を放つ照明器具



平成27年、経済産業省の日本が世界に誇るべき優れた商品を発掘する事業「The Wonder 500™」にて越谷の「籠染灯籠」が選ばれました。

大正時代から、真鍮製の筒状の型である「籠」に柄を施し、ゆかたの生地を染める「籠染め」が国内に広まりました。しかし、近年その数を減らし、市内の中野形染工場が国内最後の

1軒となっていました。この技法と籠を後世に残し、新たに活用する方法を模索していたのが、市内で創業したデザイン企業「ハナブサデザイン」です。

2社の協力によって生まれた籠染灯籠は、その名のとおり、籠の中に照明を取り付けたものです。明かりを灯すと、籠のきめ細かで美しい模様が浮かび上がり、周囲を照らします。伝統的な技術と斬新なアイデアが組み合わさった逸品です。

独自の塗装技術を開発。その美しい「塗り」は海外からも注目される



古くから漆など「塗り」の技術が身近にあった日本人。鏡のようにものが映る塗装は、その品を一段と美しく見せ、人々の目を惹かせてきました。「鏡面塗装」とも言われる塗りの技術を独自に発展させ、一点の曇りも無い「かつてない鏡面塗装」（商標登録済）として確立させたのが、(株)栗原木工所です。

その高い技術と新たな分野にも果敢に挑戦する姿勢は、海外の高級ブランド店の目にも留まり、店舗の内装を依頼されるほどとなりました。現在、栗原木工所では「KOTURU」というオリジナルブランドを立ち上げ、鏡面塗装を施したスマートフォンのケースやインテリアを発表するなど、これまで培ってきた技術を存分に生かした新たな製品の開発に取り組んでいます。

人形・甲冑作りの技術を最大限に生かした現代風の製品

「戦国武将の象徴が生活空間と一体化」

織田信長や徳川家康、伊達政宗…。名だたる戦国武将を特徴付けるものの一つが、「兜」です。鮮やかな色彩や特徴的な形状の前立てなどで、甲冑の中でも特に人気を集める部位です。

㈱志保では、甲冑作りの技術を生かし、兜をボトルキャップにした「サムライ ボトル 兜」を開発しました。平成28年に埼玉県伝統工芸品等新製品開発コンテスト「IMPACT SAITAMA」で優秀賞を獲得したこの製品は、サイズこそボトル用に小さく作られていますが、素材や製法、戦国武将ごとに異なるデザインなどは、本物の兜そのまま。作り手のこだわりがあちらこちらに感じられる逸品です。



「スマートフォンが戦国武将の装いに」

5月5日のこどもの日に飾る五月人形。古くから越谷でも作られ、「越谷甲冑」として現代に伝えられています。甲冑に施された多くの技法の一つが「威しおどろ」です。威しとは、甲冑を形作る板を、色鮮やかな糸で結び合わせ組み上げていく技法で、使用する糸の色や編み方で、さまざま柄を作り出すことができます。

㈱朝比奈では、この「威し」をスマートフォンケースと組み合わせ、新たな製品の開発に成功しました。甲冑を作るときと同じく、職人が一つひとつ丁寧に作るこの製品は「サムライ フォン カバー」と名付けられ、平成28年に「IMPACT SAITAMA」で最優秀賞に輝きました。



「木目込み技法を活用した新製品の開発」

木目込みきめこみは、ひな人形や五月人形などの技術の一つで、型から抜き出した人形に、着物のしわや模様などのラインを彫り、そこに布の端を押し込んでいく技法です。

㈱柿沼人形では、この技法を取り入れた、通年販売できる商品を開発できないかと、伝統的な縁起物である「招き猫」に着目。木目込み技法と招き猫というこれまでにない組み合わせや、パワーストーンや革など従来にはない素材を取り入れたことなどが注目され、平成28年、経済産業省の「The Wonder 500™」に選ばれました。さらに小物入れにもなるトレイなども開発し、招き猫とあわせ国内外から注文が寄せられています。



農産物

越谷は、古くから豊かな水源を生かして稲作が営まれてきた農業のまちです。しかし、農地の宅地化の進行による農地の減少や農業者の高齢化などの問題も抱えています。一方で、首都近郊という地理的特性を生かし、野菜の生産や観光農園の経営に取り組む農家が現れるなど、多彩な農業が行われています。

越谷ねぎ

越谷ねぎは、白身がしっかりと締まり、料理に使っても煮くずれせず、辛味と甘みが絶妙な越谷特産のネギです。煮て、焼いて、揚げて、薬味で、どんな食べ方でもおいしさを発揮します。その品質の高さから、東京の有名料亭、高級料理店やそば屋などでも使われている、高級食材として名高いネギです。



越谷のネギ栽培が始まった時期ははっきりしませんが、江戸時代には良質なネギが栽培され、広く愛されていたとする古い資料もあります。現在は、主に増林地区や新方地区などで作付けされており、出荷量は年間約2000トンとなっています。



クワイ

クワイは、冬に収穫される水生植物で、越谷では江戸時代中期以降に、水田の裏作として栽培されるようになったといわれています。大きな芽がでることから「めでたい」と正月料理などに用いられ、越谷は全国でも有数の生産量を誇っています。



現在は、荻島・出羽地区で栽培されており、大玉は京浜、小玉は関西方面に出荷されています。また、クワイの消費拡大を目指し、クワイを使っ

たお菓子も商品化されています。

クワイを使ったお菓子

市内の事業所で、大福や饅頭、パイ、サブレなど多種多様なお菓子が販売されています。クワイの風味やほのかな苦味がアクセントになっているのが特徴です。



慈姑パイ



越谷くわい銘菓



慈姑サブレ

山東菜

さんとうさい

山東菜は、中国山東省原産の白菜の一種です。越谷では昭和40年代に栽培が盛んに行われるようになりました。「さんとうな」と呼ばれることもありますが、越谷では「さんとうさい」が一般的です。

大きさは白菜よりも一回り大きく、白菜と違って葉の先が丸くならず、先端の内側の葉が黄色味を帯びているのが特徴です。

12月～1月に収穫され、栄養価が



高く漬物などで楽しむことから、越谷の冬の代表的な野菜の一つとなっています。



山東菜漬

山東菜のよく知られる食べ方が漬物です。越谷市の特産品として親しまれています。

米

越谷は、かつて「江戸の米蔵」と呼ばれるほどに稲作が栄えていました。現在でも、市の農地面積の約7割が水田で、豊かな水源を生かした稲作が行われています。主な栽培品種は、「コシヒカリ」や「キヌヒカリ」のほか、埼玉県の推奨品種「彩のかがやき」などです。

また、越谷は400年以上前の慶長年間から続くもち米「太郎兵衛もち」の原産地でもあります。戦時中に栽培農家がほとんど無くなってしまった時期もありましたが、市や市内農家などが保存に向け協力したことで、現在は作付面積が4ヘクタールを越えるまで広がっています。



越谷の米から作られた酒

市制50周年を記念して、市内の酒販組合が、県内の酒造業者と日本酒「越ヶ谷宿」を制作しました。市内産の米を原料とすることにこだわりつつ、風味や口当たりにも妥協しない逸品です。



昔ながらの味を現代に伝える餅

原料と同じ名前の「太郎兵衛もち」は、コシが強く粘りがあり、独特の風味が特徴の餅です。保存料などは使わず、丁寧に手づくりされています。天皇家への献上品として用いられたほか、徳川家康も食したといわれています。



イチゴ

越谷の新たな特産物として市内外から注目されているイチゴ。首都近郊という越谷の地理的条件を生かし、市内では、越谷いちごタウンを含む9軒で観光農園が営まれています。シーズンとなる冬から春にかけて、多くの観光客でにぎわっています。



また、各観光農園や飲食店などで越谷産イチゴの加工品を製造・販売しています。

お菓子にも使われるイチゴ

市内の洋菓子店などで、イチゴをそのまま使ったり、ジャムなどに加工したりして利用されています。幅広い世代に喜ばれるイチゴのお菓子は、土産物にも最適です。



苺のかけジャム

こしがや苺いち笑

越谷いちごの森

小松菜

温室栽培の小松菜は、1年を通して栽培され、夏は30日、冬は60日ほどで出荷されます。年間5回〜8回栽培できる効率のよい野菜で、カルシウムは、野菜のなかでトップクラスの量を含んでいます。

東京の小松川（江戸川区）が原産といわれていますが、埼玉県の小松菜の生産量は全国1位（平成22年度）で、越谷市でも小松菜の専門農家があるなど生産が盛んです。



市内産野菜を使ったこんな商品も 自家栽培のトマト 100%を使ったジュース

市内のトマト農家が栽培・製造・販売まですべてを行っているこだわりのトマトジュース。甘くさっぱりとした味わいで高い人気を誇っています。



越谷を全国に発信する新たなご当地グルメ

越谷ねぎと市内の宮内庁埼玉鴨場がモチーフの「こしがや鴨ネギ鍋」を商品化。冬季には、市内の複数の飲食店でも食することができるメニューです。



越谷の農業を未来へつなぐ

〈新たな農業の担い手を育てる取り組み〉

越谷市が抱えている農業問題の1つが、農業従事者の高齢化と農業後継者・担い手の不足です。

市では、これからの越谷の農業を支えていく若者を育成するため、生産だけでなく、流通・販売などのノウハウも習得できる研修事業を行っています。

これまで、イチゴ（平成22年度～26年度／2期）、ネギ（平成27年度～／2期）、クワイ（平成30年度～／1期）の研修を行いました。



〈イチゴに続く高収益農業の実現に向けて〉

農業を今後も継続・発展させていくためには、人材の育成とともに、収益性の高い農業経営を支援する必要があります。

越谷市では、平成30年度からメロンの試験栽培を新たに始めました。メロンを水耕栽培し、1株から20個以上収穫することができるシステムで、省力化で高収益農業が期待できます。

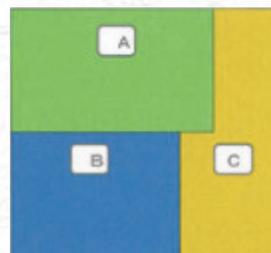
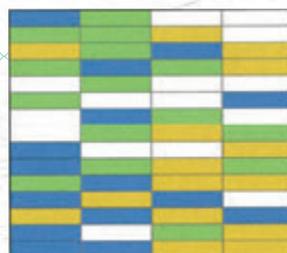
市内でにぎわいを見せているイチゴに続く新しい特産品にするため、生産技術の向上や販路の検討を重ねています。



〈優良農地の保全・有効活用〉

農地は、食料生産だけでなく、気温の上昇の抑制や洪水の防止、生態系の保全など多くの機能を有しています。首都近郊に位置する越谷市においては、環境を保つ役割を果たしている農地は大変貴重な資源であり、財産です。

このような考えから、市内に残された優良な農地を計画的に保全・活用し、農作業の効率化、農業経営の安定化を目的として、農地の集積・集約化に取り組んでいます。



農地の集積・集約化のイメージ

越谷ゆかりの著名人

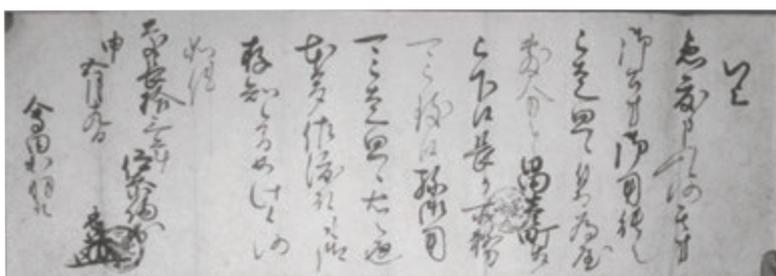
こしがやの歴史を支えた人物館

越ヶ谷郷の開発領主

会田出羽資久

(?～1619)

綾瀬川の氾濫で荒廃していた沼沢地の干拓を図り、谷中から蒲生愛宕山地先の綾瀬川まで落とし堀を掘り割った。これを出羽堀と称する。徳川家康治世のもと、越ヶ谷郷を解体し、数多くの行政村の成立に尽力した。



家康の御用を勤めた褒賞として
屋敷地1町歩を与えることが記された伊奈備前差添書

出羽地区の開発者

会田七左衛門政重

(1580?～1642)

関東代官頭伊奈半十郎忠治の重臣の1人として、各地の検地奉行を務めた。また、出羽地区の新田開発に尽力するとともに、村々に寺院の創立等を行い、近世の村づくりに多大な功績を残した。七左衛門村(現在の七左町)の村名は、この地を開発した会田七左衛門政重の名をとってつけられたものである。



会田七左衛門政重像(木造会田七左衛門夫婦坐像一部)

俳諧師にして方言学の祖

越谷吾山

(1717～1787)

越ヶ谷新町の会田家出身と伝えられている。若年より江戸の文人と交流して俳諧に精通し、のちに江戸に出て芸道の高位である「法橋」に推挙された。日本初の方言を中心とした民俗学の著書を残し、方言学の祖と評された。



越谷吾山 肖像画

漢学者兼国学者

渡辺荒陽

(1752～1838)

恩間村の名主の長子として生まれたが、儒学を中心に学問に熱中し、家を子に譲って江戸に転居、

日本橋新右衛門町に塾舎「時習堂」を開き教学にあたった。のちに国学に転じ、漢文の儒学書や国学神道の随筆書など、40を超える書冊を著した。

郷土史家

福井猷貞

(1769?～1822)

越ヶ谷宿の本陣（幕府の高官や高家・公家・格式のある僧侶の休泊にあてられる旅籠）を営む。そのかたわら、大沢町・越ヶ谷町の地誌「大沢猫の爪」、「越ヶ谷瓜の蔓」をはじめ、越谷の歴史のみならず、日光道中宿場の歴史を知るうえで欠かせない史料を数多く残した。



本陣資料一括 (福井家文書)

故郷の窮民を救済

稲垣市兵衛

(1768～1837)

瓦曾根村の名主の子として生まれ、婿養子とし

て入った浅草の池田屋を継ぐと、江戸でも屈指の豪商と知られるようになった。その後、故郷の瓦曾根村の窮民救済に尽力した実父の遺志を継いで凶作に備え金銭を積み立て、天保7年(1836)の大凶作で、故郷の瓦曾根村に100人近い窮民が出た折には、この積立金から、1人につき金一両ずつを施金してこれを救った。

越谷の剣豪

中村万五郎有道軒

(1784～1860)

幼時より剣道を志し、清久村（現在の久喜市）と江戸麹町で道場を経営した。後に、故郷東方村の実家の敷地内に道場を開くと、門前に市が立つほどの盛況をみせ、門人は1000人を超すほどであった。



中村万五郎有道軒 肖像画

日本一の力持ち

三ノ宮卯之助

(1807?～1854)

三野宮村出身で、江戸後期に日本一の力持ちといわれた。日本各地に卯之助が持ち上げたときれる力石が残されており、市内では越ヶ谷久伊豆神社に1個、三野宮香取神社に4個、三野宮向佐家に1個の計6個が確認されている。



三野宮香取神社の力石

越谷が世界に誇る美術家

齋藤豊作

(1880～1951)

西方村の旧家齋藤家に生まれた。フランスで新印象派の画風を習得し、第7回文展に「落葉かき」と「夕映の流れ」の2点を出品し、見事褒状を

受賞。「夕映の流れ」は、代表作として東京国立近代美術館に収蔵されている。石井柏亭ら10人と共に文展洋画部門に第二科(のちの二科展)を創立した。大正4年に豊作が母校の大相模小学校に寄贈した絵画「風景」は、現在市立図書館に展示されている。

受賞。「夕映の流れ」は、代表作として東京国立近代美術館に収蔵されている。石井柏亭ら10人と共に文展洋画部門に第二科(のちの二科展)を創立した。大正4年に豊作が母校の大相模小学校に寄贈した絵画「風景」は、現在市立図書館に展示されている。



齋藤豊作遺作「風景」

越ヶ谷順正会旗揚げに尽力

高橋正義

(1898～1961)

生活困窮者救済のため、昭和11年に相互扶助を目的として成立した「越ヶ谷順正会」の発起人の1人。越谷市役所の敷地内に建つ「相扶共済」の碑には「国民健康保険の発祥の地なり」と越ヶ

谷順正会の発足を讃える文が刻まれている。



「相扶共済」の碑

窮民を救った農地解放

関根宗輔

(生没年不詳)

大正時代前期、農村で地主制のもと農事に携わる小作人層の生活が困窮し、各地で小作争議が頻発した。増林村の関根宗助は、大正11年に時価の3割以上安い価格で自発的に田畑を小作者へ譲渡し、小作問題の解消を図った。

顔研究の文化人・画家(歯科医師)

山崎清

(1901～1985)

日本歯科医学専門学校を卒業後パリに留学し、

歯科と人類学の研さんを積んだ。西欧でも有名な学者で、顔の研究者としても知られ、人相学、随筆など多くの著書を残す。昭和38年に越谷市初の名誉市民となった。



山崎清

日本の植物分類学の権威

大井次三郎

(1905～1977)

日本産種子植物の集大成である「日本植物誌 顕花編」を昭和28年に出版し、日本の植物分類学の基礎を築いた。同著は40年に英語版も出版され、今日も植物誌の編纂に欠かすことのできない貴重な書物となっている。



「日本植物誌」

絶対を問いつづけた能楽師

関根直孝

(1909～1997)

18歳で能の世界に入り、大正、昭和と戦乱や復興の時代の長い歳月を、観世流の能楽一筋に歩き通した達人。ひたむきな求道と厳しい修行によって体得した芸域は、夢想的・神秘的と評されるに至った。



関根直孝

能楽シテ方観世流の重鎮

関根祥雪(祥六)

(1930～2017)

兄・関根直孝および二十五世観世左近元正のもとで厳しい稽古を積み、芸術祭優秀賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、旭日小綬章などを受賞。長年にわたる自己研鑽と流儀のみならず能楽界発展への多大な功績が認められ、平成28年に観世宗家から、宗家以外では功績の顕著な能楽師にのみ許される「雪号」を授与された。



関根祥雪

参考：川のあるまち 越谷文化 第18号・第19号

越谷市史一通史上

越谷市の文化財(第12集)

「わたしと越谷市」



各方面で活躍する、越谷にゆかりのある著名人にご登場いただき、越谷市との関わりや思い出について語っていただきました。

(広報こしがやお知らせ版平成29年11月号～30年10月号、季刊版29年冬号に掲載したものを再編集しました)

わたしと越谷市



かじた たかあき
梶田 隆章 さん

PROFILE

■ 東京大学宇宙線研究所長
1959年3月9日生まれ、東松山市出身。越谷市在住。埼玉大学を卒業後、東京大学大学院修了。理学博士。
2015年ニュートリノ振動の発見によりノーベル物理学賞を受賞。越谷市名誉市民。

昭和60年、結婚を機に越谷に転居しました。途中何年か離れましたが、平成12年から、再び越谷に住んでいます。自宅の近くには元荒川が流れ、越谷は水辺というイメージがあります。久伊豆神社の落ち着いた雰囲気も大変気に入っています。また、旧日光街道沿いの越谷の街並みの移り変わりを興味を持って見えています。

私は子どものころから自然科学が好きでした。自然や宇宙がどうなっているのか知りたいという気持ちで、研究を続けてきた動機です。皆さんも、興味があることはとことん続けてみてください。

私がニュートリノの小さい質量を発見することができたのは、とても幸運なことに、よい師、よい仲間、よい研究プロジェクトに恵まれ、さまざまなことを吸収し自分を磨くことができたからです。

人生を決めるような大切な出会いは、いつやってくるかわかりません。広く目と心を開いて、日ごろから大切なものに出会ったときの準備をしてくださいます。勉強することもその準備のひとつです。

このたびは越谷市制60周年、まことにめでとございませう。子どもたちの未来を見据えた市政をすすめている越谷市に、私も何らかの形でご協力できればと思っています。



鈴木 健 さん

PROFILE

■プロ野球解説者／元プロ野球選手
1970年1月13日生まれ。
南越谷小学校、富士中学校、浦和学院高校卒業。

小学1年生から高校を卒業するまでの学生時代を越谷で過ごし、越谷市には多くの思い出があります。その中でも特に心に残っているのは、市内を流れる元荒川に設けられた赤水門の近くで遊んだことです。小学生のとき、よく友達と魚釣りをしていました。今でも魚釣りは好きで、インダイ釣りに夢中になっていきます。知り合いのいる宮崎に行き、一日中仲間と一緒に釣りをします。獲れた魚を酒のさかなにするのが最高のぜいたくです。

そんな魚好きの私は、鮮魚を求めて越谷市場に家族とよく行きます。越谷市場は、鮮魚、青果などの新鮮な食材から日用品まで多くの品がそろっていて、見ているだけでも飽きません。お正月の買い出しのためにも利用しています。おいしくてボリュームのあるランチが食べられるのも越谷市場に行く楽しみの一つです。

昨年、高橋市長とお話する機会があり、越谷の魅力を再認識しました。今後、市のますますの発展のお役に立てるならイベント等にも積極的に参加させていただきたいと思っています。越谷市制60周年！誠におめでと〜ございます。

わたしと越谷市



あだち ゆみ さん

PROFILE

■国士舘大学シンクロナイズドスイミング部監督兼
アーティスティックスイミング選手／
ロンドン2012大会日本代表
1989年2月7日生まれ。
南中学校、浦和東高校、国士舘大学卒業。

越谷市制60周年おめでとう
ございます！

私は中学1年生のとき、越谷に引っ越してきました。学生のときはシンクロナイズドスイミング（以下、シンクロ）の練習が大変でしたが、休みのときには母と越谷レイクタウンに行ったりしました。

今は越谷を離れて1人暮らしをしています。実家に帰るとレイクタウンに行きたくなります。レイクタウンは買いたいものをすべてそろえられてとても便利です。

6年前、ロンドン2012大会代表に選ばれ激励会をして

いただいたことがあり、そのときに私の顔が描かれたケーキをいただきました。食べるのがもったいなかったのですが、家族みんなでおいしくいただきました。それがとてもうれしく大変心に残っています。

現在は、大学の学生たちにシンクロの指導をしながら、男女ペアで行うミックスデュエットに取り組み世界選手権を目指しています。

これからも越谷市から多くのアスリートが育ってほしいです。また皆さんに、シンクロに興味を持っていただけたらうれしいです。



かとう れいこ さん

PROFILE

タレント

1969年2月19日生まれ。
大袋北小学校、北中学校、春日部共栄高校卒業。

越谷には4歳から大学生になるまで住んでいました。越谷での思い出は数え切れないほどありますが、その中でも、しらかばと水上公園のプールで遊んだことが特に印象に残っています。

しらかばと水上公園は子どもの頃からずっとお気に入りの中で、毎年夏になると必ずと言っていいほどに通っていました。小さい頃は家族で、大きくなってからは友達同士で行っていた記憶があります。今思うと、この場所と一緒に成長してきたのかなという感じさえします。どれもキラキラした思い出ばかり！夏になったら、私のおすすめ、しらかばと水上公園にぜひ行ってみてください。

そして、今年2月にNHKB Sプレミアムで放送された地域ドラマ「越谷サイコー」では、主人公加奈子（佐久間由衣さん）の会社の先輩である「佐藤ゆり」役で出演させていただきました！地元越谷を舞台にしたドラマ。私も楽しませていただきました！

このたびは、越谷市制施行60周年おめでとうございます！私が育ってきたすてきな町。大好きです！ 越谷！

わたしと越谷市

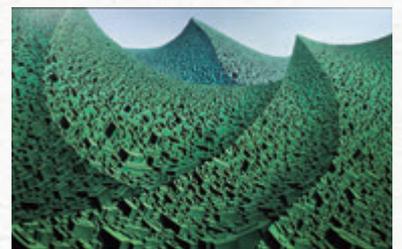


こやま さとし さん

私が最近製作している作品は、越谷で出会った桐材を使い、油絵具で仕上げた立体作品です。ヨーロッパやアメリカで発表していましたが、平成29年に開催されたニューヨークアート・エキスポに出展する機会を得て、本格的な海外進出を果たすことができました。

28年前、私は結婚を機に、神奈川県川崎市から越谷市に引っ越してきました。初めて越谷市に来たときは、広がる田園と、なんともどかな静けさに「ホッ」としたことを覚えています。そんな越谷市も今ではすっかりにぎやかな街になり、なんと言ってもレイクタウンは県外からも多くの人が集まり、都市を感じる場所になっているなと感じています。

小山さんの作品



生命都市一ねじれとゆがみー

M150 キャンパス・油彩

このたびは、市制施行60周年おめでとうございます。私の住んでいる東越谷も空き地が少なくなっていくくらい住宅が増え、多くの子どもたちがにぎやかに登校しています。子どもたちに、安心安全なまちづくりを続けていくことが、市の豊かな財産となるのではないかと思います。

PROFILE

現代美術家

1953年熊本県天草市生まれ。
1980年、村上龍著「コインロッカー・ベイビーズ(上・下)」のカバー装画を手がけるなど作品は多岐に渡る。
東越谷在住。



かさ はら まさはる さん
笠原 昌春 さん

PROFILE

■プロ野球(NPB/日本野球機構)審判員
1965年3月1日生まれ。
大間野小学校、武蔵野中学校、東京電機大学高校、東京電機大学卒業。2017年NPB最優秀審判員賞受賞。
2,383試合出場(2017年度シーズン終了時点)。

越谷市制60周年おめでとうございます！
私は1歳からずっと越谷に住んでいます。私には子どもがたくさんいるのですが、子どもが小中学生のときに学区が変更され、他の小中学校に通うようになりました。自分の子どもが違う学校に通う経験をしたことは、私にとってよい思い出になっています。
越谷には少年野球のチームがたくさんありますね。現在、私はNPB審判員として野球の仕事に携わる傍ら、シーズン

オフなどの休日に、少年野球や高校野球を見に行きます。職業柄、つい審判ばかり見がちなのですが、野球観戦は楽しく、夢中になってしまいます。
私の越谷のお気に入りの場所は、綾瀬川の桜並木です。越谷側から見るととてもきれいなんですよ！
越谷は東京のベッドタウン化していますが、まだまだ自然が豊かで住みやすいままだと感じています。これからさらに、越谷を子どもたちが楽しめるまちにしていきたいですね。

わたしと越谷市



むろ た きよし さん
室田 淳 さん

PROFILE

■プロゴルファー
1955年7月26日生まれ。
日本体育大学卒業。東越谷在住。(一社)日本ゴルフツアー機構が組織するレギュラーツアー6勝。(公社)日本プロゴルフ協会が組織するシニアツアー19勝(2017年度ツアー終了時点)。

プロゴルファーになる以前、就職を契機に越谷に住むようになり、40年が経ちます。体が資本の職業なので、冬場の日課として、長年元荒川沿いの遊歩道を走っています。声をかけていただいたり、街の風景が年々変わっていくのが楽しみです。
越谷に住んで一番よかったと感じることは、「人」です。越谷の人に応援していただいたからこそ、プロゴルファーとしての今の私がありますし、これからも頑張ることができると思っています。

一筋で生きてきたので、ほかに何か趣味を見つけてしまうとゴルフがおろそかになるのではないかと心配で、気分転換のための趣味が持てません。だからこそ、シーズン中、毎週全国を飛び回っていて、越谷に帰ってくるとほっとしますね。一番リフレッシュできるのは、越谷の自宅でのんびりすることです。
この度は、越谷市制60周年おめでとうございます。越谷市のスポーツ施設は、どれも素晴らしいものばかりですね。子どもたちがスポーツを通して夢に向かって歩んでくれれば、うれいし、期待しています。私も越谷市の皆さんと一緒に盛り上げていきたいと思っています。



よしづき くみち さん

PROFILE

■漫画家／イラストレーター

代表作はアニメ・実写映画化もされた「魔法遣いに大切なこと」。近年では映画「君と100回目の恋」のコミカライズや、中高生に話題の「踊ってみた」を題材とした「8畳カーニバル」などを手がける。千間台在住。

市制60周年おめでとうござ
います。

私は30代のころ、とある連載
が一区切りしたことを契機に、
草加から越谷へ引っ越してきま
した。それまでは転々と住まい
を変えていましたが、越谷の自
然の豊かさや不自由ない利便性
のよさから、長く住む土地にな
ると直感しました。

お気に入りの場所はレイクタ
ウンそばまで続く元荒川沿いの
道で、サイクリングルートとし
てよく走っています。職業柄、絵
になる場所をいつでも探してい
ますが、この川沿いの光景は見
どころがとて多く、創造性が
豊かになります。



8畳カーニバル
©よしづきくみち/講談社

現在は、週刊少年マガジンで
の連載が一区切りして、前述の
サイクリングに再び興じつつ、
次回作の構想を元荒川を走り
ながら練っています。今、とい
うより、いつでも面白い漫画や
絵を描くことに夢中ですね。

これからも子どもたちが住
みやすく、安全で自然豊かな環
境を守っていける越谷市である
といいなと思います。私も一作
家として我が街のよさを伝えて
いけたらと思います！

わたしと越谷市



もり けいすけ
森 圭介 さん

PROFILE

■アナウンサー

1978年11月20日生まれ。
千間台小学校、千間台中学校、東京学芸大学教育学部
附属高校、一橋大学卒業。
日本テレビ放送網株式会社所属。

中学生までの私を振り返る
と、初めての友達、緊張した小
学校の入学式、暗くなるまで友
達と遊んだ公園、熱中した少年
野球、初恋、中学校までのあぜ
道など、地元・越谷に密接につ
ながる思い出がよみがえりま
す。10代後半で進路に悩んだこ
とも、満員電車で揺られて遠距
離通学したことも、1人暮らし
をして親のありがたみを知っ
たことも、すべてが、越谷が私
に作ってくれた大切な思い出
です。

なって改めて越谷のよさを感じ
ています。
1953年に日本でテレビの
本放送が始まって65年。テレビ
は、街頭テレビから一家に一台、
白黒からカラー、ブラウン管か
ら薄型、アナログ放送からデジ
タル放送と、その形を変えなが
ら今日に至ります。テレビアナ
ウンサーという仕事柄、これか
らインターネットとの共存でテ
レビがどうなっていくのか楽し
みです。そんなテレビの歴史と
ほぼ同じ時を刻んでいる市制施
行60年の越谷市。60は時計
でいうとようやく1周です。ま
た次の1周が、越谷市と市民の
皆さんにとってすばらしい時と
なることを願っています。

越谷市制施行60周年おめでとうございます。平成15年に越谷に引っ越してきてから15年が経ちました。飽きっぽい僕ですが、鉄道写真家として毎日続けていることがあります。それは毎日1枚の写真を撮影して公開する「1日1鉄!」というブログです。過去に撮影した写真ではなく、毎日必ずその日に撮った写真を公開するので、撮影場所を探すのが大変ですが、僕にはとっておきの切り札があります。それが「いつもの公園」こと越谷市の出羽公園です。公園の横に武蔵野線の線路があるだけなので、行くと共に違う表情を見せてくれます。春には運動場の桜並木やチューリップ

フェスタのかわいい花の列が、夏には広大なひまわり畑が、鮮やかに電車を飾ってくれます。 やかに電車を飾ってくれます。 なんととってもお勧めは秋。 線路に沿って並ぶイチョウ並木は12月になると黄色く染まり、息を飲むような美しさになります。何かと忙しい今、なかなか日常に季節を感じることは少なくなりました。でもそれは受け手である僕たちが、感じようとしていないからなのかもしれません。ぜひ一度僕の「いつもの公園」を訪ねて、どんなカメラでもいいので、写真を撮ってみてはいかがでしょう？

きつとふだんは気付かない越谷のすてきな季節に出会えるはずですよ。



なかい せいや さん 中井 精也 さん

PROFILE



中井さんのブログ「1日1鉄!」

■鉄道写真家
テレビレギュラー出演「中井精也のてつたび」(NHKBSプレミアム)、「ヒルナンデス! 沿線フォトさんぽ」(日本テレビ)、「ひるまえほっと てくてく散歩」(NHK総合)。

わたしと越谷市



ますわか つばさ さん 益若 つばさ さん

PROFILE

■モデル/商品プロデューサー
1985年10月13日生まれ。
蒲生南小学校、南中学校、草加東高校卒業。
20歳までを越谷市で過ごす。

生まれ育った越谷市にはたくさん思い出がありますが、一番印象に残っているのは学生時代の思い出です。
例えば、南越谷の阿波踊りと市役所周辺で行われる花火大会。どちらも越谷市の夏の風物詩で、友達や家族と毎年見に行っていました。
南越谷周辺も、学校が終わったあとや休日には友達と過ごした思い出の場所です。当時は「赤いくつ南越谷店」やサンシテイの1階にあった「ピザ&パスタるーばん」によく行っていましたし、ダイエー(現在のイオン)に入っていた喫茶店の紅

茶。パフェもとってもおいしくて大好きでした。
私は現在、越谷市には住んでいませんが、実家がある越谷市には息子を連れてよく帰ってきています。息子は実家近くの公民館で私の父と卓球などをして遊んでいるのですが、私自身も昔は父とその公民館でよく卓球をしていたので感慨深いものがあります。
越谷市は本当に住みやすくてすてきな街だと思います。そんな越谷市も今年で60年。今後はますますの発展を楽しみに、これから遊びに行きます！60周年、おめでとうございます！



ほしなつみ 星奈津美さん

PROFILE

元水泳選手／ロンドン2012大会・リオデジャネイロ2016大会競泳女子200mバタフライ銅メダリスト
1990年8月21日生まれ。鷺後小学校、栄進中学校、春日部共栄高校、早稲田大学卒業。

越谷で生まれ育った私には、越谷での思い出が数え切れないほどたくさんあります。その中でも特に思い出深い場所を挙げるなら、久伊豆神社です。大会前には必ず祈願に訪れましたし、大会が終わって帰国するとお礼参りに行きました。初詣にも必ず行きましたね。

リオデジャネイロ2016

大会のときには、越谷市内でパブリックビューイングを盛大に開催していただき、ありがとうございました。また、こしがや田んぼアートで私を描いていたことも、とてもよい思い出です。オリンピック前は海外にいましたので母に写真を送ってもらい、励みになりました。帰国後に実際に見に行ったときは本当に感動しました。そして帰国後、越谷市民栄誉賞をいただき、多くの皆さんの前で表彰していただいたことは一生忘れません。

現在の私は水泳を引退し、フルマラソンに挑むなどの日々を送っています。まさに水から陸へとフィールドを変え、新たな挑戦をしているところですね。

そんな私ですが、これからも越谷市を皆さんと一緒に盛り上げていきたいと思っています。大好きな越谷市、60周年おめでとうございます!!

わたしと越谷市



いちかわゆきの 市川由紀乃さん

PROFILE

演歌歌手
1976年1月8日生まれ。光陽中学校卒業。
平成28年・29年にNHK紅白歌合戦に出場。

このたびは、越谷市制施行60周年おめでとうございます。私は中学1年生のときに越谷に引っ越してきました。いろいろと不安もありましたが、編入した光陽中学校で、よい友達とよい先生に出会えたと思います。3年生のとき、ほんの数日ですが学校に行きたくなかったです。担任の先生が毎朝迎えに来てくれて、越谷に引っ越して来てよかったなとしみじみ思いました。

休止することもありましたが、平成28年、さらに29年と、念願だったNHK紅白歌合戦に出場することができました。初出場が決まったときはうれし涙が止まりませんでした。今も越谷の実家には母が住んでいて、できるだけ顔を出すようにしています。二人でよく買い物にも出かけます。お気に入りの場所は花田苑です。和のたたずまいと四季を感じられるところが大好きです。市民の皆さんにも、同じ越谷を地元を持つ身近な存在と思っていただいて、もし街で見かけたら、気軽に声をかけていただけるとうれしいです。越谷市の今後ますますの発展を、心から願っております。

第6章

未来の越谷

越谷のまちには、子どもたちの笑顔や夢、希望があふれています。
ここでは、未来の越谷を担っていく子どもたちの思いが詰まった、写真・絵画・作文を紹介します。



葺屋敷で
ガーヤちゃんと！

リユース展望台
から！



南越谷阿波踊りに参加！



産業フェスタで
甲冑姿！



田んぼアート
の前で!



ひまわりフェスタで花いっぱい!



ウッドデッキステージでダンス!



ウッドデッキのキャンドルと一緒に!



みんなで防災キャンプ!





みんな楽しい市民まつり！

一糸乱れぬよさこい！



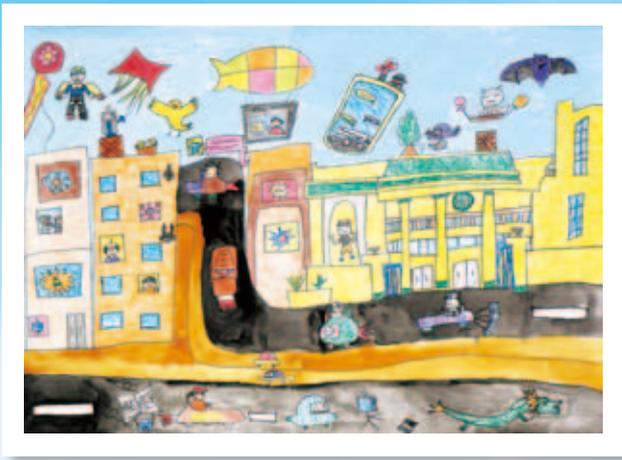
チームで力を合わせて勝利！

はしご車の前でポーズ！



工場見学で勉強中！

消防音楽隊の前で披露！



越ヶ谷小 3年 小林 幸四郎

「まず日本と中国をまぜました。あと、こしがやしょうもかいてロボットもかいて、こしがやをみらいぼくしました」

未来の越谷

～ 大好きな地域の
未来の風景 ～

誰にでもある、地域のお気に入りの場所、大好きな風景。

それらは、10年後の未来、

どのようになっているでしょうか。

ここに載っている作品は、小学生の思いが
たくさん詰まった、10年後の越谷の風景です。

(順不同・敬称略)



大沢小 3年 八木橋 那弥

「越谷市がもっとにぎやかになるように、いちょうの形のロケットやたくさんのシラコバトを描きました。10年後には今よりもっと楽しい越谷になりたいという思いを込めました」



越ヶ谷小 5年 小林 幸乃

「未来の越谷駅を想像してみました。花や木が未来にもあったらいいなと思い、楽しい遊園地と一緒に描きました」



新方小 2年 岡田 萌生

「わたしが大好きな、こしがやのふうけいは、リユースです。リユースのまわりの車がロボットや、くもになっていたりリユースのまわりが、とかいみたいになっていたらいいと思います」



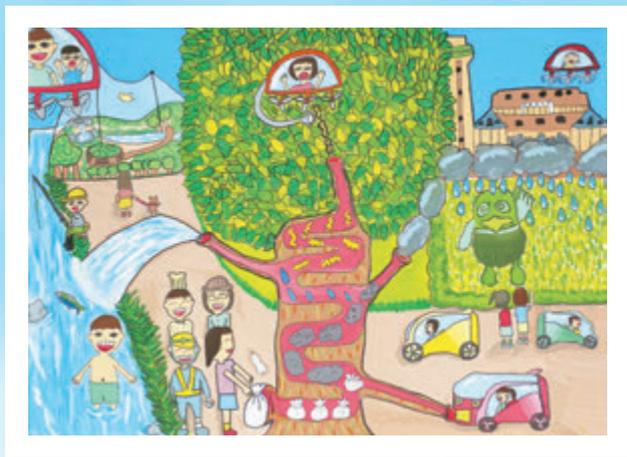
大沢小 6年 牛渡 結香

「この絵は、10年後の越谷をイメージして空飛ぶ車や高いビルを書きました。この絵で最も工夫した所は空飛ぶ車をカラフルにした所です。また遠い車は小さくしました」



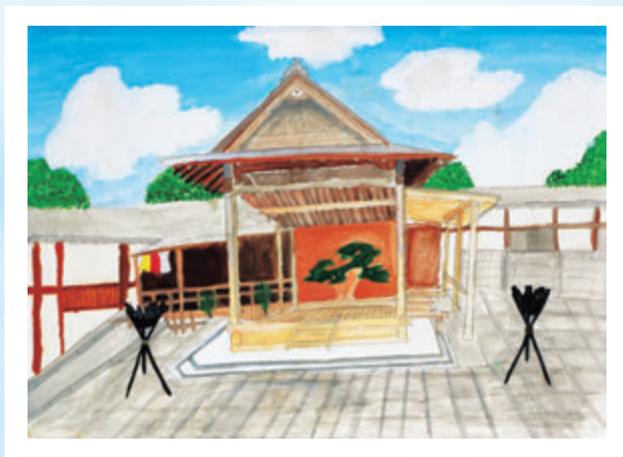
桜井小 3年 高山 友那

「筆箱に乗って、自分の好きなことをしながら越谷市を一周しています。川や建物がたくさんあって、とても楽しいです」



新方小 6年 鈴木 葉瑠

「中央の木にゴミを入れると、川に流れるきれいな水に変わったり、車の燃料に変わったり、田んぼに水をふらす雲になったり、空飛ぶ乗り物のエネルギーになったりします。そんな木が発明されて、もっと豊かになる越谷をイメージしました」



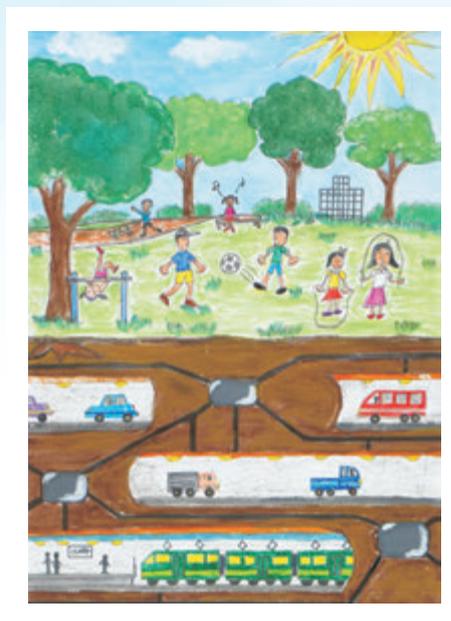
桜井小 5年 木島 理絵

「これから先も、この素晴らしい伝統が受けつがれていってほしいです。未来の越谷にいつまでも残り続けると願っています…」



大袋小 5年 井手 恵美花

「大袋の自然が残り、まちも発展して欲しいです。車を通る道を透明ガラスで囲んだところを工夫しました」



大袋小 2年
谷内 由奈

「車と電車が、ち下をはしれば、わたしたちが思いきりあそべる大きな広場が、たくさんできます」



荻島小 5年 松沢 柚杏

「未来の越谷市に近づけるようにいろいろな建物の色を変えたりして町をカラフルにしました。そして、季節ごとに風景を変えたりして、未来を想像しました」



荻島小 3年 加藤 愛

「この絵は人やガーヤちゃんがうちゅうで遊んだりうかんだりしているようすです。みらいではいつでも自由にこし谷からうちゅうに遊びにいけるような絵にしました」



出羽小 3年 平田 心路

「越谷で有名なチューリップ。10年後は、チューリップでできたショッピングモールができればいいな」



蒲生小 2年 猪股 柚子

「十年ごのわたしのこしがやです。車は、空をとびます。くもの上にもじの上ものれます。生きものとなかよくなれます。どんな人でもあそべます」



出羽小 6年 宮脇 清子

「新しい生物、乗り物たくさん新しいがあって、だれでも幸せになれる町になったよ」



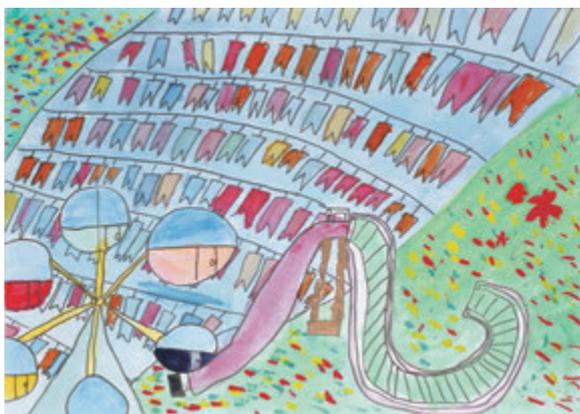
大相模小 3年 鈴木 紗圭

「おとうさんがじんじやのでんきをなおしたことがあるのでかき
たいと思いました。がんばったことはやねの線です」



蒲生小 5年 石崎 心裕

「ガーヤちゃんに家ぞくができて、みんなであわおどりをおどる
10年後」



大相模小 4年 戸部 莉亜来

「近所にある、こいのぼり公園の未来のすがたをかきました」



増林小 5年 関根 隆保

「リユースターの上から見た学校の周りは、公園ができたり、
ふん水ができたりして楽しくなりました。増林小からは友だち
の明るい笑い声が聞こえます」



増林小 3年 落合 龍之介

「学区探検で『いちごタウン』に行きました。10年後の『いち
ごタウン』では、ロボットが水やりやへた集めなどの仕事をし
ているのではないかと思います」



川柳小 6年 佐々木 琥太郎

「ぼくは家の近くのレイクタウン前の池をえがきました。早朝に書きに行ったぼくはさわやかな風にふかれてとても良い気持ちになりました。この場所をもっとたくさんの人が知れば今よりもっと良い越谷になると思います」



川柳小 3年 金子 莉音

「越谷市はいちごが名産なので、いちごの列車を描きました。また、私の大好きな場所は、そのまま残ってほしいという思いで描きました」



南越谷小 2年 蓮見 優梨愛

「ハッピーランドには、おんせんやお花畑があります。川には魚がいて楽しそうにおよいでいます。みんなハッピーになれます」



蒲生第二小 3年 川俣 遥

「私は、近所のお友達と花火をしたときの絵をかきました。色とりどりの光がお花のようでとてもきれいでした」



南越谷小 5年 中田 泰陽

「今年のゴールデンウィークに家族でこいのぼりを見に行きました。大きくてカッコいいと思いました。風になびくこいのぼりを見て空の上の春を感じました」



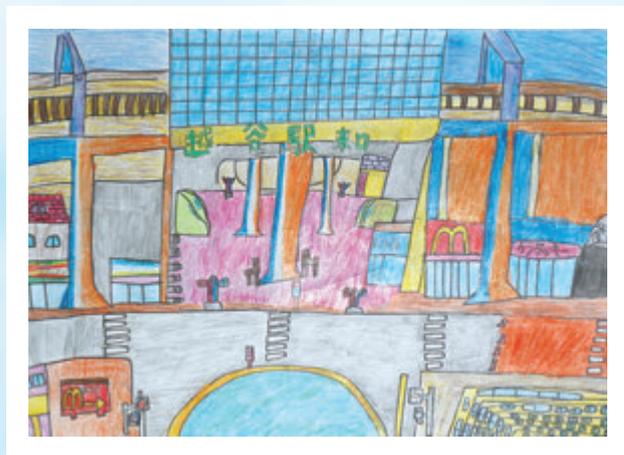
東越谷小 2年 玉置 玲衣

「レイクタウンのいけで、ふねにのってあそんだり、サーフィン
をすることができ、それをみんなで、たのしんでいます」



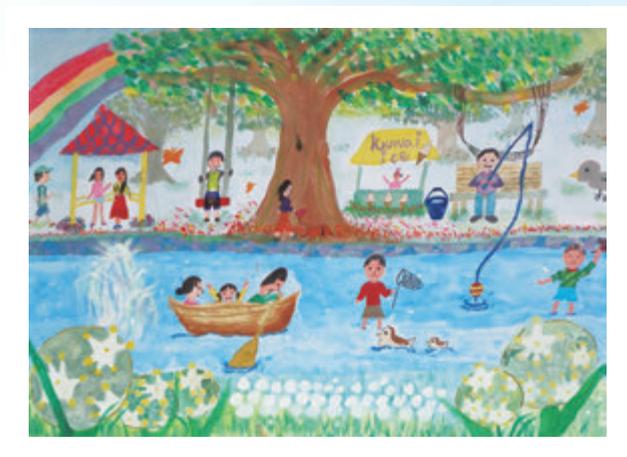
蒲生第二小 6年 高瀬 鉄平

「私はこの絵をかく前、『未来に花はあるか』と考えました。そ
こで未来のまちに花をかき、未来に花が残ってほしい願いを表
しました」



東越谷小 5年 増山 輝

「未来の越谷駅はとても派手であざやかなになっていると思い
ました」



大沢北小 6年 村岡 柚香

「コシガヤホシクサの野生復帰を願ってかきました。川で遊んだり、
木にハンモックやブランコがあったり…だれでも自然とふ
れ合える場所があったらいいと思います」



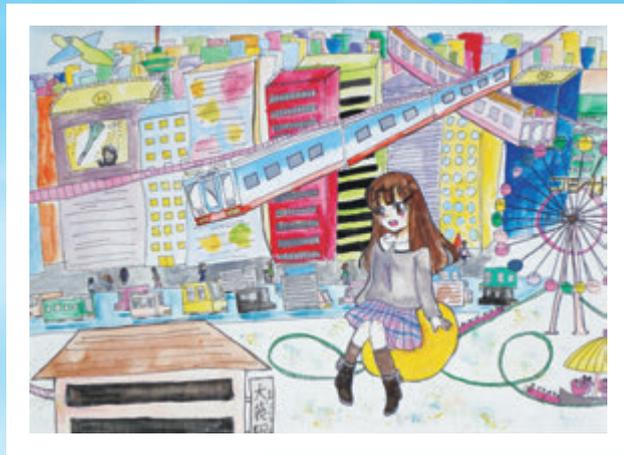
大沢北小 3年 井上 未悠

「今年たん生生日だったチューリップフェスタ。10年後行った
時は私の大好きな水色のチューリップもあるかも」



大袋北小 6年 花島 奈々

「この絵は、現在の建物などでつくりえない物や、越谷に高層タワーができればいいなと思ってかきました」



大袋北小 6年 土井 穂莉

「私は、空を飛ぶ不思議なイスに乗って、新しいモノレールや楽しい遊園地をながめています。笑顔いっぱいな未来の越谷市を描きました」



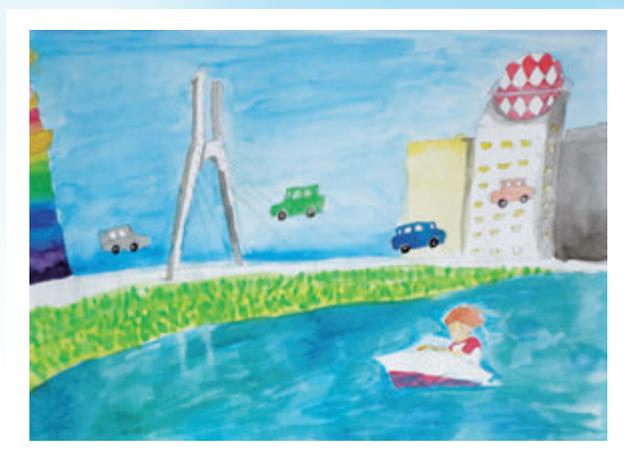
蒲生南小 3年 吉岡 花音

「何十年たっても、人や生き物やしぜんがなかよくくらしているようにイメージしました」



北越谷小 1年 田中 美寧

「いつも見ている家の前の元荒川。10年後には虫が息するほど水がきれいで、たくさんの人が遊ぶ川になっています」



蒲生南小 5年 正木 陽和

「緑はのこして新しいビルや建物がたって車が飛んでいる。川の水はきれいになりみんなが遊べるようになる」



大袋東小 2年 福田 彩乃

「川が泳げるくらい綺麗になっていて、みんなが仲良く暮らせる明るい越谷です」



北越谷小 5年 井沢 ほの香

「私は10年後でありながら、あえて場所や遊具を変えていません。なぜかという、10年経っても今のままのこりつづけて、ほしいからです。私は、そうゆう思いをこの絵にたくしました。この思い、とどくといいです！私の大好きな四丁目公園（かえる公園）」



大袋東小 5年 高野 莉央

「元荒川の桜並木とその上にある東武線の風景が大好きです。桜並木を大切に保護して十年後も変わらない風景が見られることを願います」



平方小 6年 山口 紗羅

「越谷市がお花の世界に包まれた絵にしました。お花だけでなく、カラフルなじもかき、色を明るくしました。また、みんなが楽しんでいるような絵にしました」



平方小 2年
六笠 遥希

「10年後の越谷を描きました。空に浮かぶマンションがあったり、巨人と小人と一緒に住んだりします」



弥栄小 6年 清水 愛花

「10年後の越谷に、あこがれのタワーがあるといいなと思ってかきました。今も、10年後も、100年後も、越谷にいるみんなが笑顔で、平和な越谷をイメージしました」



弥栄小 1年 上神谷 杏夢

「カラフルな花が咲き、動物も人も宇宙人も一緒に生活できるような平和な越谷」



大間野小 2年 北村 優芽

「たのしくてべんりでみどりがあふれる10年後になってほしいからです」



宮本小 2年 小高 紗奈

「みらいの越谷に動物公園があったらいいなと思って描きました。動物公園では、動物に乗っても大丈夫。ぞうのしっぽですべったり、ライオンとおいかげっこをしたりできます。みんななかよしです」



大間野小 6年 斉藤 颯汰

「この絵は、最近ぼく達が利用している七左第三公園の10年後を予想して書きました。10年後は空にういている公園になっていたらいいなと思って書きました」



西方小 3年 一柳 美尋

「未来の越谷は、元荒川が天の川のようにきれいでほうきのむりょうタクシーがあり、車がなくてもみんな自由に空をとんでいことができます」



宮本小 6年 柏崎 惺太

「日本の未来はこんなかんじかなと思いながらかきました。空を飛んでいる車や、横を向いているビルは、こんなすごい日本になってほしいと思ったのでその絵をかきました。そして、なるべく細かく遠くの物までリアルな絵をかきました。そして、今ある日本の建物も再現してかきました」



西方小 4年 小久保 奏音

「昔、ライトアップされていたようだが、電気の省エネ化が進んでまた橋がライトアップされたらいいなと思いました」



鷺後小 5年 千葉 日虹

「虹の信号や越谷の特産物の建物をつくったりして、未来感を出しました。また、川遊びのできるようなキレイな川になってほしいのでザリガニなどを書きました」



鷺後小 3年
栗坪 映瑠

「私は越谷に流れる元荒川の桜並木が好きで毎年春になると、お花見に行きます。そこに生き物と人が楽しくくらすせたらいいなと思いました。すむ場所は桜の木の上的ツリーハウスです」



明正小 5年 青野 優

「美季の杜のジャングルジムから見たレイクタウン。緑が成長し、湖はもっときれいで青くすんでいます。私をおだやかにさせてくれる、大好きな場所です」



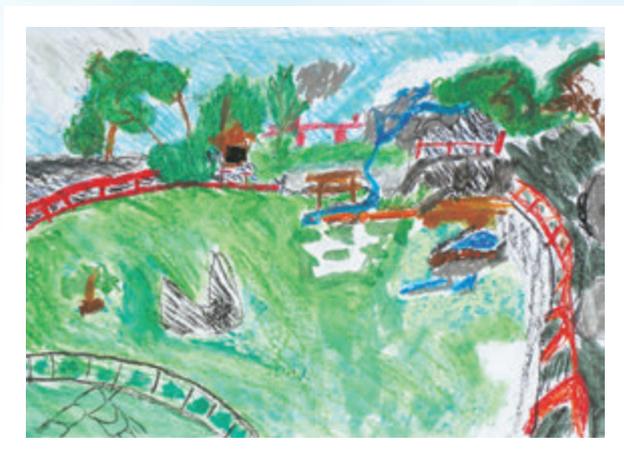
明正小 2年 成瀬 想真

「僕の大好きな大相模調節池。10年後は、湖の周りに遊園地や動物園、プールやキャンプ場があって、カヌーで行き来できるといいなと思います」



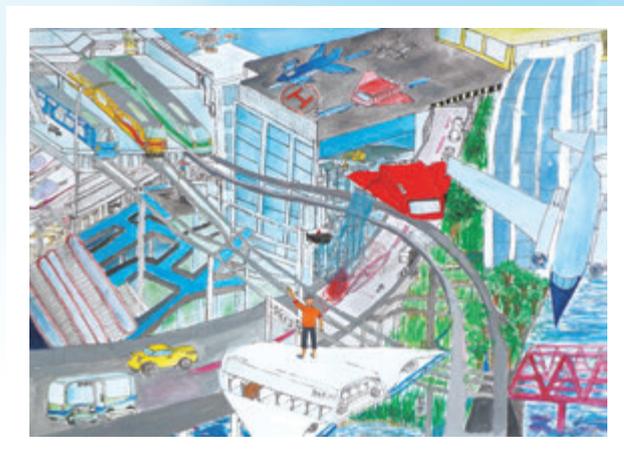
千間台小 3年 平野 瑞季

「魚たちが、カラフルなサメの船に入って遊びに来ています。船の中ではテレビを見たり料理を作ったりしています」



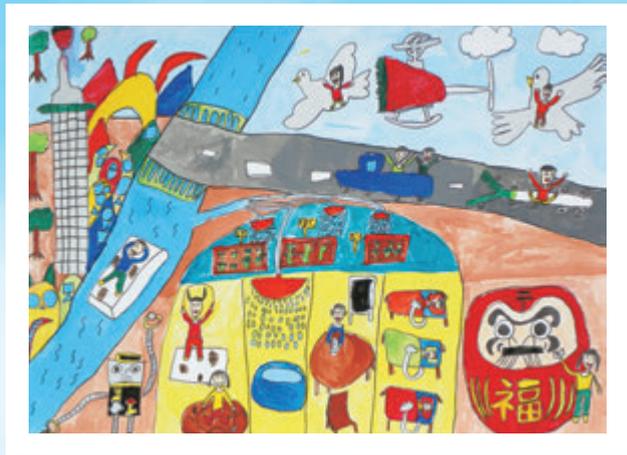
桜井南小 5年 深野 裕希

「この絵は、ひさいずじんじやの、池をかきました。がんばったのは、水と木の色が同じ『みどり』だったので、すこし色をかえてみました」



千間台小 6年 山田 陸真

「エアコンから想ぞうして未来の飛行機をかき、そこから未来の都市を想ぞうをふくらませてかき、電車やドローンなどもかきました」



花田小 3年 後上 凜乃

「だるまのポスト、ねぎの車、たろべえもちのポート、イチゴのヘリコプターやタワーなど、越谷のとくさん物を使ったおもしろい町に未来の越谷になってほしいと思ってかきました」



桜井南小 6年 野口 隼志

「東武スカイツリーラインの駅やホームは、全部ガラス、街の景色がよく見えるよ。空飛ぶ車や電車は、もちろん自動運転」



花田小 4年 野澤 慧華

「車は自動運転、排気はお花が出て緑いっぱいになります。二十になる私はこんな越谷に住みたいです」



城ノ上小 5年 成田 真央

「私は学校が大好きです。大きくなったら城ノ上小学校の先生になります。自然がいっぱいのこの風景を10年後、教育実習生として見たいです」



城ノ上小 3年 屋嘉比 香織

「未来の越谷の『ネギ公園』をかきました。ネギを食べたりあそんだりできます。ネギがもっとすきになります」

未来の越谷

～10年後の自分へ～

10年後の自分への約束、10年後の自分への手紙…、
10年後の自分に向けて、
皆さんはどんな言葉を贈りたいですか。
ここに載っている作品は、
越谷で暮らし、越谷のこれからを担っていく中学生が、
未来の自分に宛てて書いたものです。

(順不同・敬称略)

協力は伝統へと

中央中2年 戸井田 尚子

十年後私は何をしてしているだろうか。今の自分より幸せだろうか。そんな疑問が脳裏を横切った。

私が今、夢見ていることは、宝塚歌劇団に関わる職に就くことだ。この夢を抱くようになったのは少し前のこと。初めて宝塚を親に行った時だった。音楽が鳴りはじめた瞬間にタカラジェンヌ達は華麗に舞い、キラキラ輝いていた。私は一瞬にしてとりこになってしまった。それからというもの、宝塚について多くのことを調べた。彼女達はなぜ輝いているのか。その答えは彼女らの努力、そして、裏で支えるスタッフの力によるもの大きいことがわかった。ジェンヌ達の衣装をつくる衣装部、スターを照らす照明さん、ダンスの

の指導をする振付師の方など、実にたくさん
のスタッフの協力のもと、この劇は完成して
いるのだ。

今や日本の娯楽といわれている宝塚。百年
という長い歴史の中で伝統が途絶えたことは
一度もない。それはみんなの協力があつたか
らこそ実現したこと。私はどんな小さな仕事
でもいい、そこに携わり伝統を守り続けたい
と思っている。

十年後の私へ。これが十四歳の私が抱いて
いることだ。二十四歳の私の夢は変わってし
まうかもしれない。けれど、忘れたくないこ
とが一つある。それは、伝統を守り続けるこ
と。現在「AI」の技術が発展し、人の手が
いらなくなっている。一方で日本の文化、伝
統が消えつつある。そんな世の中でも守りた
いと思う人が一人、二人いるだけで伝統はは
るか未来まで続くことができる。我々は身近
にあるものを大切にしていけることが伝統への
第一歩ではないのか。そう思っている。

大好きな越谷市

中央中3年 關 音花

「越谷市の良いところはどこだろう。」

そう考えるとたくさん良いところが見つ
けられる。例えば、「越谷レイクタウン」な
ど都市化が進んでいるところもあれば、自然
に囲まれているところもある。また、「しら
こぼと運動競技場」という大きな競技場もあ
る。そして、家から少し歩けば、「能楽堂」や「花
田苑」など伝統、歴史に直接触れることもで
きる。そんな活気にあふれた越谷市が十年後
どのような風景になっているのだろう。考え

ただけでもわくわくしてくる。

十年後、私は二十五才になる。大人になっ
ても越谷を好きだという気持ちは変わらな
い。

しかし、最近では畑だったところが段々と
住宅へと変わっていつている。また、ポイ捨
てが増えていると感じる。このようなことが
続いてしまったら暗い空気になってしまっ
たろう。そんなことにはなつてほしくない。だ
から私は、ポイ捨てを注意したり、積極的に
参加していきたいと思う。

越谷の良いところは越谷に住んでいる私た
ちにしか分からない。二年後、東京オリンピッ
クがある。そこで、外国人やたくさんの方が
越谷にも来るかもしれない。そこで、「越谷つ
て良いところだな。」と思われるためにも、
十年後、自然も都市も共存しているためにも、
今の私達にできることは積極的に行ってい
きたい。全ては、私の大好きな越谷のために。

昔の自分

東中3年 陽岡 一路

十年後の自分。そんなものは想像できませ
ん。五年前の自分が今の自分を想像できてい
なかったのに、二倍先の事を思い浮かべる方
が無理です。就きたい仕事も明確になつてい
ないから、社会人になつているであろう自分
が何をしているのか分かりません。

だから、僕は十年後に大切にしていてほし
い過去の話を書きたいと思います。

僕は引越して、越谷に来ました。二
年の夏のことです。学校も変わることに
なりました。僕は前の学校に入学した時、当然の

ようにその学校を卒業できると思っていました。それが今、ここにいるのだから、十年先には何が起きていてもおかしくはないと本気で思います。

転校したのは二学期でクラス内での関係性も決まっている中に入るのは、難しいと思っていました。転校して二ヶ月くらいは毎日が大変だったのをすっかり覚えていません。周りにいるのは知らない人だけで、学校のこともまだよく分かっていなかったから不安でした。学校に行くのがつらかった時期でした。それでも、投げ出さずに学校に行くうちに慣れてきて、楽しめるようになりました。投げ出さずに学校に行けたのは、何かいいことがあるかもしれない、と前向きに捉えられたからだと思います。それがつらい時を乗り切る方法だと嫌々学校に通った間に学びました。学校に行くのが本当につらかったから、無理にでもそう思うようになりました。

この経験は今の自分にとって、自信につながっています。これから先、自分のいる環境が変わっても、大丈夫だと思えるようになりました。僕は来年には高校生で、知らない事もたくさんあるだろうけれど、上手くやれるはずだと思います。

十年後、自分が何をしているのか、今は全く分からないけれど、この経験を自信にして上手に生きていて欲しいと思います。

十年後の自分に贈りたい言葉

東中3年 齋藤 瑠那

私は、十年後の自分へ「実力は自分が頑張つて努力した分しかつかない」という言葉を贈

りたい。なぜなら、もし十年後、自分の実力で海外で仕事をするという夢を叶えていたら、今している努力が無駄ではなかったという証明になるからだ。

私には、海外の小さなお店で作られているおいしい物を、バイヤーとして世界中に発信するという夢がある。これには、私の家族が全員、料理に関わる仕事をしているということが大きく関わっている。国内外問わず、小さい頃からおいしいものを食べる機会が多かったため、世界の料理に興味を持つことができた。また、海外で働く日本人バイヤーをテレビで見て、カッコいいなと感じたことから海外で仕事をするという夢が生まれた。

今私は、この夢を叶えるために、海外の映画を字幕で見たり、常に家で英語の曲を聴いたりしている。このような些細なことから努力を重ね、学校の授業でも手を抜かず、意識して取り組んでいる。また、学校のALITの先生と積極的に英語で関わることで、外国語が異文化だという先入観をなくすように努力している。

これらの努力を無駄にしないためにも、十年後の自分には、世界へ羽ばたいて活躍するということを約束してほしい。

しかし、十年の道のりの中で自分自身の人見知りや原因で相手と上手くコミュニケーションがとれず、挫折してしまうこともあるかもしれない。そういった現状が既に分かっているならば、今のうちからたくさんの人と関わり、一刻も早く人見知りを直したい。そのためには、人と関わる時に、自ら心を開いて歩み寄っていくことが大切だと思う。

夢を実現させるその日まで、進路希望である料理専攻の高校や語学の専門学校で今でき

るかぎりの努力を積み重ね、その努力に見合った実力をつけ、明るく楽しい輝いた十年後を迎えたい。

十年後の自分へ

西中3年 藤井 菜白

未来の自分、何をしていますか。今、十五歳の私は進路の事で悩んでいる真つ最中です。今の将来の夢は幼稚園の先生になることです。もし、未来の私の意志が変わっていないとしたら、新米先生として日々頑張っているところでしょう。また、もしかしたら、今の私には想像もできないような違う道に進んでいるかもしれませんね。いずれにせよ今の私は未来の私を知ることが出来ません。けれど、私らしく日々奮闘していると思います。

十五年間生きてきた今の私。この十五年間で作った思い出はたくさんあります。小学校の頃の一番の思い出は林間学校。中学校での一番の思い出は今のところ修学旅行です。このメッセージを書いているのは七月ですが、たぶん卒業する頃には、中学校生活一番の思い出は三年間全部なんて言っていることでしょう。未来の私はもう二十五歳。なのでもうずっと昔の思い出になつていっていると思います。二十五歳だつたら忙しくて昔の事を思い出す暇もないかもしれません。

今の私にとっては、二十五歳といつたらすごく大人で、まだ自分には手の届かない世界です。けれど十年間はあつという間で、気がついたらもう二十五歳になつているのだと思います。もう二十五歳。けれどまだ二十五歳。駆け出しの社会人にとっては微妙な年齢なのかもしれません。ただ一つだけ今の私に言えることがあります。それは「過去は戻ってこない」ということ。今と未来は自分の力で変えることができる。けれど、過去は変えられない。だから未来の私が後悔しないように、

今の私は「今」を大切に過ごしていきたいと思っています。なんてえらそうに言っているけれど、未来の自分、これからも頑張つて下さい。

十年後の自分へ

西中3年 深井 菜々子

十年後の私、つまり二十四歳の私は、どのような人生を歩んでいるでしょう。まだ進路は、想像もできないことです。本当に想像がつかないです。ということ、私は主に三つの事を知りたいのです。

まず一つ。「進路は実現していますか。」十年後の私にとっては懐かしい高校だとは思いますが、私にとっては一年後、始めて自分で選んだ進路です。もしかして、今考えている所とは違う所でしたか。だとしても、楽しい高校生活を送ることができたなら、私はそれで十分です。

二つ目。「新しい家族がいたりしますか。」お母さんはそれくらいで結婚したので、ありえないことではない。今はなくても、いつかはいるといいな。料理が多少はできるようになつていれることを信じます。

最後です。「どんな仕事をしていますか。」正直、一番不安であり期待しています。自分に合っていますか。そもそも仕事してますか。テレビに出てるとかはあまりに非現実的すぎるので、おそらく無いとは思いますが、何をしていますか。

私は、今よりもっと、充実した毎日を送つていてほしい。この人生を歩むことができている良かつたな、と思えるような私でいてほしい。

もしかしたら、思いもよらない困難があるかもしれませんが、後悔していないでほしい。三つの質問の答えが返ってくるわけではない。でも、十年後、今の私を思い出して大丈夫、順調だと思えるように、今せめてできることを一生懸命やっています。そして、未来の私のために私なりの方法で努力をしていきたいと思っています。なにより、健康に生活していますように。それが一番大切だと思います。

今の私から未来の自分へ

南中3年 高崎 彩楓

十年後の私は、何をしていますか。

未来の私は二十五歳をむかえている頃ですね。順調ならば、きつとウエディングプランナーになつて何年か経ち、先輩という立場になつているのではないのでしょうか。仕事は楽しいですか。私のことだから、失敗ばかりしているのではないのでしょうか。

今まで私は、早く大人になりたいと考えてきました。が、受験生という時季をむかえて、不安しかありません。この受験が終わつても、三年後にはまた受験があります。未来の私は本当に理想を現実にできていますか。今の私には、限られた選択肢の中から最良のものを選ぶ道しかありません。でも、未来の私にはそんな狭い生き方をしてほしくありません。人生の選択肢を多く持つてほしいです。その多くの選択肢を得るためには、今の私が道を切り拓いていかななくてはなりません。私の未来をより良いものにするために私は今自分ができる全てを全力で頑張りたいと思いま

す。時には壁にぶつかるとあると思いません。でも、その壁にぶつかったことによつて、また私は一步成長し、大人になっていくと思えます。だから、壁にぶつかることを恐れず、「私らしき」を大事にしてほしいです。

未来の私には、十五歳の私では見られない世界が広がっていると思います。苦勞してそこに立っていると思います。正直、諦めかけたこともあったと思います。それでも私は前向きに生きてほしいです。個性を大事にしてほしいです。自分自身や、周りの人のことを大切にしたいです。やりたいことをするのなら、妥協せず、努力をして、その先に見える景色を、努力した人しか見れない景色を見てほしいです。今の私は、たかさんの後悔があります。しかし、未来の私には決して後悔のない人生を送ってほしいから、私は今自分の未来のために一つ一つ色々なことを経験して、よりよい道を選ぶために、今日も全力で頑張っています。

十年後の自分へ

南中3年 宮野 秀隆

今から十年後という、私が二十五歳になつている頃だろうか。これからの十年間、すごく苦勞するのか、はたまたすごい幸運に恵まれているのか、正直今の私には想像もつかない。しかし、楽しいことばかりではないだろう。今の私は十年後の自分に、たかさんの困難を乗り越え、たくましく成長していてほしいと思つている。

私は今、警察官になりたいと考えている。これは、私の両親が警察官ということで強く

影響を受けた事もあるが、なによりも小学校一年生の時から続けている剣道を活かせるからだろう。十年後の自分は、今の私が目指す警察官になれているだろうか。

もしかしたら、十年後の自分は、なにか悩んでいるかもしれない。辛いことをたかさん経験しているかもしれない。それでもある言葉だけは、忘れないでいてもらいたい。だから私は、十年後の自分へ向けてその言葉を書き残しておきたい。

私が書き残したい言葉、それは山本五十六の男の修行だ。

苦しいこともあるだろう。

云い度いこともあるだろう。

不満なこともあるだろう。

腹の立つこともあるだろう。

泣きたいこともあるだろう。

これらをじつとこらえてゆくのが

男の修行である。

十年後の自分は、この言葉のように、私が目指したかっこいい男になっているだろうか。いや、まだ道の途中だろう。これからもたかさんの困難があると思うが、このような男を目指して頑張ってもらいたい。

さて、これまで十年後の自分に向けて書いてきたが、理想の自分になるには、これからの高校受験などを含め、今の私が頑張る必要があるだろう。十年後の自分には、私がしっかりと理想の男になるためのバトンを繋ぐまで待つてもらいたい。

二十三歳の私へ

北中1年 松崎 琴音

十年後、私は何をしていますか。今の私の頃のこと、覚えていますか。

十三歳の私から未来の私に伝えたいことは、「一度きりの人生を楽しんでほしい」です。

具体的には三つあります。一つ目は、何か楽しいと思えるものや熱中できるものを持つてほしいです。私は、中学校に入學して初めての夏を過ごしています。中学校ではバレーボール部に入部しました。今の私はバレーボールに熱中して取り組んでいます。バレーボールをしていて時間がとても楽しく、バレーボール部に入って良かったと思っています。二十三歳の私も、そんな風に熱中できるものに出会えていたらうれしいです。

二つ目は、自分が就く職業についてです。私の将来の夢は、子供の笑顔のために働ける職業に就くことです。私は二人のいとこや年下の子と遊ぶのが大好きです。自分が小さい頃によくしてもらった人にとっても感謝しています。だから、未来の私にはぜひ子供と関わる職業に就いて、子供たちを笑顔にしているほしいと思います。

三つ目は、家族や友人を大切にしてほしいです。あなたが今幸せなら、それは家族や友人の存在が大きいということを絶対忘れないでください。そして、家族や友人の力になれる大人になれていたらうれしいです。

最後に、今はとても暑かったり、台風で大雨だったりと天気が不安定な毎日です。十年後はどうですか。さらに最高気温が上がってしまったのでしょうか。健康を第一に考えて生活してください。健康でなければ楽し

い生活が送れません。健康第一で、毎日笑顔で一度きりの人生を思いつきり楽しんで！

未来に願いを

北中3年 矢野 凜紗

手紙を読んでいるあなたは、どこでなにをしていますか。仕事はなにをしていますか。結婚はしていますか。

聞きたいことはたくさんありますが、その答えは十年後に確かめることにします。

私は今、一年生から所属していたソフトテニス部を引退し、ちょうど受験勉強の真っ最中といったところです。数学が苦手なので、定期テストでも北辰テストでも足をひっぱってしまいます。未来の私は少しでも数学ができるようになっていたらいいな。

十年後の私は社会人ですが、どうでしょうか。学校生活が終わり、ドラドラと生活はしていませんか。今の私は「人のために、人に直接関わる仕事をした」と考えています。十年後の私も「人を助きたい」

この思いを強く思っているといいな。そして、「周りに助けられて生きてきた」ということをいつも忘れずにいてほしいです。

いつかあなたが誰かを支えてあげて下さいね。「やりがいがある」と思える仕事を見つけて、自分の長所をのびし、誰かのためになってください。怠けるのは絶対にだめですよ。

私は今、友達や家族、先生などの大切な人に囲まれて生きています。今がとても幸せです。十年後の私にも、大切と思える人はいま

すか。もしいるのなら、その人を大事にしてあげてください。その人を信じてあげてください。大事にした分、信じた分、いつか自分に返ってくると思います。

未来はロボットや電気自動車が実用化されると言われています。今よりも便利な生活になることでしょう。変わっていく時代、変わっていく自分。その中で私が最も望むことは、「今よりちょっとでも幸せに暮らしてほしい」ということです。どんな困難があっても、自分らしく真つすぐに生きてください。

十年後の自分へ

富士中2年 渡辺 泰成

十年後、もうすぐ二十四歳となる自分。恐らくもう社会に始めているのでしよう。どのような職業についていますか。今の自分には見当もつきません。将来、自分が何をしたいのか、今は考えても分かりません。ただ一つ分かっていえることは、それがとても大変だということだと思います。あなたは今、何かしたいことが頭にあるのだと思います。しかし、現実として、その職ではないかもしれませんが。そうだとすると、今できることを精一杯頑張つて下さい。大変なこと、嫌なことなどたくさんあると思います。仕事をやめたいこともあるかもしれませんが。そんな時には大変なことでも、嫌なことでも全て乗り越えられるようにしてみてください。王貞治さんの言葉にこのようなものがあります。「努力は必ず報われる。もし報われない努力があるのなら、それはまだ努力と呼べない。」今までも努力しても上手くいかなかったと諦めて困難から逃げる

のでなく、今までの努力と想っていたものは、まだ努力と呼べるものに達していなかったと困難に立ち向かって下さい。自分も勉強や部活で様々な困難と直面しても面と向かって立ち向かい、目標達成に向け、「努力」と堂々と言えるほど全力で取り組みます。

最後に一つ、約束してほしい事があります。それは、他人のために何かをするということ。それが、仕事かもしれませんし、何かのボランティア活動かもしれません。また、仕事にしても直接困っている人を助ける仕事かもしれないし、見る人を魅了するような仕事かもしれない、また、気づかないところで人の役に立っている仕事なのかもしれない。たとえどんな仕事についているとしても、あなたは自分より他人や世のために働いていてほしいです。また、ボランティアも積極的に参加し、他人のために率先して何かをする。これを自分もやっていきます。だからあなたにもこの約束は守ってほしいです。

十年後の私へ

富士中3年 種橋 萌

拝啓

鈴虫の音が美しく響いてくるようになりましたが、十年後の私、いかがお過ごしでしょうか。現在の私は受験生となり、新たな学びや発見で満ち溢れた多忙な毎日を送っております。

十年後の私。あなたは今、どのような景色を眺めていますか？現在の私と比べものにならない程数多くの出会い、別れを繰り返し体験し続けた末に辿り着いた未来の居場所に、

大切な仲間や友人、かけがえのない存在はいるのでしょうか。現在の私から見える景色は、鮮やかに明るく色づいております。「受験生」という重圧を抱えながらも、個性豊かな学級で過ごしながら友人と語り合い、先生方や家族に温かく見守られながら送る毎日は、きっとこの先どのようなことがあっても、色褪せることなく未来の私へと繋がってゆくのでしょう。もし、あなたが困難な状況に陥り、現実に対し失望するようなことがあっても、今までの努力、行動、出会いや別れ、体験、抱いた感情などの過去の私の経験は、絶対にあなたを裏切ることはない、ということを忘れてください。たとえどのような状況であつても、私とあなたは確かに繋がっています。互いに決して一人ではないのです。未来の私へよりよい私自身の道を示し、繋げていくことができるよう、現在の私も本気になれるようなことを求め、日頃から様々なことに挑戦してゆきたいと思えます。

最後になりましたが、十年後の私の健康や更なる活躍を心よりお祈り申しあげます。またいつか、あなたが私を思い出したときに、会いましょう。

十年後の私。

あなたは今、幸せですか？

敬具

平成三十年九月二十四日

現在の私より

十年後の私へ

北陽中2年 永野 由華

二十四歳になった私へ。あなたは今、何をしていますか？

越谷で生まれ、越谷で育った私。今までの十四年間を振り返ると、たくさんの思い出が甦ってきます。

人見知りで、なかなか友達と話すことのできなかった幼稚園時代。たくさんの方に挑戦し、喜びと苦しみを知った小学校時代。

そして、中学生になった今は、勉強に部活、生徒会本部の仕事に一心不乱に取り組んでいます。しかし、まだ私は、うまく周りとコミュニケーションを取ることができないという悩みを抱えています。

私の住んでいる北川崎には、二百二十七年の歴史を持ち、無形民俗文化財に指定されている「北川崎の虫追い」という行事があります。私は、毎年、この行事で松明を担いでいます。地域活動に参加することで、たくさんの人と接し、コミュニケーションを上手に取ることができないかと思っています。十年後の私はどうでしょうか。ずっと地域の方々と共に松明を担いでいてくれるといいなと思います。

もう一つ、今私がコミュニケーションを取れるようになるために頑張っていることがあります。小学校一年生から習っている英語です。将来は、英語に携わる仕事に就きたいと思っていますのですが、果たしてどうでしょう。今の私の努力が二十四歳の私の力になり、中学生の時に頑張ったよかったです。夢を叶えるために、精一杯努力したいと思っています。

これからもいろいろなことで悩んだり苦しんだりすることがあると思います。それでも、試験を乗り越えて、力いっぱい生きていこうと思います。十年後の私に胸を張って会うことができるように。あなたも自分を信じて、他人を思いやり、心優しい人になってください。

未来

北陽中3年 小野寺 恋々

十年後の私たちは社会に出て働く人や大学院などの学校で学ぶ人と様々な人がいると思います。しかし、私自身が将来どんな仕事をするか自分ではまだ想像がついていません。今まで「こんな職業に就いてこんな事をした」と何度も考える機会がありました。その度に「自分には合わない無理ではないか」とマイナスな方向に考え、やめておこうと諦めてしまいます。そのため、十四歳の私は、将来の夢が明確に決まっていまいませんでした。

中学三年生になって進路について考えた時、仕事をするなら自分が好きな事をして楽しくやりたいと思いました。だから私は、将来好きな英語を活かせる職業に就きたいです。その職業に就くためには、大学などで沢山の英語を学ぶ必要があります。よりよい環境で英語を学ぶ為にも、今からしっかりと勉強をしていかなければなりません。また、私は英語でコミュニケーションを取る事は好きですが、人前に立って話す事がとても苦手です。緊張し過ぎて声が出なくなる事や、恥ずかしくて顔が赤くなってしまいう事があります。外国の人々と関わる職業という様々な内容があり、大勢の人の前で話す仕事が多く存在し

ます。今の私では、この様にすぐやめておこうと諦めずに、今後は苦手を克服していきたいです。

十年経つと、世の中は大きく変化していると思います。もしかしたら、新しい職業が生まれているかもしれません。誰が、どんな職業に就き、どんな事をしているか、それは想像がつかない事だと思っています。しかし、変わらない事は「夢は努力してつかむ」という事です。夢を叶える為に私に足りないものは、やろうとする勇氣とそれを続ける気持ちです。これから様々な事に挑戦して、強い志を持ち、努力し続けられる人に十年後成長したいです。

十年後の私

栄進中1年 木村 くるみ

十年後のあなたは笑顔でいますか。周りの人を笑顔にしていますか。

私の将来の夢は、世界で活躍するバレエダンサーになって見てくれた人を笑顔にすることです。子供の頃から音楽に合わせて踊ることが好きだった私は四歳の誕生日を迎えすぐに母にお願いしバレエを習い始めました。髪を結ってもらいピンクのレオタードを着てレッスンに出かける時のワクワクした気持ちは今でも忘れられません。

その後、小学三年生の時に栃木から両親の地元越谷に転居し新しい先生と出会い、それまでただ好きで踊っていたバレエを将来の職業として考えるようになりました。それまでの様に楽しいだけのレッスンばかりで無く、心が折れる位辛いことも多くあります。です

が私の舞台を見てくれた家族や友人たちの笑顔はその辛さをも忘れさせてくれる何事にも代え難い物です。また両親にはレッスンの送迎や食事面のサポートだけで無く、学校とバレエの両立のために、そして何より私の夢の実現のために共に向き合い、支えてもらい今の私があります。

世界の舞台で活躍するダンサーになるにはバレエのテクニクだけで無く内面から溢れる人間性が重要だと私は思います。その為にも今の学校生活の中で様々な経験をし、内面をみがき成長することが将来の目標につながると確信しています。私が目標とするロシアのバレエ団に入団するためには海外のバレエ学校への留学が不可欠となり言葉も生活習慣も違う中、家族や友人と離れ一人で頑張らなくてはなりません。今のこの思いを決して忘れず家族に恩返しが出来る様、日々努力を重ねて行こうと思います。

十年後の私へ。あなたは今どこで踊っていますか？あなたの周りに笑顔が溢れていますか？

多くの願いと私の希望

栄進中2年 大越 雅子

十年後。誰も予測できない私の未来。一体どのようなことをしているのだろうか。

私は小学生の頃から薬剤師になって、いろいろな薬を作ったりして苦しんでいる人を助けてあげたい。と強く願っています。それは身近な人だったり、病院にいる人もですが世界中の栄養失調の子供達だったりとまだまだ助けを必要としている地域にも活躍できるよ

うになりたいのです。また、十年後と短い期間ではありますが『平和に人々が暮らせる』ということを社会全体で達成できるようにしたいのです。

『平和に人々が暮らせる』ようにするためには、人工知能を使って、今より暮らしやすいように研究したりさまざまな方向から現状を確認して一人ひとりが小さなボランティアにも参加してみる事が、とても重要になってくると思います。

私自身も十年後とはいわず、今からでも身近な『環境』について節水・節電を心がけてみたり、今もまだ苦しんでいる日本の『相対的貧困』の人々や、世の中にある『貧困』の人々、東日本大震災などの災害によってまだ不安を抱えている人々の為に募金をしてみよう、と今回のことを調べてみて思いました。今はまだ年齢的にも出来ることは大人に比べてたら多くはありませんが薬剤師になったらいろいろな面で社会に協力することができ、薬剤師としては薬で命を救うことができ、一人の人間としては身体はもちろん、心も助けてあげることが出来ます。私は昔、薬で助けてもらったことから、薬剤師の仕事に就きたいと思いました。次は、私が助けられるようになり、人々を安心させられる存在になります。

十年後に必ず実現できますように…。

今、伝えたいこの思い

—十年後の自分へ—

光陽中3年 塚田 羽奈

十年後の私は何をしていますか。夢だった看護師になっていきますか。それとも違う職業をしていますか。

平成十五年、私は越谷市立病院で生まれました。私の妹も越谷市立病院でお世話になりました。私が看護師になりたいと思ったきっかけは、母が妹を出産するために入院をしていて、私が祖母とお見舞いに行つたときです。看護師さんがとても優しく接して下さり、素敵な仕事だと思つたからです。

十年後の私は、夢の実現に向けて、どのようなことが大切ですか。聞きたいことがたくさんあります。しかし今私がかつていることは、日々の努力の積み重ねが大切だということ。勉強も部活も一つ一つの練習を大切にしなければ意味がありません。十年後の未来に向けて日頃の練習の積み重ねを大切に、少しずつ看護師の夢に近づいていきたいと思います。

十年後の私に一番伝えたいことは、今までにお世話になった家族、先生、地域の方々、そして、越谷に感謝をすることです。教科書や学校の設備、中学生まで無償で病院での診察を受診できる制度など、越谷市の税金のおかげで、安心・安全に暮らすことができます。また、家族・先生・地域の方々を支えられて自分達が成長することができています。

そして、もう一つ大切なことがあります。人と人とのコミュニケーションを積極的に図ることです。コミュニケーションは、看護師はもちろん、他の職業でも大切なことです。

会話での人とのつながりを大切にしてほしいと思います。

私は、十年後の自分と、日々の努力を大切に、周りへの感謝の気持ちを忘れないことを約束します。そして、誰にでも優しく、明るく笑顔で接することができる十年後の自分になりたいと思います。「努力は必ず報われる」この言葉と自分を信じて、前に進んでいきたいです。

大人になった私へ

光陽中3年 関口 美来

十年後、越谷はどんな市になっているだろう。水と緑と太陽に恵まれた越谷は、今よりも大きく輝き、人々が笑顔になっていると思います。

越谷は今、中核市へ移行となり、福祉にも力を入れて、身近で細やかなサービスを提供しています。年々、人口が増えています。日本全体は、人口が減少する自治体が多い中でとても良い事だと思えます。約十年前、越谷レイクタウンができ、大型ショッピングセンターは大勢の人が訪れています。住宅も多く建っており、小さい子ども達も多く見かけています。そのレイクタウンの中心には「市民が水辺と出会える空間」として大相模調節池があります。ヨットをしたり、散歩をしたり、時にはバーベキューをして楽しむ人がいて、素敵な環境になっています。

しかし、「少子高齢化」が問題になっているのも現実です。この先も高齢化が進んでいく中で、私に出来ることは何かと考えた時に、高齢者の方に優しく接してあげることが出来る

ろん、車イスの使い方やバリアフリーがある場所などをしっかり知ることが大切になっていくと思います。そして、より介護について勉強し実践していかねければなりません。また、私は将来、子ども達と接する仕事につきたいと思っています。その未来につなぐ子どもたちに、楽しく笑顔でいられる越谷だということをお伝え、伝えていく役目があると思います。大人も子どもも高齢者も皆、笑顔で暮らしていける越谷を作っていかなければなりません。

十年後もこの越谷で暮らし、多くの魅力があることをたくさんの人に伝えられるようにしたいです。また、「越谷」を訪れる人にも興味をもってもらえる街作りをしていきたいです。

「夢」を見つめる

平方中3年 磯野 匠

十年後の自分は何をしていますか。どんな仕事をしていて、どこに住んでいるのですか。「夢」を持っているのですか。

僕にはまだ将来の夢がありません。「くにならりたい」、「くしたい」ということがなかなか見つからず、いつも考えています。昔はたくさん夢がありました。仮面ライダーになりたい、大工になりたい、自動車の整備士になりたい…。でも今はありません。だから未来の自分の姿が全く想像できません。とりあえず、高校、大学には進学するでしょう。でも、十年後の自分は、「二十五歳」です。社会人として生活している年齢です。今の僕からすると不安でしかたありません。先日、

学校で「進路講演会」というものがあり、異なる仕事についている二名の方からお話がありました。その方たちは僕のように夢が見つからない人たちへ向けてこうおっしゃっていました。「今見つからなくても高校、大学に行くにつれて見つけていけばいい。」と。確かにそうだと思います。でも僕は「今」夢がほしいのです。夢は自分の目標であり、それを実現するために頑張ろうと思う原動力にもなります。それがほしいのです。

だから十年後の自分はどんな姿をしているのか不安に思います。でも楽しみでもありません。特定の夢がないということは、選択肢が無限にあるということなのです。今ある選択肢を減らさないために必要な事は何か。それは「学ぶこと」でしょう。様々な事をバランスよく学べていればある程度の職には就けると考えます。十年後の自分にも学び続けてほしい。苦しいことや悲しいことがあっても「夢を見つucker」という夢を諦めないでほしいと思います。十年後に夢が叶えられていたらとてもうれしいです。頑張ってください。

未来の私への約束

平方中3年 木村 美咲

今、あなたはなにをしていますか。社会にでて、人の役に立っていますか。幸せですか。中学三年生の今、部活も引退して日々「受験生だ」と感じています。高校受験のことは覚えていますか。この手紙をかいている私からしたら、高校受験は未来のことですが、あなたにとって高校受験は過去のことでしょう。志望校を見つけれられて、入試に臨んで合格で

きたのでしょうか。十年後じゃ大学受験も終わってますね、大学に行ったのなら。成人式も終えて、立派な大人になっていますか。昔からの友達を大切にしていますか。自分のことについて聞きたいことがたくさんあるけれど、私が聞きたいのは自分のことだけではありません。

今の日本は、平和ですか。苦しんでる人はいませんか。十年後の私は覚えているかわかりませんが、熊本で大震災がおき、西日本で平成最悪と言われた災害が起きました。千葉でも地震が発生し、埼玉もゆれました。ニュースを見るだけで苦しくなり、もしかしたら越谷にもくるのではないかと、そわそわしています。もしも越谷にも大きな災害が起きたら、田んぼが広がる越谷ではなくなってしまう。でも、私はそんな暗くなつた越谷市は嫌です。十年後も二十年後も、越谷市はきっと明るいはず。私はそう信じています。

中学三年生の私から、十年後の私へ。この先の未来のことはなにもわかりません。でも自分がやろうと思ったことは、途中で諦めずに必ずやりとげて、一日一日を大切に過ごし、近所の人や友達とたくさん関わって、越谷市を自慢できるようにすることを約束します。十年後も二十年後も、自然豊かな越谷市でありますように。

なりたい自分へ

武蔵野中1年 村中 悠那

未来の自分は、優しく礼儀正しい人になりたい。少し前の私は、こんな当たり前のことなんてできるだろうと思っていた。だが、こ

んな当たり前のことがきちんとできる人がかっこいいのだと気付いた。

そのかっこよさに気付いたのは、部活動のときだった。優しく丁寧に教えてくれた先輩の姿がとてもかっこよかった。そして、先生の前を通るときには、かがんで「失礼します。」

と言って通るなどの礼儀も部活動で学んだ。この優しさや礼儀を普段の生活にも活かそうと思う。これを毎日コツコツと続けていけば習慣になっていき、未来のなりたい自分にながっていくと思う。優しさや礼儀はもちろん、思いやりや謙虚さも合わせ持つた人になっていきたい。

私は、将来の夢がまだ明確に決まっていない。でも、海外で働いてみたいという夢がある。海外で働くということは、日本人ではない人と、日本語ではない言葉でコミュニケーションをとることが必要になってくる。その時に、もちろん言語を習得することも大事だが、先輩から学んだ優しさや礼儀、他にも思いやりや謙虚さも持つていけば、コミュニケーションがとりやすくなる。今、学んでいることが将来につながっていく。そのため、今のうちから、当たり前のことがきちんとできるような人になる。

この部活動で学んだ優しさや礼儀を忘れずに、思いやりと謙虚さも合わせ持つた人になれるように、今から目標をたてて頑張りたい。

十年後の私へ

武蔵野中1年 高橋 花歩

十年後の私は、二十三歳。まだ若いですね。今の私はどうですか。

二〇十八年の私は中学一年生です。まだまだ子供で分らない事がたくさんあります。ですが、入学当時に比べ友達が増え頼れる人もたくさんいます。今、頑張っていることは部活と勉強です。部活は女子バスケットボール部で、頑張っていることはドリブルです。理由は、利き手の右手では自由にボールをコントロールできるのですが、利き手ではない左手はなかなか上手くいかない事が多く、失敗することが多いので練習して失敗をなくせるように頑張っています。勉強は、もう本当に苦手で得意だったのは体育と音楽だけ。大人になってから役に立つものは全て苦手で、今は全然分らないけどしっかり理解して次に生かせるように頑張ります。中学校の勉強は結構大切な時期にも関係してくるから、それに備えて役に立つ勉強が身につくようにしたいと思っています。中学校三年生頃には十五位以内に入れるようにしたいです。

十年後の私は、どんな人ですか。今の私は負けず嫌いで「やる」と決めたらやりきる人だったと思います。それは十年後の私も変わっていてほしくありません。どんなに苦しい状況であっても前を向いて進んで行ってほしい。何にもできないと思ったら誰かに手伝ってもらったりすればいい。そのかわり手伝ってくれた人が困っていたら、助けてあげればいい。どんな場でも、借りは返す。感謝の気持ちを伝えることが大事だと思う。大人になっても「あたり前」なこととは言われなく

もやってほしい。それができて立派になれば一人前だ。

今の私ができる事はやり、大人になって必要なことが身に付くように頑張ります。だから十年後の私も厳しいことから逃げず、乗り越えていってほしい。乗り越えたら乗り越える前より必ず成長してるから。頑張れ!

二十五歳の私へ

大袋中3年 小松 桜綺

二十五歳の私、お元気ですか。夢は叶いましたか。辛いこともたくさんあるでしょう。しかし、十五歳の私からは、二十五歳という年齢はとても魅力的です。

二十五歳は、仕事にも慣れてくる頃だと思います。教師という夢も叶え、憧れの先生に少しずつ近づいているでしょう。小学六年生の時、何も出来なかつた私を変えてくれたのが担任の先生でした。どんなことにも全力で取り組むことの大切さは、未来の私も一番大切にしていることだと思います。先生は私の目標とする人です。今の私も、自分の得意分野を生かし、生徒に力を与えられる教師になりたいのです。未来の私は、そんな教師になりましたか。

十年はあっという間に過ぎてしまふでしょう。憧れの先生は、いつもたくさんの方に挑戦していました。十五歳の私だからこそ出来ることはたくさんあると思います。今、私は失敗を恐れず、たくさんの方に挑戦することを心がけています。十年後、教師になったら、今よりも大きく成長した私を、先生に見てもらいたいからです。二十五歳の私、必

ず先生に会って、たくさん話をしてくてください。十五歳の私との約束です。

「あなたは今、幸せですか。」二十五歳の私はどのように答えますか。今は自信をもって幸せだと答えることができませぬ。しかし、未来をつくるのは今の私です。ですから、自分が信じる道を、精一杯進もうと思います。どの道を選択することが正解ということは無いです。たとえ間違えていたとしても、自分で決めたことなら後悔しないと思います。今の私には、今を全力で頑張ることしか出来ませぬ。二十五歳の私が、胸を張って幸せだと答えられるために今を懸命に生きていきます。

十年後の自分に伝えたいこと

大袋中3年 三井 陽太

高校生の自分、大学生の自分、働いている自分、二十五歳の自分。遠い未来になればなるほど、自分の姿は想像がつかない。

順調にいけば、二十五歳ならもう働き始めて、少し仕事に慣れてきている頃ではないかと思う。今の自分はストレスや疲れを心の中に溜めやすいと感じている。だから、もしかしたら、二十五ではもう疲れきっているかもしれない。そんなときの僕の心の拠り所は友達になる。自分の中のそれは、今も先も変わることはないだろう。

僕には唯一無二の親友がいる。その親友が自分の家の近くに引っ越してくることがなければ、僕は小中学校をまるまるで違う形で過ごしていたと思う。幸運なことに、僕にはその親友以外にもたくさん友達が多かった。親友の家

はすぐ近くだし、これからも切っても切れな
い関係が続いていくと思う。しかし、せつ
か小中学校で仲良くなった友達、何人か
は関わりがなくなってしまうかもしれない。
それは、友達との関わりをとでも大切に
している自分にとって、大きな打撃だ。

それをふまえて、十年後の自分に伝えたい
ことは、古くからの友達を大切にしてい
たいことだ。今まで関わってきた友達、こ
れから出会うであろう新しい友達、その一
人とずっと仲良くしていってほしい。そう
すれば、きっと自分の人生は豊かになっ
ていくと思う。

十年後も含め、将来の自分が、友達との関
係を大切にし、心の拠り所にしながら、辛
い物事を乗り越えていってほしいと願う。

十年後の自分へ

新栄中1年 幸田 姫希

二十二才の自分は元気ですか。今、専門学
校に行っていますか。もし行ってるなら、き
ちんと将来の夢を叶えられるように頑張っ
て下さいね。

それと、妹と弟とは仲良くやっていますか。
今は、毎日毎日ケンカしてて全然仲良くやっ
てないですよ。4人姉弟の一番上なんだから
大人になってもしつかりして、お母さん
お父さんを安心させてあげて下さい。お父さん
はまだ仕事をしていますか。今では、仕事
がいそがしく最近なかなか会っていません。
大人になってもお父さんと過ごす日々を大切
にしてください。お母さんには感謝の気持ち
を忘れないで下さい。お母さんは私達4人を一

懸命育ててくれたんだから、感謝の気持ちは
絶対に忘れないで下さい。二十二年間お父
さんとお母さんは育ててくれたし、やりたい事
をさせてくれたんだから必ず恩がえしをして
あげて下さい。

十年後の自分へ

新栄中1年 田村 聖来

私が今まで過ごしてきた、生きてきた場所
はどんなに時間が経っても変わらない。私が
10年後、20年後どこに行こうと変わらない。

私は小さい頃から「ピアノの先生になっ
てみたいなあ。」と心の中で思っていました。
でも、周りの人に「聖来の将来の夢は何？」
と聞かれると「ピアノの先生。」と言った事
は一度もありませんでした。その理由は自分
が本当にピアノの先生になりたいのかどう
か分からなかったからです。小学六年生の時

私は特別勉強ができるわけでもないし、むし
ろ頭は悪いほうでした。そんな時、私がで
きる事と言えばピアノぐらいでした。親から
も「将来音大に通ってピアノの先生になりな
よ。」と言われていました。今現在中学一年
生の私は自分でも「自分にはピアノしかと
りえがないし。やっぱり将来はピアノの先生
か。」と思っています。それに、私の住んで
いる越谷市はそんなにいい場所ではないけど、
越谷市の中のいなかかな場所に住んでいます。
そこから一人で音楽大学に通うのは自分でも
無理だと思っています。高校生になってしま
えば大学生になってしまえば、そんな思いは
消えているかもしれない。でも、もし自分
がピアノの先生として人生を進んでいると

たらと思うと、とてもワクワクしています。
それは、今自分が心からピアノの先生になり
たいと思ってるからだと私は思います。も
しかしたら東京に上京するのがいやだなあ
と思ってるかもしれない。それはそうだと
思います。なぜなら越谷市はとてもいい場所
だからです。特別何かがあるわけじゃないけ
ど、私にとっては一番好きな居場所です。
大人になっても、その気持ちは決して忘れ
ないでください。その気持ちを心にしまっ
て自分の好きなように、自分が一番楽しいと思
える人生を歩んでください。それが、今現在
中学一年生の私の夢です。

十年後の私が笑顔で過ごせる様に。

大相模中2年 清水 ひかり

丁度十年前、私は北海道から越谷に引っ越して来ました。十年後、二十四歳の私は、どこに居ますか。何をしていますか。

今の夢を叶えて、養護教諭になつていますか。一人でも多くの子供を笑顔にできる先生だといいな。それから、毎日笑顔を忘れない私でいてほしいです。

十年後の私は、何を大切にしていますか。今の私は、自分らしく、笑顔でいる事を大切にしています。中学生になつてから私は、素の自分で、毎日楽しく過ごしています。これは、とても幸せなことだと思っています。そして、今の私が、自分らしく、たくさん笑つていられるのは、大好きな友達や、先生がいてくれるからです。だから、いつでも、人をお願いやすること、大好きな人たちへの感謝を忘れない。ということも、私の大切にしていることの一つです。

いつでも自分らしく、笑顔でいることと、感謝を忘れないことは、十年たつても、変わらずいてください。そのためには、未来につながる今が大事なのだと、思います。

だから十年後、一人でも多くの子供を笑顔にできる養護教諭になるために、今、保健委員として、いつでも周りを見て行動し、クラスメイトの健康面でも、心の面でも支えられる様に心がけています。

そして、十年後の私も、素のままの自分とみんなと笑って過ごせる様に、これからも自分らしく、大好きな友達と、楽しく笑つて過ごすことを約束します。

これらのことが十年後、毎日笑顔の私でい

られることに。私に、夢を与えてくれた先生のような、養護教諭になることにつながる様、今を一生懸命、頑張ります。

どうか、十年後の私が、周りも明るくできるほど、笑顔であふれています様に。

十年後の私へ

中学二年生の私より。

十年後の自分へ

大相模中3年 荒井 幹太

十年後の自分はどんななっているのだろうか。今、思い描いている夢が叶っているのか、それとも普通に就職をしてバリバリ働いているのか。はたまた生きているのか死んでいるのかも今の自分には分からない。この作文を書くときはつきりいつて何をかけばいいのかわからなかった。でも十年後の自分にききたいことは山ほどある。その中で一番ききたいことは、夢が叶い今も野球を続けているかどうかだ。

つい先日、ある方が夢を持っている人は強いと熱く語っていた。しかしそれは違うのではないかと思った。夢を持っている人が強いのではなく自分を持っている人が強いのだと思います。誰がどんな夢を見ようとその人の勝手だ。しかし必ずしも叶うものではない。だから壁にあたったとき、夢よりも心の中にしっかりとした自分がある方がよりよい選択ができるのではないかと思う。十五歳という年齢で将来を見ずという事は極めて難しいことだと思ふ。つまり将来の「夢」ばかりにとらわれすぎるのはどうなのかということだ。これから自分はよっぽどのがなけ

れば高校に進学し大学にも行くだろう。その中で新たな友人や先生なども出会い価値観も変わってくると思う。そして自分の進むべき道も変わってくるかもしれない。でもそんな時でも私は心の中に自分をしっかりと持ち続けたい。そのために今やるべきことをがむしやりに全力で取り組みることが今の私にできる唯一のことだ。

十年後、この作文を読んだ自分がどんな形でなになつていようと「やれるだけやったんだ後悔はない」と自信を持って言える人でありたい。

あきらめずに今を

千問台中1年 須田 亜実香

あなたが読む10年前の今、私はこの手紙を書いています。10年後の自分は、二十二歳か二十三歳だと思ひます。そんな10年後の今、どこでこれを読んでいるか、どんな気持ちでこの手紙を手にしてるか、誰と読んでるか、もしくは一人で読んでるか、今の私では全くわかりません。未来へのこれからの道は広く、何事にも可能性は無限大です。だからこそ、今この時間の一瞬一瞬を大切にしています。そして、一つだけ約束したいことがあります。それは、何があつても、自分の今の夢にあきらめずに進むことです。

私は今、将来の夢がありません。なので、未来の自分が何をしているか、全くわかりません。でも、未来の自分がどうあつてほしいのかを考えることで、少し未来が見えるような気がしました。それは、結果が残るもの、達成感が出るもの、目標に向かって努力でき

るものの3択です。これらに目覚めた理由は部活です。色々なことに興味を持ち始めた今、私は部活に打ち込んでいます。最近あった初めての大会でうまくいかず、泣きそうでした。でも、親友の「絶対あきらめちゃだめだよ。」という強気の言葉が、私を前向きにさせてくれました。そして、大逆転で初めて取った一勝は、大きな喜びであり、大きな自信になりました。部活ほど、真剣に取り組みがなければいいことはありませんでした。目標に向かってがんばったあとに残る結果は、きつとどんなものであろうと、これからの自分を強くしてくれると思います。

今までのこと、そしてこれからのことも、10年後の自分に繋がっていると思います。あきらめずに勝ち取った「何か」は、私に大きな目標と自信をくれると思います。だからこれからも、約束を胸に、自分の道を歩んでください。

忘れてはいけない二つの事

千間台中一年 倉淵 咲名

二十二歳、十年後の私へ

こんにちは。十二歳の貴方です。元気に過ごしていますか。

私は今、少し慣れてきた中学校で一生懸命勉強したり、部活で絵を描いたりしています。学校以外の時間も習い事や宿題があつて大変ですが、楽しい事が沢山あつて充実した毎日を送っています。

そして、私は将来図書館の司書になりたいと思っています。ただ本が好きで、本に囲まれて出来る仕事だからという理由もありま

す。でも、一番の理由は「良い図書館を創って、利用者さんの笑顔をつくりたい」からです。今は図書委員として、返却作業や本の整理を精一杯頑張っています。

貴方は今、どんな事をしてますか。社会人一年目か、まだ仕事を探しているか、それとももっと勉強するために海外留学しているか。司書になっていないなくても、貴方が就いた仕事が目指していたものであるのなら、していても楽しいはずですよ。父は前、こう言うてくれました。

「好きな事は好きなだけ、心ゆくまでやりなさい。」

この言葉は、ずっと大切にしています。私は今、読書と絵を描く事が好きです。二つとも、家や習い事ですしていた小学校の頃より、読書時間が増え、部活で沢山絵を描ける今の方が格段と楽しく感じます。だから好きな事を心ゆくまでやって、沢山楽しんで欲しいです。

そして、どんな時でも、笑顔は欠かしてはいけないと思います。辛い時や悲しい時に少しでも笑ってみると、明るく、前向きになれるはずですよ。

「好きな事を心ゆくまで」「笑顔でいること」この二つを忘れないで下さい。私なら、貴方なら、きつと大丈夫ですよ。

十二歳、十年前の貴方より

データでみる越谷

[地勢・人口、憲章・宣言]



Koshigaya City



Saitama

地勢・人口

市役所の位置

所在地 埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号
 経緯度 東経139度47分 北緯35度53分

人口・世帯数 (平成30年9月1日現在)

人口 342,152人(男170,179人 女171,973人)
 世帯数 152,512世帯

位置・地勢

越谷市は埼玉県の南東部に位置し、面積は60.24km² (東西8.6km、南北11.5km)。
 大宮台地と下総台地にはさまれた中川流域の沖積平野にあり、丘陵のない平坦な土地です。

憲章・宣言

越谷市民憲章

わたくしたちは、
 越谷市民であることに誇りと責任を持ち、
 水と緑と太陽に恵まれた豊かなまちを築くため、
 限りない願いをこめて、ここに市民憲章を定めます。

1. 教養を豊かにし、人間性あふれる文化のまちをつくります。
1. きまりを守り、信じあい心豊かな明るいまちをつくります。
1. 自然を愛し、お互いに助けあい、きれいなまちをつくります。
1. 健康で楽しく働き、明るいスポーツのまちをつくります。

昭和53年11月3日制定

越谷市子ども憲章

水と緑と太陽に恵まれた越谷市の未来を担うわたしたちは、
 夢と誇りを持ち、
 みんな仲良く助け合って生きていくことを誓い、
 ここに「越谷市子ども憲章」を定めます。

- 自立** わたしたちは、互いに認め励まし合い、自分の道を歩んでいきます。
- 責任** わたしたちは、礼儀正しく、きまりを守り、責任を持って行動します。
- 健康** わたしたちは、生命を大切にし、明るく、たくましく生きていきます。
- 感謝** わたしたちは、思いやりの心と、“ありがとう”の気持ちを持ち続けます。
- 環境** わたしたちは、自然や文化を大切にし、環境にやさしくします。

平成10年11月3日制定

憲章・宣言

越谷市福祉憲章

わたしたち越谷市民は、生涯にわたって、すこやかに、いきいきと、人間らしく、川の流れるこの豊かなまちに、安心して暮らせることを願っています。

そのためには、個人、家庭、地域、企業、行政などが、しっかりと手をたずさえ、知恵をだしあい、それぞれの役割を自覚し、責任を果たしていかなければなりません。

すべての市民が、ふるさとと実感でき、愛着のもてる福祉のまちをめざして、この憲章を定めます。

ともに生きよう かけがえのない あなたのいのち 明日に向けて みんなでつくろう やさしいまちを
 ともにつなげよう あなたのちから わたしの経験 知恵をだしあい みんなで築こう 住みよいまちを
 ともにかけあおう ほほえみと 思いやり 手をとりあって みんなで育てよう ふれあいのまちを
 とともに高めよう すこやかな ことごとく 明るい家庭 みんなで愛そう ふるさとのまちを

平成11年9月15日制定

安全都市宣言

最近における産業、経済、文化の発展と交通量は極度に増加し、交通事故が頻発して大きな社会問題となっている。また火災の発生も文化生活の向上、暖房用火器具類の発達普及に併行して増加の傾向にある。よって全市民とともに安全都市造成の理想を達成するため「安全都市」とすることを宣言する。(抜粋)

昭和37年3月制定

スポーツ・レクリエーション都市宣言

水と緑と太陽に恵まれた私たちのまち、越谷市も急激な開発と人口増加により、美しい自然と生活洋式様式に大きな変化がもたらされました。

私たちは、いつも美しい自然にあふれ、健康で明るく人間性豊かなまち越谷市でありたいと思います。

私たちは、ひとりひとりが生活をとおしてスポーツ・レクリエーションを親しみ、健康でたくましい心とからだをつくるとともに、さらに市民の交流を深め、連帯感に支えられた明るく豊かな住みよいまちを築くことを誓い、次の目標をかかげて越谷市を「スポーツ・レクリエーション都市」とすることをここに宣言します。

- すべての市民がスポーツ・レクリエーションを楽しみましょう。
- すべての市民が力を合わせてスポーツ・レクリエーションのできる場をつくりましょう。
- すべての市民がスポーツ・レクリエーションに進んで参加しましょう。
- すべての市民が身近にスポーツ・レクリエーションのできる仲間をつくりましょう。

昭和49年9月26日制定

文化都市宣言

清らかな川の流れると豊かな緑、青い空。
 昔から水郷こしがやとして親しまれてきた
 わたしたちの郷土は、先人達が遺(のこ)してくれた
 かけがえのないふるさとである。

わたしたちは、
 先人から受け継いだ恵みを守り、はぐくみ、
 さらに、人間愛に満ちた
 ゆとりと潤いと安らぎのある文化のまちを創(つく)って
 次の世代に引き継いでいこう。
 みんなで心と力をあわせて、
 わがまち越谷 と だれもが誇れるまちづくりをすすめ、
 生涯を心豊かに過ごせるような市民生活を築いていこう。
 市制25周年にあたり、
 越谷市を「文化都市」とすることを宣言する。

昭和58年11月3日制定

平和都市宣言

わがまちは、古くから「水郷こしがや」として親しまれてきた水と緑と太陽に恵まれた美しいまちであります。

そして、このかけがえのない自然と明るく平和な暮らしは、越谷市民すべての願いであります。

わが国は、先の大戦による戦禍にみまわれ、世界で唯一の被爆国として、尊い命や貴重な財産を失ってまいりました。この戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさを後世に伝えていかなければなりません。

わたしたちは、未来に向けて平和で豊かな社会を築き、美しい自然環境を新しい世代に引き継ぐため、人類共通の願いである世界の恒久平和実現を希求し、市制施行50周年を期して、ここに平和都市宣言をいたします。

平成20年11月3日制定

データからみた 越谷市の推移

項目 \ 年代	昭和33年	昭和43年	昭和53年	昭和63年	平成10年	平成20年	平成30年
 人口 (4月1日現在)	48,048人	105,492人	207,575人	271,964人	302,368人	320,802人	341,095人
 世帯 (4月1日現在)	8,342世帯	26,803世帯	59,486世帯	85,258世帯	108,239世帯	130,392世帯	151,228世帯
 人口密度 (4月1日現在)	796人/km ²	1,766人/km ²	3,475人/km ²	4,553人/km ²	5,014人/km ²	5,319人/km ²	5,662人/km ²
 1世帯当たり人員 (4月1日現在)	5.8人	3.9人	3.5人	3.2人	2.8人	2.5人	2.3人
 1日当たり 出生数	2.77人	8.85人	9.90人	7.85人	8.70人	7.60人	7.57人 (29年中)
 1日当たり 死亡数	1.18人	1.34人	2.13人	2.98人	3.99人	5.49人	7.36人 (29年中)
 1日当たり 婚姻数	0.98件	4.19件	3.72件	4.43件	5.29件	4.89件	4.54件 (29年中)
 1日当たり 離婚数	0.06件	0.21件	0.68件	0.91件	1.64件	1.85件	1.65件 (29年中)
 1日当たり 転入者数	4.90人	47.24人	46.43人	49.51人	46.16人	39.82人	39.83人 (29年中)
 1日当たり 転出者数	4.58人	18.37人	40.19人	38.59人	42.71人	35.41人	35.42人 (29年中)
 1日当たり 交通事故	0.44件	3.65件	5.23件	13.38件	21.42件	18.32件	21.0件 (29年中)
 1日当たり 救急出動	-	3.8件	10.1件	16.0件	22.0件	31.3件	43.2件 (29年中)
 1日当たり 犯罪件数	1.9件	4.5件	5.3件	9.7件	17.5件	19.9件	10.7件 (29年中)
 1日当たりごみ 排出量(家庭系)	-	18.8t	100.0t	188.2t	233.8t	213.2t	198.6 t (29年度)
 市内駅1日 当たり乗車人員	9,126人	49,391人	112,096人	182,602人	216,506人	229,826人	272,552人 (29年度)
 病院 診療所	18力所	42力所	81力所	119力所	149力所	172力所	208力所 (29年度)
 児童数 生徒数	10,023人	13,421人	37,410人	39,405人	27,428人	27,868人	26,956人

データ編

地目別土地面積割合

各年1月1日(単位：%)

年次	田	畑	宅地	雑種地	その他
昭和33年	55.8	16.7	7.8	...	19.7
昭和43年	50.8	15.7	13.9	...	19.6
昭和53年	41.8	17.7	24.9	2.2	13.4
昭和63年	32.3	11.4	31.5	2.7	22.1
平成10年	23.7	8.5	33.8	6.8	27.2
平成20年	19.6	7.3	35.9	8.4	28.8
平成30年	15.3	6.5	40.3	7.4	30.5

資料：昭和33年は「埼玉県統計年報」
昭和43年以降は資産税課

人口

各年4月1日(単位：人、%)

年次	人口	増加率	年次	人口	増加率	年次	人口	増加率
昭和32年	47,480	-	昭和53年	207,575	2.3	平成11年	305,566	1.1
昭和33年	48,048	1.2	昭和54年	212,977	2.6	平成12年	308,047	0.8
昭和34年	48,800	1.6	昭和55年	218,817	2.7	平成13年	309,743	0.6
昭和35年	49,460	1.4	昭和56年	223,687	2.2	平成14年	311,737	0.6
昭和36年	50,793	2.7	昭和57年	229,656	2.7	平成15年	314,667	0.9
昭和37年	52,285	2.9	昭和58年	236,406	2.9	平成16年	316,466	0.6
昭和38年	55,648	6.4	昭和59年	243,328	2.9	平成17年	317,033	0.2
昭和39年	62,637	12.6	昭和60年	248,435	2.1	平成18年	317,483	0.1
昭和40年	70,600	12.7	昭和61年	256,486	3.2	平成19年	319,164	0.5
昭和41年	80,540	14.1	昭和62年	264,487	3.1	平成20年	320,802	0.5
昭和42年	95,113	18.1	昭和63年	271,964	2.8	平成21年	323,886	1.0
昭和43年	105,492	10.9	平成元年	277,144	1.9	平成22年	326,881	0.9
昭和44年	118,570	12.4	平成2年	281,623	1.6	平成23年	328,749	0.6
昭和45年	131,887	11.2	平成3年	284,836	1.1	平成24年	329,712	0.3
昭和46年	145,878	10.6	平成4年	288,101	1.1	平成25年	330,428	0.2
昭和47年	159,931	9.6	平成5年	291,519	1.2	平成26年	332,745	0.7
昭和48年	172,555	7.9	平成6年	294,257	0.9	平成27年	334,693	0.6
昭和49年	181,822	5.4	平成7年	296,426	0.7	平成28年	337,181	0.7
昭和50年	190,079	4.5	平成8年	297,822	0.5	平成29年	339,677	0.7
昭和51年	197,087	3.7	平成9年	299,870	0.7	平成30年	341,095	0.4
昭和52年	202,857	2.9	平成10年	302,368	0.8			

(注)昭和60年までは住民基本台帳人口であり、61年からは総数(住民基本台帳+外国人登録数)である。
平成24年の外国人登録制度廃止に伴い、27年以降は住民基本台帳人口。

年齢3区分人口

(単位：人、%)

年次	総数	15歳未満		15～64歳		65歳以上	
		実数	割合	実数	割合	実数	割合
昭和35年	49,585	16,817	33.9	30,201	60.9	2,567	5.2
40	76,571	21,738	28.4	51,641	67.4	3,192	4.2
45	139,368	40,389	29.0	94,049	67.5	4,930	3.5
50	195,917	60,982	31.1	127,538	65.1	7,300	3.7
55	223,241	64,984	29.1	148,024	66.3	10,233	4.6
60	248,626	63,397	25.5	172,516	69.4	12,713	5.1
平成2年	281,523	55,295	19.6	209,550	74.4	16,678	5.9
7	296,601	48,184	16.3	226,220	76.3	22,197	7.5
12	308,077	46,268	15.0	230,870	74.9	30,939	10.0
17	317,731	46,295	14.6	226,828	71.4	44,608	14.0
22	325,862	45,927	14.1	218,032	66.9	61,903	19.0
27	333,736	44,984	13.5	211,785	63.5	76,967	23.1
30	340,862	44,892	13.2	212,232	62.3	83,738	24.6

資料：昭和55年以前は国勢調査(各年10月1日)。60年以降は埼玉県町(丁)字別人口調査(各年1月1日)

(注)総数には「年齢不詳」を含む。したがって、3区分人口の合計とは一致しない。

産業別事業所割合

(単位：件、%)

産 業	昭和35年		平成3年		平成26年	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
総数	1,717	100.0	11,994	100.0	11,554	100.0
卸売・小売業、飲食店	829	48.3	4,907	40.9	4,461	38.6
製造業	420	24.5	2,019	16.8	1,105	9.6
サービス業	332	19.3	2,843	23.7	3,610	31.2
建設業	96	5.6	1,133	9.4	1,063	9.2
その他	40	2.3	1,092	9.1	1,315	11.4

資料：事業所・企業統計調査、経済センサス-基礎調査

(注)昭和35年・平成26年は7月1日。

(注)事業所・企業統計調査に代わって実施される経済センサスは、2～3年に一度の周期で実施している。

労働力人口年齢別構成

(単位：人)

年 齢	昭和45年	平成27年
総数	66,675	167,115
15～19歳	4,501	2,548
20～24歳	10,828	10,859
25～29歳	11,479	13,739
30～34歳	11,896	15,280
35～39歳	9,138	18,033
40～44歳	6,112	23,678
45～49歳	4,024	20,917
50～54歳	3,086	16,615
55～59歳	2,587	13,533
60～64歳	1,730	12,806
65歳以上	1,294	19,107

資料：国勢調査(各年10月1日)

工場数

(単位：件、人)

年 次	工場数	従業者数
昭和33年	252	1,498
40	622	9,165
50	652	14,341
60	763	13,970
平成7年	763	12,389
17	576	10,719
26	408	9,341

資料：工業統計調査(各年12月31日)

(注)昭和50年以降は従業者数4人以上の事業所のみを集計している。

農家数・農家人口

(単位：戸、人)

年次	農家数					農家人口		
	総数	専業	兼業	第1種兼業	第2種兼業	計	男	女
昭和35年	4,123	1,644	2,479	1,481	998	27,571	13,569	14,002
40	3,803	962	2,841	1,652	1,189	25,052	12,383	12,669
45	3,416	597	2,819	1,226	1,593	21,307	10,473	10,834
50	3,013	424	2,589	888	1,701	17,781	8,757	9,024
55	2,661	345	2,316	716	1,600	15,072	7,439	7,633
60	2,461	238	2,223	500	1,723	13,460	6,663	6,797
平成2年	2,272	267	2,005	166	1,839	12,009	5,946	6,063
7	1,970	206	1,764	269	1,495	9,794	4,872	4,922
12	1,694	196	1,077	153	924	8,179	4,108	4,071
17	1,414	203	884	96	788	6,360	3,179	3,181
22	1,323	191	650	99	551	3,694	1,852	1,842
27	1,217	212	463	76	387	2,589	1,290	1,299

資料：農林業センサス(各年2月1日)

(注)平成12年調査から販売農家にのみ専業・兼業別を調査している。したがって専業と兼業の合計は総数とは一致しない。

(注)平成22年調査から農家人口は販売農家のみの集計値となっている。

商店数・年間商品販売額と従業者数

(単位：件数、人、億円)

年次	総数	卸売業	小売業	従業者数	年間商品販売額
昭和33年	749	1,864	24
41	1,194	179	1,015	3,595	201
45	1,633	173	1,460	5,304	369
49	2,072	220	1,852	7,293	886
54	2,611	317	2,294	10,029	2,007
60	2,929	464	2,465	13,178	3,727
平成3年	3,376	794	2,582	23,288	8,305
9	3,104	675	2,429	21,003	8,036
14	2,824	650	2,174	21,811	7,049
19	2,563	579	1,984	21,926	7,426
23	2,109	491	1,618	18,121	7,155
26	2,134	484	1,650	18,687	7,272
28	2,397	537	1,860	21,992	8,225

資料：商業統計調査、経済センサス-活動調査(各年6月1日)

(注)平成23年は24年2月1日、26年は7月1日現在。

(注)平成23年・28年分は「経済センサス-活動調査」の調査結果のうち、管理、補助的経済活動のみを行う事業所、産業細分類が格付不能の事業所、卸売の商品販売額(仲介手数料を除く)、小売の商品販売額および仲介手数料のいずれの金額も無い事業所は含まない。

(注)平成26年は、日本標準産業分類の第12回改定および調査設計の大幅変更に伴い、19年調査の数値とは接続しない。

各駅別1日平均乗車人員

(単位：人)

年度	総数	蒲生	新越谷	越谷	北越谷	大袋	せんげん台	南越谷	越谷 レイクタウン
昭和33年度	9,126	1,010	-	6,112	1,280	723	-	-	-
38	19,973	3,466	-	12,246	2,754	1,507	-	-	-
43	49,391	10,688	-	19,049	9,043	5,256	5,356	-	-
49	86,661	12,740	5,258	26,466	14,867	10,737	10,284	6,309	-
53	112,096	11,371	16,100	26,684	16,728	11,547	14,228	15,438	-
58	136,192	11,186	25,131	27,393	17,652	11,372	21,246	22,212	-
63	182,602	12,389	37,818	30,169	21,675	12,094	30,495	37,962	-
平成5年度	215,182	12,566	47,723	30,615	25,030	12,495	33,860	52,893	-
10	216,506	9,653	53,925	25,995	23,728	10,859	32,361	59,985	-
15	219,877	8,577	60,200	22,532	24,467	9,607	31,153	60,341	-
20	226,826	8,566	66,236	23,077	26,592	9,295	31,425	64,635	-
25	260,825	8,577	71,503	24,130	26,613	8,915	30,662	70,818	19,607
29	272,552	8,817	74,130	24,989	26,406	9,218	29,271	74,191	25,530

資料：埼玉県統計年鑑、東武鉄道(株)、東日本旅客鉄道(株) 平成29年度は各駅調べ
 (注)昭和33年・43年度は「埼玉県統計年鑑」から算出
 (注)越谷レイクタウン駅は平成20年3月開業

ごみ収集量(家庭系)

(単位：t)

年度	総量	収集量			市民一人当たり ごみの量(kg)
		可燃物	不燃物	資源物	
昭和43年度	6,860	65.0
48	27,047	21,661	5,386	...	156.7
53	36,487	28,600	7,887	...	175.8
58	47,582	37,460	10,122	...	201.3
63	68,706	56,885	11,821	...	252.6
平成5年度	78,301	65,564	12,737	...	268.6
10	85,333	75,655	9,678	...	282.2
15	87,936	76,072	8,812	3,052	279.5
20	77,833	66,399	3,813	7,621	242.6
25	74,559	63,063	3,467	8,029	225.6
29	72,492	62,080	3,276	7,136	213.4

資料：リサイクルプラザ
 (注)昭和43年度については、4月1日から12月31日まで。

都市公園

(単位：ha)

年度	供用面積
昭和56年度	36.24
59	39.54
62	42.48
平成2年度	45.01
5	57.65
8	65.87
11	66.75
14	68.15
17	76.89
20	78.13
23	82.77
26	85.55
29	87.61

資料：公園緑地課(埼玉県公園調書)(各年3月31日)

公共下水道

各年度末

年度	供用開始面積 (ha)	行政人口 (人)	処理人口 (人)	処理世帯 (世帯)	普及率 (%)	水洗化率 (%)	未水洗化人口 (人)
昭和58年度	94.00	243,328	6,453	1,942	2.65	35.43	4,167
61	211.60	264,487	19,297	6,285	7.30	68.17	6,142
平成元年度	1,072.00	281,623	96,382	32,463	34.22	69.92	28,996
5	1,848.18	294,257	180,105	64,344	61.21	76.85	41,703
10	2,259.07	305,566	224,585	83,669	73.50	85.08	33,503
15	2,499.16	316,466	248,297	98,299	78.46	88.96	27,403
20	2,622.15	323,886	264,216	110,507	81.58	92.66	19,394
25	2,736.54	332,745	275,093	118,553	82.67	94.11	16,206
29	2,767.14	341,095	284,200	127,298	83.32	95.52	12,743

資料：下水道課(各年3月31日)
 (注)1. 公共下水道は昭和58年4月1日から供用開始。
 2. 普及率=処理人口÷行政人口×100

全人口に占める65歳以上人口の割合

(単位：人、%)

年次	全国			埼玉県			越谷市		
	総数	65歳以上人口		総数	65歳以上人口		総数	65歳以上人口	
		実数	割合		実数	割合		実数	割合
昭和35年	9,430	540	5.7	2,430,871	133,006	5.5	49,585	2,567	5.2
40	9,921	624	6.3	3,014,983	157,685	5.2	76,571	3,192	4.2
45	10,467	739	7.1	3,866,472	198,589	5.1	139,368	4,930	3.5
50	11,194	887	7.9	4,821,340	256,014	5.3	195,917	7,300	3.7
55	11,706	1,065	9.1	5,420,480	333,874	6.2	223,241	10,233	4.6
60	12,105	1,247	10.3	5,863,678	420,099	7.2	253,479	13,534	5.3
平成2年	12,361	1,489	12.0	6,405,319	530,539	8.3	285,259	17,756	6.2
7	12,557	1,826	14.5	6,759,311	681,172	10.1	298,253	23,581	7.9
12	12,693	2,200	17.3	6,938,006	889,243	12.8	308,307	33,353	10.8
17	12,777	2,567	20.1	7,054,243	1,157,006	16.4	315,792	47,559	15.1
22	12,806	2,925	23.0	7,194,556	1,464,860	20.4	326,313	64,514	19.8
27	12,709	3,347	26.6	7,266,534	1,788,735	24.8	337,498	80,330	23.9
30	12,659	3,523	27.8	7,362,941	1,877,316	25.5	340,862	83,686	24.6

資料：平成27年以前は国勢調査(各年10月1日)

平成30年の埼玉県・越谷市については「埼玉県町丁目別人口調査人口」(1月1日)

平成30年の全国については「人口推計月報」(1月1日)

(注)国勢調査の総数は年齢不詳を含む。全国の総数、実数は、単位が万人。

主な死因別人口10万対死亡率

死因	昭和35年	昭和58年	平成20年	平成28年
悪性新生物	86.7	92.1	206.9	252.6
心疾患	82.7	55.0	109.2	126.7
脳血管疾患	223.8	64.5	61.8	63.8
老衰	52.4	6.6	8.4	37.6
不慮の事故	40.3	19.4	14.4	20.6

資料：埼玉県保健統計年報(各年10月1日)

児童の平均身長・体重

(単位：cm、kg)

年次	小学6年生 男子		小学6年生 女子	
	身長	体重	身長	体重
昭和33年	135.0	29.9	136.3	31.0
58	143.0	36.4	145.1	37.7
平成20年	145.2	39.0	146.5	38.8
30	145.1	38.4	146.9	39.1

資料：昭和33年は学校基本調査における県平均(各年5月1日)

昭和58年以降は学校課

小学校・中学校

(単位：校、人)

年次	小学校		中学校	
	学校数	児童数	学校数	生徒数
昭和33年	10	7,413	9	2,610
43	12	9,414	5	4,007
53	25	27,513	10	9,897
63	28	24,313	15	15,092
平成10年	29	17,918	15	9,510
20	30	18,816	16	9,052
30	30	18,019	16	8,937

資料：学校基本調査(各年5月1日)

(注)私立を含む。

図書館

(単位：冊)

年度	蔵書冊数	貸出冊数
昭和33年度	4,400	13,222
43	19,308	19,871
53	55,857	191,996
63	240,558	575,713
平成10年度	439,894	1,503,036
20	545,567	1,497,694
29	652,552	1,781,877

資料：図書館要覧

- (注)1. 昭和33年度については、4月1日から11月3日まで
2. 北部市民会館図書室、南部図書室、移動図書館、市民活動支援センター 中央図書室を含む。

公民館(地区センター)利用者数

(単位：人)

年度	利用者数
昭和45年度	26,044
50	261,680
55	516,558
60	509,731
平成2年度	502,992
7	540,563
12	582,211
17	688,295
20	716,816
25	740,575
29	701,674

資料：生涯学習課

交通事故

(各年中) (単位：件)

年次	総事故件数	人身事故			物損事故
		件数	死者	傷者数	
昭和33年	160	...	19	164	...
38	615	...	15	365	...
43	1,332	777	34	1,049	555
48	1,830	937	23	1,237	893
53	1,909	766	15	967	1,143
58	3,155	957	13	1,184	2,198
63	4,882	1,049	27	1,310	3,833
平成5年	6,756	1,100	17	1,447	5,656
10	7,819	1,778	12	2,285	6,041
15	8,448	2,103	13	2,614	6,345
20	6,706	2,105	7	2,469	4,601
25	7,208	1,702	9	2,057	5,506
29	7,663	1,124	10	1,348	6,539

資料：くらし安心課(越谷警察署)

救急車の出動

(単位：件)

年次	総数	内訳			
		急病	交通事故	一般負傷	その他
昭和37年	154	23	111	13	7
40	820	351	317	68	84
45	2,333	1,180	698	241	214
50	3,451	1,743	641	392	675
55	4,095	1,953	901	487	754
60	5,234	2,226	1,344	503	1,161
平成2年	6,141	2,884	1,642	553	1,062
7	7,103	3,486	1,686	658	1,273
12	9,192	4,710	1,879	1,007	1,596
17	11,692	6,781	1,834	1,357	1,720
22	12,611	7,598	1,648	1,614	1,751
27	14,001	9,147	1,399	1,898	1,557
29	15,769	10,438	1,397	2,186	1,748

- 資料：1. 昭和44年以前については市勢要覧「こしがや1970」
2. 昭和45年～63年については「越谷市消防史-30周年記念-」
3. 平成2年以降は消防本部

編集を終えて

ここに、越谷市制施行60周年記念誌を編集し皆さまにお届けすることができました。多くの方々から貴重な資料・写真などの提供やご意見を賜りました結果と心よりお礼申し上げます。

編集にあたり、今日まで越谷市の発展にご尽力された先人の方々の熱意や努力、さらに築かれた歴史をふまえ、この10年の歩みを振り返り、未来へ向かって大きくはばたき発展する「水と緑と太陽に恵まれたまち 水郷こしがや」をイメージすることをコンセプトに取り組みました。

未来を担う小中学生が、絵画・作文を通して、ふるさとへの思いを熱くし、ますます大きく羽ばたき活躍してくださることを祈念し、さらに、手に取っていただいた方が郷土への愛着や誇りを持ち、郷土への理解を深めていただけるような内容を目指し編集いたしました。

市制施行60周年記念事業推進市民委員会記念誌・広報部会は、各分野から豊富な知識と豊かな経験を持った面々の集まりであり、活発に意見交換をし、英知を集め編集にあたりました。不慣れな部長を支えてくださった部会員の皆さまにこの場をお借りしてお礼と感謝を申し上げます。

最後になりましたが、本記念誌の編集にあたり、ご支援ご協力を賜りました関係の皆さま、事務局の皆さまに心よりお礼を申し上げ編集後記とさせていただきます。

越谷市制施行60周年記念事業
推進市民委員会 副委員長
記念誌・広報部会 部長
会田 容子

◆主な参考資料

- 越谷市制施行40周年記念誌
- 越谷市制施行50周年記念誌
- 広報こしがや
- 越谷市勢要覧

越谷市伝統的手工芸品ガイドブック

KOSHIDEN 越伝

- 越谷市統計年報

*このほか、市発行のパンフレット、各種団体

発行の記念誌などを参考にしました

◆記念誌・広報部会（五十音順・敬称略）

部長 会田 容子
副部長 中村 譲二

会田 皓章	会田 雄一
白井 朗	川島 健司
栗原 照雄	栗原 吉勝
小関 明彦	高橋 友哉
田端 功政	山崎 弘英
吉村 幸子	

事務局・市長公室広報聴課

◆過去の越谷の写真を

提供いただいた方（五十音順・敬称略）

安藤 一枝	小川登美江
桑原 進	鈴木 康央
関根 芳孝	

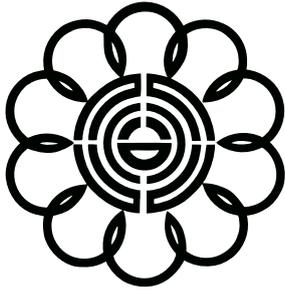
*50周年記念誌に掲載の写真を使用させていただいた方のお名前は省略しています

越谷市制施行60周年記念誌

発行日 平成30年11月
企画・編集 越谷市制施行60周年記念事業
推進市民委員会 記念誌・広報部会
発行 越谷市

〒343-8501
埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号
☎048(964)2111(代表)
望月印刷株式会社 越谷事業所
*掲載した写真の複写・転載を禁じます

● 市章



10個の外輪は、合併した2町8カ村を表し、中央にカタカナの「コ」の字を4つ集めて「越」の意味、中心は「谷」の文字を図案化しました。この図案は町村合併後に、町章として町民の皆さんから募集したもので、昭和30年1月10日に制定しました。その後、市制施行とともに市章となりました。

● シンボルマーク



「水郷こしがや」と親子のシラコバトが未来にはばたく様子を表現しています。市民の皆さんとともに暮らしやすいまちづくりを進めるためのシンボルとして、全国公募の中から市民投票によって選ばれました。

平成10年11月3日選定

市制施行 60 周年記念

● ロゴマーク (高田伸一さん 作)

市民の皆さんから募集し、応募のあった63作品から、市民委員会による選考と市民投票によって選ばれました。

笑顔の越谷市民と文化と自然が調和しながら、次世代へつながる道が上に伸びている姿を図案化しました。緑色は越谷市民の文化創造を、青色是水郷こしがやの豊かな自然を象徴しています。

● キャッチフレーズ (倉科さん 作)

市民の皆さんから募集し、応募のあった52作品から、市民委員会による選考で選ばれました。

市民とともに歩んできた60年の節目を喜び祝うと同時に、みんな(市民)=越谷(市)が、さらなる飛躍を遂げるよう、未来に向かって市の鳥(シラコバト)のように羽ばたくイメージです。



60年 はばたけ未来へ
みんなの越谷



市の木 ケヤキ

昭和53年11月3日制定



市の花 キク

昭和53年11月3日制定



市の鳥 シラコバト

昭和63年11月3日制定

● 越谷市の歌

椎木一男 作詞 / 宮沢章二 補作 / 奥村 一 作曲

市ホームページに、「越谷市の歌」の音楽ファイルと楽譜を掲載しています。



一、流れ 幾すじ 波おどり
空へ舞い立つ しらこばと
歌おう 望みを よろこびを
水と みどりと 太陽の
わが市 わが町 越谷よ

二、花のいのちに 飾られて
愛が かおるよ 人の輪に
生きる日 励む日 夢みる日
共に 根を張り 幸を生む
わが市 わが町 越谷よ

三、昇る朝日の ほほえみは
今日と 明日を むすぶ虹
ひかりを集めて さわやかに
老いも 若きも 肩を組む
わが市 わが町 越谷よ

昭和53年11月3日制定

